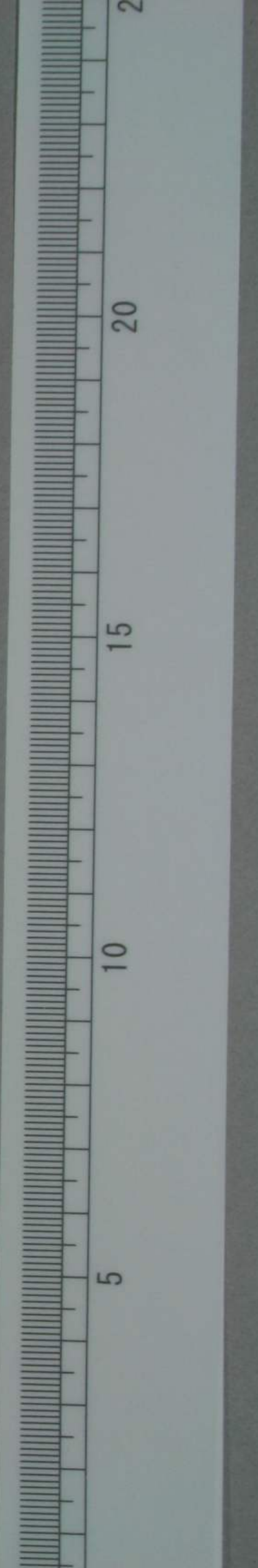
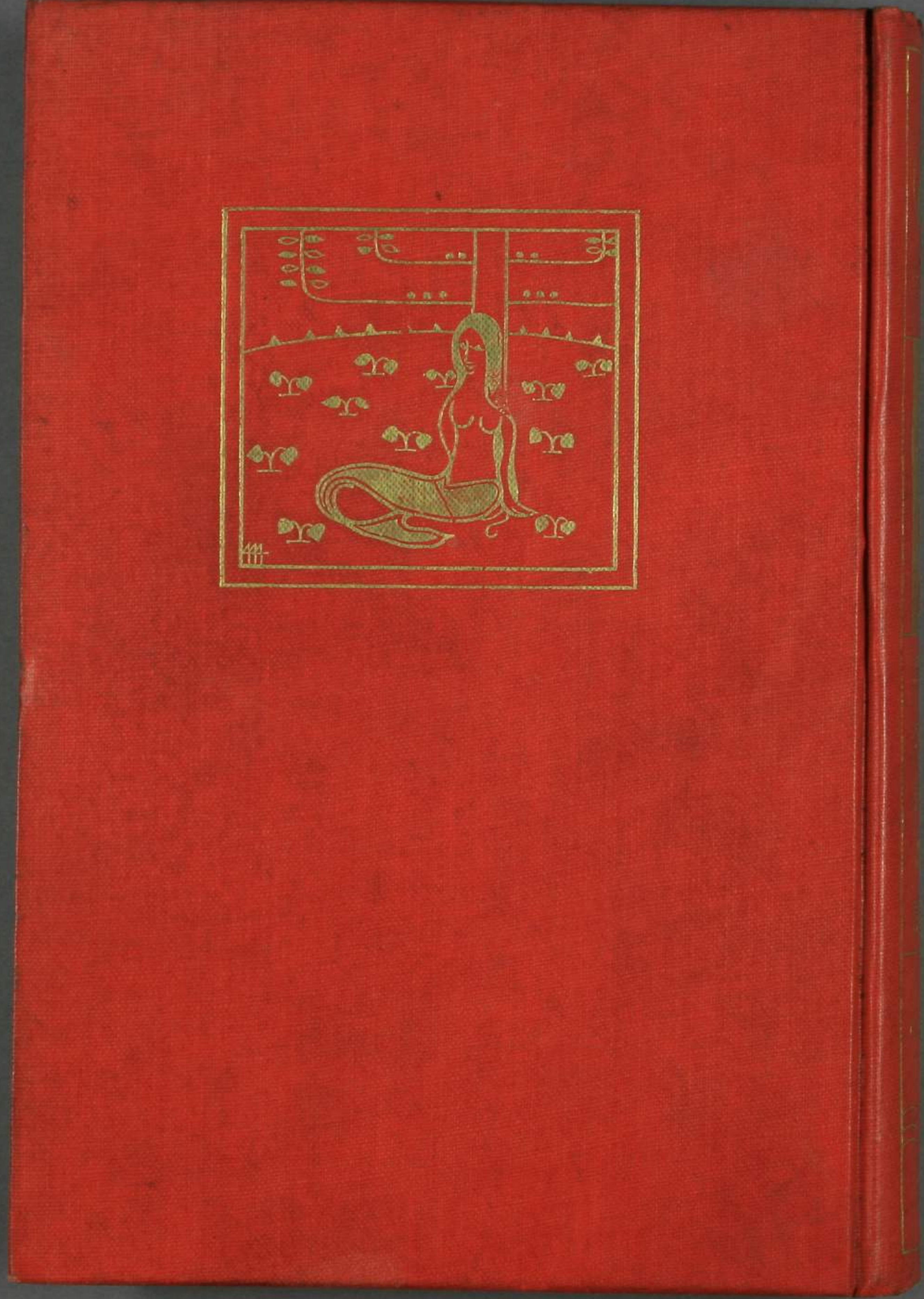


Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
Munsell Color Services
© The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT

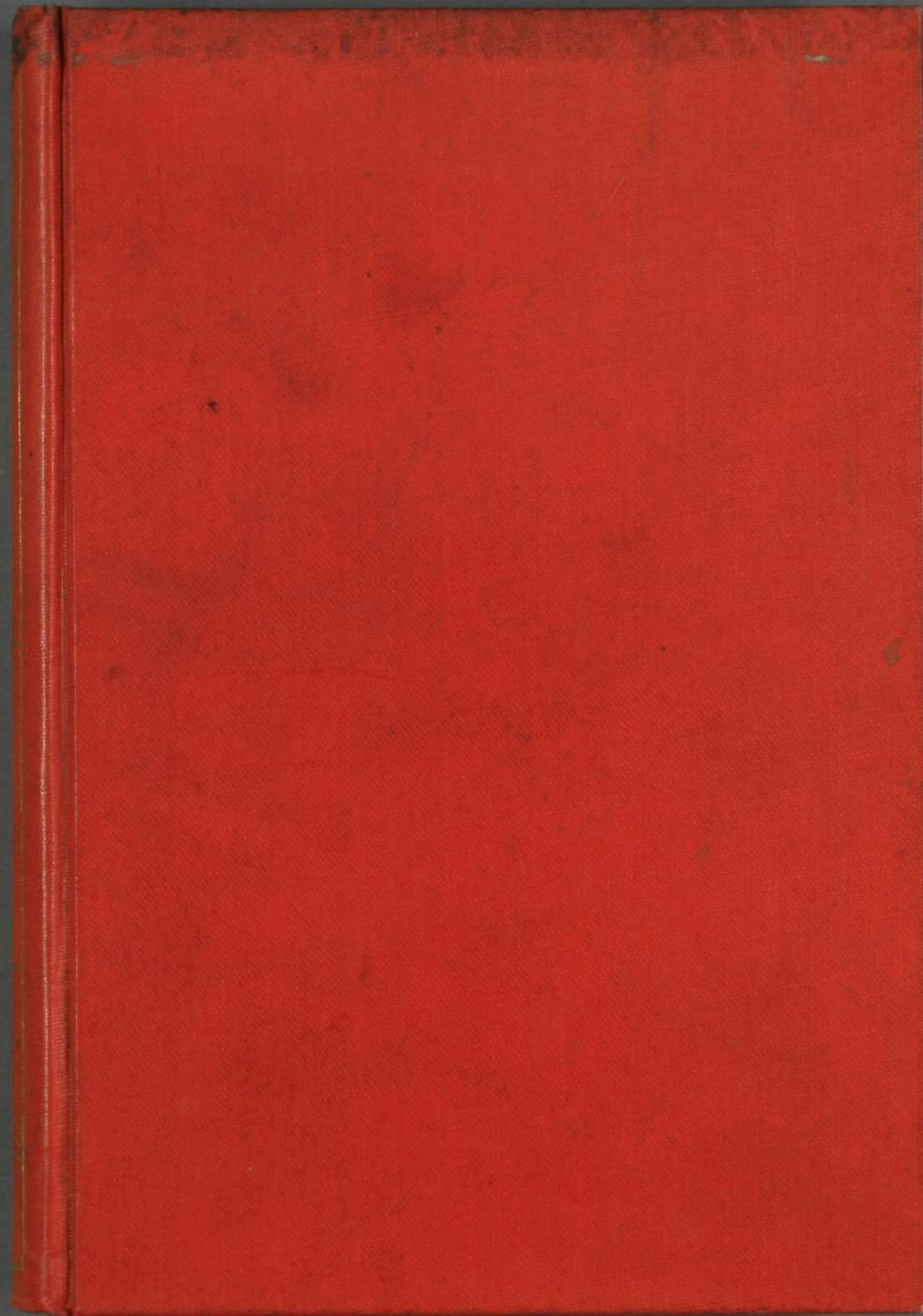




海の夫人

島イ
村ブ
抱セ
月ン
譯作







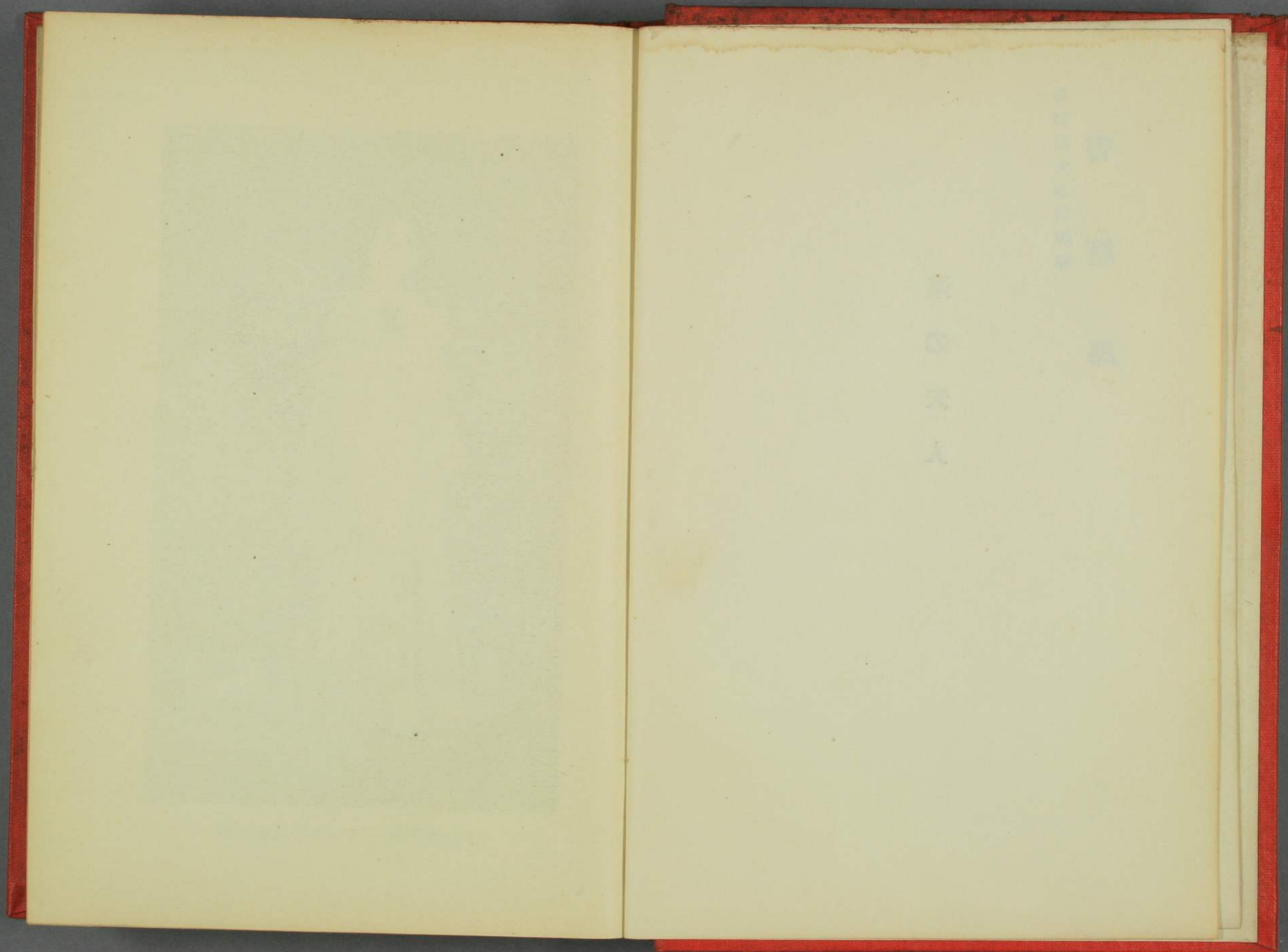
海の夫人

早稲田大學出版部

書

籍

課



イブセシヤノ作楽

海の人夫

島村抱月譯



早稲田大學出版部發行



(松井須磨子) 海の人夫

集作傑ンセブイ

人夫の海

譯月抱村島



行發部版出學大田稻早



(子磨須井松) デーリエ人夫の海

緒言

『海の夫人』は千八百八十八年十一月、イブセンが六十歳の時の作で、『人形の家』を出してから九年目にあたる。

『海の夫人』の原名は、直譯すれば、むしろ『海からの夫人』または『海からの女』である。けれども今では『海の夫人』の方が廣く耳なれてもゐるし、稱呼としても簡潔である。且つ、『の』も、からも日本語は言ふに及ばず、洋語でも相通することが出来る。現に “Ernen fra Havet” は、すぐに “Havfrue” であり “The Lady from the Sea” は “Sea-lady” 又は “Sea-wife” であるのだから、『海の夫人』で差支ないわけである。

ノルウェー語で『海の夫人』といへば、其の同じ言葉がすぐ『人魚』といふ意

味になつて、「人魚」といふ言葉のうしろには、昔々海を見棄て、哀れな最後を遂げた海の女性の傳説が連想せられるのであるが、そんな複雑な意味は到底譯語には現はれない。

此の劇はイブセンの作中で最も多方面なものゝ一つで、第一には彼れが後期の社會劇中唯一の喜劇である。第二には彼れが晩年の作に見はれた象徴的神秘的またはロマンチックな色彩を最も早く最も多く帯有した作である。第三には作中の思想として夫の『人形の家』『幽霊』等の續篇とも見られる程に婦人問題、結婚問題、戀愛問題が骨子となつてゐる。第四にはイブセンの他の作に多く見られない自然界の空氣が舞臺の上に導かれてゐて、五幕のうち四幕まですべて戶外の場面になつてゐる。第五にはその自然界でも北の海といふ一種特別のものを選んで、その中に自由とか神秘とかいふものを寓しやうとしてゐる。

第六には喜劇として雷に結末がめでたく終つてゐるのみでなく、全篇に滑稽を點出して舞臺面を沈鬱に過ぎないやうにしてゐる。第七には繼母と繼娘との仲などの微妙な人情を描く點で殆ど人情小説のやうな味を持つてゐる。

たゞ此の作全體の組立については、稱讚するものと批難するものと、兩方の見かたがある。例へばゴッス氏(Edmund Gosse's "Northern Studies")リー夫人(Mrs. J. B. Lee's "The Ibsen Secret")等の如く、全篇を詩として美しい光輝あるものとして推稱するものと、アーチャー氏(W. Archer's "The Play Making")マクフォール氏(H. Macfall's "Ibsen")等の如く、舞臺に登す劇として力の弱い所があると批難するものといづれも當つた批評である。西洋で此の劇を舞臺に登した結果もまた二様であるらしい。イギリスは前後二回とも餘り好成績でなかつたが、ドイツ及び作者の本國で

は、非常の喝采を得て、彼れが作中最も人氣のある劇の一つになつたと
ゴッス氏が記してゐる(H. Gosse's "Ibsen")。

此の劇が初めて舞臺に上つたのは、千八百八十九年二月十二日クリス
チアニアに於いて、あつてイブセンのいふ所に従へば、非常の稱讃を
博したといふ。ドイツでは同年三月四日ベルリンに於いて、あるが
その時のイブセンみづからの註文が友人のホフフォーリ(Julius Hofory)教
授に送つた手紙に見えてゐる。其の一節に、「番組の中へ一海員とか他
國の船員とか一舵手とか書くのは不同意です。十年前エリーダが其
の男に逢つた時は二等運轉士だつたが、七年後には普通の水夫長とし
て雇はれて、段々目だゝないものになり、今は回航船の一乗客として現
はれて來たのです。船手ではありません。何處を宛ともなく旅行す
るものゝ服装で、たゞの旅客の服装でもありません。何んな人だか何

といふ名だか、少しも分らない。此の茫漠とした所が即ち私の此の
場合に特に選んだ特色です。アンノー氏(監督)が此の點に注意して稽
古をして呉れないと、此の劇の本當の感じが失はれる恐れがあるので
す」と書いてある。ついでワイマーで演せられたのには満足したと
見えて、別の手紙に、其の時の他國人は最上の出來だつたと書いて、「春の
高い、瘦せた、鷹のやうな顔、突きさすやうな眼、素ばらしい深い沈んだ聲」
であつたと説明してゐる("Ibsen's Speeches and New Letters")。

イギリスでは千八百九十一年五月十一日エーヴリング博士(Dr. Aveling)
の監督の下に初めてロンドンのテリー座で演せられたが、五日だけし
か續かなかつたといふ。アーチャー氏は演出法が拙であつたと評して
ゐる。千九百二年五月に舞臺協會が同じくロンドンのロヤルチー座
でやつた時は、初めて『人形の家』のノラに成功した有名な女優ゼネット、エ

チャーチ(Janet Achurch)がエリーダに扮し、ローレンス、アーヴキング(Laurence Irving)が他國人に扮し、ノーマン、マッキンネル(Norman McKinnel)といふのが
ヴンダに扮してゐる。

我が國では『藝術座』が大正三年一月十七日から十五日間東京有樂座で
チェホフの『熊』と共に此の劇を演じた。其の役割は

- エリーダ……………松井須磨子
- ヴンダ……………中井哲
- 他國人……………澤田正二郎
- アルンホルム……………宮島文雄
- リングストランド……………田中 介二
- パレストッド……………田邊若男
- ……………倉橋仙太郎
- ……………波多讓

- ポレッタ……………波野雪子
- ヒルダ……………川路歌子

『海の夫人』の腹案は早くからイブセンにあつたものと見え、その初稿は
千八百八十年に端を發してゐる。それから千八百八十六年の夏には
ノルウェーのモルデといふ海濱の小町にゐて海に親しみ、翌年の夏はデ
ンマルクのジッタランドのセイビーといふ海濱町にゐて、フレデリック
スハーヴンといふ港に好んで散歩などし、其の邊で同じく海や船や漁
夫やに親しんだ。此のあひだに『海の夫人』の具體的な材料が調つたの
である。イブセンはアーチャー氏への手紙か何かの中に、今度は一つお
どけたもの(Tonfoolery)を書いて見る」と言つてゐる。ゴッス氏の記すると
ころによると、アーチャー氏は此のころイブセンをセイビーに訪問した
が自分は一二年後フレデリックスハーヴンでイブセンに關する逸話を

聞いた。彼れはいつも両手を後ろに組み、フロクコートFlouk-coatの釦をしつかりとかけ、何時間となくフレデリックスハーグンの海岸を獨りで大股にテクリ／＼とあるいて、その恐るべき瞑想に耽つてゐたといふ。それから二年たつて『海の夫人』が出来たのである。

此の書の翻譯は、イギリス文ではエーヴリング夫人(Mrs. E. Marx Aveling)のもの、クララ・ベル(Olara Bell)のもの、ジー、アール、カーペンター氏(G. R. Carpenter)のもの及びエフ、イー、アーチャー夫人(Mrs. F. E. Archer)のもの、四種が同じ千八百八十九年から千八百九十年にかけて出た。此の最後の譯がアーチャー氏監修の『イブセン散文劇集』に出てゐるものである。私の譯は、是れを基にして、エム、フォン、ボルヒ氏(M. von Borch)の獨譯を参照した。

大正三年二月

抱 月 生 識

海の夫人

(Frønen fra Havet = The Lady from the Sea)

人物

醫師ヴァンゲル(地方の醫師)〔Vangel〕
夫人エリーダ(ヴァンゲルの妻)〔Ellida〕
ボレット(ヴァンゲルの先妻の娘)〔Boletta〕
ヒルダ(同前)〔Hilda〕
アルンホルム(教師)〔Arnholm〕
リングストランド〔Lyngestrand〕
パレストッド〔Palsted〕
他國人
町の若い人、旅客、避暑客等

場所

北ノルウエーの峽灣に濱した小さい町

時

夏

第一幕

左、大きな外廊ウエランダの附いたヴァンゲルの家、前及周圍は庭、外廊の近くに一本の旗竿が立つてゐる。右手、庭に四阿あづまがあつて、テーブルと何脚かの椅子が具へてある。後は生垣で小さい木戸がついてゐる。生垣の後から一筋の路が海濱に通じ、路の兩側に並木が立つて居る。其の間から峽灣フヨルダの景色が見え、また遙かの向ふには高い山脈や山嶺が見える。温かに輝きわたる朝はからかな夏の朝である。
パレストッド、中年、古びた天鵞絨ジャケットの短衣を着、鏝の廣い美術家帽を冠つて、旗竿の傍に立ち、旗綱を案排してゐる。旗は地上に落ちてゐる。少し離れて、畫布を張つた畫架が据えてある。其のそばの疊床几の上には幾本かの刷毛調色板、繪具箱。
ボレット、庭に面した室の、明いたまゝの戸口から外廊に出て来る。持つて来た大きな瓶に花の生けてあるのをテーブルの上に置く。

ボレッタ 何うして？ パレストテッドさん——うまく上つて？

パレストテッド え、え、あなた、雑作はありません——何ですか、今日は、お客様なんですか？

ボレッタ さうなの、アルンホルムさんが今朝見える筈ですよ、昨夜お着きになつたのですから。

パレストテッド アルンホルム？ 待つて下さい——アルンホルムといふと、あの先生の事ですか、そら、何年前前にこちらでああなたの家庭教師をしてゐらつしやつた？

ボレッタ さうですよ、あの方ですよ。

パレストテッド あ、さうですか。また此の土地へ入らつしやつたんですね？

ボレッタ それで旗を上げやうといふの。

パレストテッド なるほど、さういふ譯ですか。

ボレッタはまた室内にはいる。と、すぐリングストランドが路を通つて右手から現はれ、畫架や畫具を見つけ、興味を覺えて立ち止まる。粗末ではあるが、さつぱりした身なりで、弱々しい、きやしやな體つきをした若者である。

リングストランド（生垣の外で）お早う。

パレストテッド（ふり返つて）や、お早う。（旗を上あげる）さうら——どん

く上つて行く！（綱を結びつけ、忙しげに畫をかきはじめる）お早うさん。

失禮ですが何方でしたか、まだ——

リングストランド 君は畫家でゐらつしやるのでせう？

パレストテッド さうですとも。畫家でなくてどうするものですか。

リングストランド あ、さうでせう——一寸這入つてもいいでせうか？

パレストテッド 此の畫が見たいのかね？

リングストランド え、是非拜見したいのです。

パレステッド まだ、物になつちやゐないんです。併し、まあお這入んなさい——構はず、這入つていらつしやい。

リングストランド どうも有難う(庭の入口からはいる。)

パレステッド (畫を書き乍ら) 今描いてるのは、向ふの峽灣です、島と島の間。

リングストランド さうのやうですね。

パレステッド 併しまだ人物を入れないのです。町中探したつてモデルになるやうな者がいないんだからね。

リングストランド あ、人物が入るんですか？

パレステッド さうです。此の前景の岩の所へ。人物と言つても、半分死にかゝつた人魚を置きたいと思ふんです。

リングストランド 何うして死にかゝつたのをです？

パレステッド 沖から紛れ込んで来て、歸ることが出来ないので、この鹽からい水につかつたまゝ一寸々死んで行くといふのです。

リングストランド あ、さういふのですか？

パレステッド 僕にその意匠を授けて呉れたのは、この家の夫人なのです。

リングストランド 出来あがつたら、何といふ題になるのでせう？

パレステッド さうさね僕は『人魚の最後』といふ題にしやうと思つてゐます。

リングストランド それはいゝ——屹度好い作になるでせう。

パレステッド (相手を見て) 君も此の方をやるんだね？

リングストランド 畫をですか？

パレストテッド 晝をさ。

リングストランド いゝえ、僕は晝はかきませんが、彫刻家にならうと思つてゐるんです。ハンス、リングストランドと言ふ者です。

パレストテッド 彫刻家になるんですか君は？ 好いね、彫刻も立派な、いきな藝術だ。——僕は一二度君を町で見かけたやうに思ふがもう長く此の土地に滞在しておいでですか？

リングストランド いえ、まだ二週間にしかありませんが夏中ずっと居て見たいと思ひます。

パレストテッド 海水浴の楽しい気分を味ふといふ譯だね、えゝ？

リングストランド 僕のは、もう少し氣力を回復したいためですよ。

パレストテッド 身體虚弱といふのかね？

リングストランド えゝ、少しばかり其の方ですが、でも心配するほどぢや

ないんです。たゞ少し呼吸が苦しいだけですから。

パレストテッド なあんだ——それつばかりの事か！ だが、やつぱり良い

醫者には診て貰ひ給へよ。

リングストランド 僕も、折があつたら、一度ヴングル先生に診て戴かうと思つてゐます。

パレストテッド あゝ、さうなさい。(左の方を見て) 又汽船がはいつて來る。お客で一ぱいだ。實に驚くね、この四五年、旅行の盛んになつた事つたら。

リングストランド さうですね、随分と交通が盛んなやうですね。

パレストテッド それから避暑客で町は一杯だ。僕は時々心配するんだが、かう出這入りが烈しくつちや此の結構な町の特徴が無くなつてしまやしないか。

リングストランド 君は此の土地のお方ですか？

パレストッド いや、さうぢやない。併し僕はもう此の土地にアツクラ
——アツクリマタイズしてゐるんです。同化してゐるんです。時
と習慣の力で引き付けられちやつたのです。

リングストランド ぢや、長くこちらに住んでゐらつしやるのですか？

パレストッド さうさ、十七八年になりませう。僕はもとシイヴェ一座
の演劇團に加はつて來たのですよ。それが君儲からなくて、御難と
來たから、とう／＼散り／＼ばら／＼さ。

リングストランド でも君だけは留まつたといふ譯ですか。

パレストッド 僕は留まつたさ。僕はさう困りあしないんです。重に
背景の方をやつてゐたんだからね。

(パレストッド 椅子を携へて出て來り、外廊に置く。)

ホレツタ (室の方へ話しかける) ヒルダや——そつちに繡のしてある足臺
があつたらお父さんの分ぶんに持つて來てお上げな。

リングストランド (外廊の方へ行き腰をかどめ辭儀をして) お嬢さん。お早う
御座います。

ホレツタ (網てすりの所で) あ、あなたでしたかリングストランドさん？ お早う
御座います。ちよつと御免ごめん下さいな——私わたしちよつと——(家の中へ
這入る)

パレストッド 君は此の家を御存じかね？

リングストランド 知つてるといふ程でもないのですが、令嬢たちに他の
家で一二度逢つた事があります。それから、奥さんとも此の前見晴
しで音楽のあつた時お近づきになつて、遊びに來るように言つて下
すつたのです。

パレストッド それだ君。——此の家と懇意にして置かなくちやうそだよ。

リングストランド ですから、一度おたづねしやうと思つてゐたのです——たゞ一種の訪問でいゝのですからね。何か好い口實がありさへすれば——

パレストッド 馬鹿な、口實なんか——（左方を見る）——大變々々！（道具を片付ける）汽船がもう埠頭へ横付けになりやあがつた。僕はすぐホテルへ行かなくちや。新しく着いたお客が僕を探してるだらうから。ねえ君、僕はこれで斬髪屋もやるんたからね。

リングストランド 君は中々器用だと見えますね。

パレストッド そこがアツク——クリマタイズする必要なのだ、郷に入つては郷に従へで、こんな狭い土地だと、何んな職業にでも同化しな

くつちやあいけません。若し君に、頭の物が——香油だの何だのと——お入り用の時は、舞踏教師パレストッドへおたづねなさい、すぐ間にあひます。

リングストランド 舞踏教師ですか？

パレストッド または音楽會會長とお尋ねなすつても分かる。今晚あの見晴で、音楽會をやります。左様なら、左様なら。

（道具を纏め、庭木戸を通つて左方に去る。ホルダ足壺を持って出て来る。ホルダ更に花を持って来る。リングストランド庭にゐてホルダに一禮する）

ホルダ（欄干によりかゝり禮を返さないで）姉さんに聞きましたよ、あなたが今日だしぬけに入らつしつたつて。

リングストランド え、お許しも受けないでお庭へ這入つて來ました。ホルダ 朝の御散歩？

リングストランド えいゝえ、——今日はあんまり散歩しなかつたのです。

ヒルダ ぢや、海水浴？

リングストランド えいゝ、ちよつと浸つて見ました。おつ母さんもあそこ
にいらつしやいましたよ。丁度浴舎へお這入りの所でした。

ヒルダ 誰がですつて？

リングストランド あなたのおつ母さんが。

ヒルダ おや、さう。(搖椅子の前に足壺を置く。)

ボレッタ (話を他へそらさうとするやうに。)あなた、峽灣の方に父の船らしい
ものを御覽なさらなくて？

リングストランド えいゝ、たしか、帆船が一艘這入つて來るのを見ました。

ボレッタ それが屹度お父さんよ。お父さんはね、彼方の島へ患者を診
にいらしつたのですよ。

(卓子の邊りの物を片付ける。)

リングストランド (外廊の最下の階段に立つてゐて)おや、綺麗な花ですわねえ？

ボレッタ えいゝ、綺麗でせう？

リングストランド 實に美しいですね。何かお祝い事でもあるんぢやな
いかと思はれますね。

ヒルダ それがあるのよ。

リングストランド さう想ひました。お父さんの御誕生日ですか？

ボレッタ (ヒルダを瞥しめるやうに) ふむ——ふむ！

ヒルダ (それに構はず) いゝえ、お母さんの。

リングストランド あゝ、さうですか——おつ母さんのですか？

ボレッタ (低いたしなめるやうな調子で)まあ、ヒルダ——！

ヒルダ (前と同じ調子で)構はなくてよ！(リングストランドに)あなた、もうお

晝飯ひるめしなのよ、お歸りかへりでせう？

リングストランド（階段を降り乍ら） さうですね、何か喰たらなくちやなりませんが。

ヒルダ 屹度何ですわね、ホテルではおいしいものが召よしあがられるのでせう？

リングストランド 僕は今ホテルにはゐません。金がかゝつていけませんから。

ヒルダ ぢや今は、何處どこにゐらつしやるの？

リングストランド イエンゼンさんの所に間借まかひをしてゐます。

ヒルダ イエンゼンさんといふと？

リングストランド あの、産婆うぶのです。

ヒルダ 御免ごめんなさいよ、リングストランドさん、だつて私忙わたくしそがしいんですよ

リングストランド あい、僕失禮しつれいな事を申したのぢやありますまいか？

ヒルダ 何をです？

リングストランド 今申した事がです。

ヒルダ （頭から爪先迄ぢろく）と見て私わたしちつとも、あなたの仰おつしやる事が分わからないわ。

リングストランド いや、なに。何です、今日はこれでお暇いとまします。さようなら、皆さん。

ホレツタ （階段の所に進み出て） 左様なら、左様なら、今日はほんとに失禮しつれいでしたわね——でも此のつぎお差支さしつかへがなくて、——お氣いきの向むいたとき——いらつしつて下さいな、そしたら父ちちもお目めにかゝれませうし——ほかのももね。

リングストランド どうも有難う。是非さうさせていたゞきます。

(彼は禮をして庭口から去る。外の路を左に出た時又外廊の方に禮をする)

ヒルダ (聲を低めて) アデュー、モッシュュー！ イェンゼン 婆さんに宜しく。

ホレツタ (腕を捉へて靜に) ヒルダ——！ お前、仕様のない子だね！ 氣ちが

ひだよ。聞こえるぢやないか！

ヒルダ プー——それが何うしたといふの？

ホレツタ (右手を見やつて) お父さんがいらつしやる。

(醫師ワングル旅行服に手靴を持ち、右手の路から來る。)

ワングル さあ、歸つたよ、お前たち！ (庭口から入る。)

ホレツタ (庭に出迎へて) おゝ、うれしい、歸つて來て下さつて。

ヒルダ (矢張り降りて行つて) お父さん、それで今日の御用はすつかり？

ワングル まだ、少し經つと、外科室の方へ行つて來なくつちや—

—あ、さう——アルンホルムさんは着いたか、お前たち知らないかい。

ホレツタ 昨夜お着きになりました。ホテルへ聞きにやつたのですよ。

ワングル おやまだ會ひはしないんだね？

ホレツタ え、ただ、屹度今日お午前にいらつしやるでせうよ。

ワングル あゝ、さうだらうな。

ヒルダ (父を引つづけて) お父さんてば、そら、よく御覽なさいな。

ワングル (外廊の方を見て) ほう、なるほどな——まるでお祭りだね。

ホレツタ ねえ、綺麗に出來たでせう？

ワングル あゝ、全く綺麗に出來た——あれは——家にはお前達だけか

い？

ヒルダ さうなの。あれはね——

ポレッタ (急いでそれを遮り) おつ母さんは海水浴にいらつしやいました。

ワンゲル (物憂しくポレッタを見て頭に手を置き。そしてためらふ様に言ふ) ねえ、お前達は——かうして終日飾つておく積りかい。それから旗も上げたまゝで?

ヒルダ だつてきまつてるぢやありませんか、お父さん!

ワンゲル ふむ——そりやさうだがね、併し——

ポレッタ (頷いて微笑し乍らですけど、みんなアルンホルムさんが見えるからぢやありませんか。あんな舊友の方が始めてお父さんに會ひにいらつしやるのですもの——)

ヒルダ (笑ひ乍ら父を指ぶつて) ね、お父さん——あの方姉さんの家庭教師だつたのぢやありませんか?

ワンゲル (半ば笑つて) お前たちはいたづらつ子だね、——まあ——何といつた所で、亡くなつた人を記念するのは自然の人情だ。併しそれはそうでも——さ、ヒルダ(手鞆を渡し) これを外科室に持つて行つて呉れ——だが、やつぱり、どうも——私は今日のやうな事をして欲しくないね——斯ういふやり口がいけないのだよ。毎年斯うして——まあ、仕方はない、外に方法もないだらうからね。

ヒルダ (庭口から左手へ手鞆を持つて行かうとして立ち止まり、振り向いて指しあの方を御覽なさい、こつちへ來ます。屹度アルンホルムさんのよ。ポレッタ (同じ方を見て) あの方だつて?(笑ふ)よかつたね、あんな好い年をした人がアルンホルムさんだなんて!

ワンゲル まあ、お待ち、たしかに彼れに違ひない! さうだ、屹度さうだ! ポレッタ (凝と見て、愕いて) さうです、さうなのですよ——!

（アルンホルム 瀟洒たる朝出服^{モニングドレス} 金縁の眼鏡で軽い杖を持ち左手の路から現はれる。稍過勞した風がある。庭にゐる人々を見て親しさうに禮をし庭口から入る。）

三三

ヴンケル（出迎へて）やあ、アルンホルムさん、よくお出で下すつた、君の古巣へよく歸つて来て下すつた！

アルンホルム ありがたう、ありがたう、どうもありがたう（握手して、共に庭園を横切る。）やあ、お子さん達もいらつしやるね！（手を差し出し顔を見る。）

お二人とも殆んど見おぼへがありません。

ヴンケル さうでせうとも、其の筈です。

アルンホルム あゝ、さう——ポツレタさんだけは多分——さうです、ポレツタさんだけは知つてゐる譯です。

ヴンケル それも覺束ないでせう？ さうさね、君が最後にあれにお會ひ

なすつてから、もう八九年たちます。あゝ、あの頃から見ると、大分世の中が變りましたよ。

アルンホルム（四邊を見廻し）さうでもないぢやありませんか。庭木が幾らか大きくなつて、それから彼處に四阿が新築された位のものです

ヴンケル いや、外見だけは恐らく——

アルンホルム（微笑して）それから無論お家には、二人のお嬢さんがあの通り大きくなつてゐらつしやるし。

ヴンケル それは、一人だけは全く大人びても來ましたがね。

ヒルダ（少し聲高に）ほら、お父さんが、あんな事を言つてるよ！

ヴンケル まあ、どうです廊下でおかけなすつては。あちらの方が此處よりは涼しいでせう。さあいらつしやい。

三三

アルンホルム ありがたう。

(二人は階段を上る。ヴンゲルはアルンホルムに揺椅子をすゝめる。)

ヴンゲル さあそちらへ。まあ緩と樂にゐて下さい旅行でお勞れのやうだ。

アルンホルム おゝ、何でもありません。かうしてまた此方へ参りますと――

ボレッツタ (ヴンゲルに) 曹達水と單舎でも少しばかり其の部屋へ持つて参りませうか？ 外は今に暑くなりますから。

ヴンゲル あゝ、さうして呉れ。曹達水と單舎とそれからコニヤツク酒も少しある方がよからう。

ボレッツタ コニヤツク酒もですか？

ヴンゲル ほんの少しで宜い。その方を望む方があるかも知れんから。

ボレッツタ 宜御座んす。ヒルダ、お前は手鞆を外科室へ持つて行つてお呉れな。

(ボレッツタ室の中に入り、戸を閉める。ヒルダは鞆を取り上げ庭を通り左手家の後ろに消える。)

アルンホルム (ボレッツタを見送つてゐたが) いゝお娘さんだ――二人ともいゝお娘さんになりましたね！

ヴンゲル (腰を下し) ねえ、さうでせう？

アルンホルム ボレッツタさんには全く愕きました――ヒルダさんもさうだが――たいあなた御自身は――どうですか、是れから先ずつと此處にお住ゐのお積りですか？

ヴンゲル えゝ、えゝ、さうなる他は無いでせう。私は此の土地に生れて此の土地で育つて所謂土地兒です。こゝで亡なつた妻と何不足な

く幸福な生活を送つてゐたのが、妻はあんなに早く世を去つて了ふし——あれの事は、君も以前こゝにゐらつしやつて、よく御承知の通りですがねえ。

アルンホルム　はあ——はあ。

ヴァンケル　で今の所ぢや、あれの代りに来て呉れた妻と極めて幸福な生活を送つてゐるのです。まあ、私も運がいゝと言はなくちやなりませう。

アルンホルム　今度の奥さんには、お子さんは無いのでしたな？

ヴァンケル　男の兒が一人ありましたよ、二年か二年半程前でしたが、育たないでね、四五ヶ月目に死んで了ひました。

アルンホルム　奥さんは今お留守なのですか？

ヴァンケル　え、でも、もうすぐ歸つて來ませう。海水浴に行つてゐます。

妻は此の季節になると一日も缺かさず出かけるのですよ、天氣が好からうが悪からうが、お構ひなしです。

アルンホルム　お加減が悪いのですか？

ヴァンケル　いや、それ程でもないのですが、此の二三年、不思議に神経過敏になりましたね——時々變です。一體何でさうなるのか私には見當がつかない。兎に角斯うして毎日海に浸るのが、あれの生命でも喜びでもあるのです。

アルンホルム　考へて見ると、前からさうでしたよ。

ヴァンケル（殆ど認め難い程の微笑で）　あ、さうでせうとも。君はシヨルドヴィックで先生をしておいでの頃からエリーダを御存じでしたな。

アルンホルム　無論です。よく牧師館へいらつしたものです。それから私もあの方のお父さんが燈臺守をしてゐられる所へお話しに

行つて、よくあの方にお目にかゝりました。

ヴンケル その燈臺の生活が、あれに深い印象を残したのですよ。迎も此の邊の町に住んでゐるものには分らない事です。土地の人は彼女を『海の夫人』と呼んでゐますよ。

アルンホルム さうですか？

ヴンケル えゝ。ですからね、君——彼女に昔話をしてやつて下さい、アルンホルムさん。そしたら、あれの爲に、どんなにか効驗があるでせう。

アルンホルム (訝しげに見て) と仰しやるのは、何か理由があつてですか？

ヴンケル あります、たしかに理由があります。

エリーダの聲 (外庭園右手から聞える) あなた、そこにゐらつしやるの？

ヴンケル (立ち上り乍ら) あゝ、ゐるよ。

(ヴンケル夫人、大きな軽い緩やかな外套を纏ひ濡れた髪を兩肩にゆるく垂れて、亭の側の樹木の中から出る。アルンホルム立ち上る。)

ヴンケル (微笑し乍ら手を差し延べて) あゝ、人魚さんが來たね！

エリーダ (急いで外廊に上り來りヴンケルの兩手を取り) まあよかつた、無事で歸つて下すつたわね！。何時歸つていらしたの？

ヴンケル 唯今——ほんの少し前に。(アルンホルムを指して) だがお前舊いお馴染に——何も言はないのか？

エリーダ (アルンホルムの方へ手を差し出して) ほんとにあなたいらつしやつたのね？よくいらつしやいました！留守になんかしてゐて、御免下さいな——

アルンホルム おゝ、そんな事を。どうぞお構ひ下さらないように——
ヴンケル 今日(けふ)は海水は綺麗だつたか、冷たかつたかい。

エリーダ 冷たい！だつて此處の海水は少しも冷たかありません——
生温くつて、感じが鈍くて、つまらない！此の邊の峽灣の水は病んで
るやうですよ。

アルンホルム 病んでゐますつて？

エリーダ え、病んでるやうですよ。浴びるものまで病みついて了ひ
さうですよ。

グンケル (微笑して) 海水浴場に取つちや、有難い證明書だね。

アルンホルム それよりか奥さん私は、あなたが海といふものに一種特
別の關係を持つてゐらつしやると言ひたいのです。海と海に關す
る、すべての物にね。

エリーダ さあ、さうかも知れません。私も何だかそんな風に思ひます、
それはさうと、御覽なさいな、娘たちが、あなたがいらつしやるといふ

のでそこいらを裝飾しましたこと！

グンケル (當惑して) ふむ(懐中時計を見て)時間になつたから行つて來なく
ちやならない——

アルンホルム 實際私が來るためでせうか？

エリーダ だつて、無論ですとも。不斷はこんなに綺麗にしちやゐませ
んよ——は！こんな屋根下へ這入ると暑いこと、息がつまりさう！
(庭園に降りる) 此處へいらつしやいな！こゝだとせめて息がつけま
すから。(四阿の中に座る。)

アルンホルム (其方へ行つて) 此の邊の空氣は全く新鮮なやうですね。

エリーダ あゝ、あなた方にはね、クリスチアニアの濁つた空氣に馴れて
いらつしやるとさうでせうよ。あの邊は、夏は全くひどいといふぢ
やありませんか。

ヴンケル (同じく庭園に降りて来て) ふむ、エリーダや、ぢや私はちよつと失禮しなくちやならないから、暫くのあひだお前こゝで久しぶりのお友達をもてなしておあげ。

エリーダ あなたは何かお仕事?

ヴンケル あゝ、私は外科室へ行つて来なくちやならない。それから服も着更へなくちやならない。もつとも、さう長くはかゝるまいよ—
アルンホルム (四阿の中に席を取り) 何半御緩くりと。私が奥さんのお相手はしてゐますから。

ヴンケル あゝ、さう願ひます——是非あなたでなくちや。さあ、少しの間失禮しますよ! (庭を通り左方に去る)

エリーダ (ちよつと沈黙の後) こゝに腰かけてゐるといゝ氣持でせう?
アルンホルム はあ、非常にいゝ氣持ですね。



ドントラトスグンリ . ムルホルム . ダーリエ 第一幕

エリーダ こゝは私の四阿と言つてゐるので、私が拵らへさせたので
す。ワングルが私の爲に拵へて呉れたのです。

アルンホルム で、あなたはいつもこゝにいらつしやるのですか？

エリーダ え、一日中大部分はこゝで過します。

アルンホルム お娘さんたちと？

エリーダ いゝえ——娘達は大抵廊下の方にゐます。

アルンホルム そして御主人は？

エリーダ あゝ、あれは往つたり來たりしてゐます。こゝで私と一緒に
ゐる時もあれば、あつちで子供等と一緒にゐる時もあるし。

アルンホルム そんな風になすつたのはあなたの案ですか？

エリーダ それがどちらの爲にも一番都合がいゝだらうと思ひますの
いつでも向うとこつちとでかけ合ひに話すことが出來て——何か

言ふ事のある場合にはね。

アルンホルム (ちよつと考へてゐて) 此の前あなたの家へお邪魔に出たのは——シヨルドヴキックでの事ですね——ふむ——あれからもう餘程になりませうね——

エリーダ ちやうど十年ですよ、あなたがあそこへ來て下すつてから。

アルンホルム あゝ、そんな事でせう。けれども、あの燈臺に居らつしやつた頃のあなたは——！あの老人の牧師が「異教徒」と言つて居ましたつけ。お父さんが、洗禮の時にあなたの名を、船の名から取つて、普通のキリスト教の名をつけなかつたからだと言つてゐました。

エリーダ はあ、それから？

アルンホルム 斯うしてヴンダグ夫人としてお目にかゝらうとは實に豫想しなかつた事です。

エリーダ えゝ、あの頃は主人がまだ——あの娘達の初めの母が生きてゐた時でしたよ——あれらの本當の母がね——

アルンホルム さうでした。けれども、そんな事がなくつたつて——獨身でいらつしやつた所で——こんな事にならうとは豫期しなかつたでせうよ。

エリーダ 私だつてさうです。夢にもこんな事を——あの頃。

アルンホルム ヴンダグさんは實に立派な人です。あんなに高潔で、誰に對しても親切な善い人です。

エリーダ (温情を持って心から) えゝ、全くさうね！

アルンホルム ——併し、私の見る所では性質はまるであなたと違つてゐるやうです。

エリーダ それも仰しやる通りですよ。私達は現にもう別々なのです。

アルンホルム はあ、どういふ事からさうなりました？ どうしたのです？

エリーダ それは聞かないで置いて下さいなアルンホルムさん。私には説明することが出来ないと思ひますから。それに、説明が出来たとしても、私の言ふ事は、一句だつてあなたに分りますまいよ。

アルンホルム ふむ——（更に柔かに）あなた、今までに何か私の事を御主人にお話しなすつた事がありますか？ つまり、無論あの不成功に終つた、私の向ふ見ずな企ての事を。

エリーダ いゝえ。そんな事を私が話すと思つてらつしやるの？ 一言も話した事はありませんよ——今おつしやつたやうな事は。

アルンホルム それで安心しました。私は少し困つてゐたのです、若しやと思ひましてね——

エリーダ ちつともそんな心配はいりません。私たゞ眞實の事を話したのです——彼地にあるあひだ、私はあなたが一番好きで一番眞實な善いお友達だつたといふ事をです。

アルンホルム それは有難う。併し、ねえ——なぜあなたは、お別れしてから、一度もお便りを下さらなかつたのですか？

エリーダ それはね、私から便りをお聞きになるのは、あなたには苦痛でせうと思つたからですよ——あなたのお望みに従ふことの出来なかつた私ですもの。何だか古疵を發くやうだと思つたのですよ。

アルンホルム ふむ——さうです。御もつともです。

エリーダ けれどあなたこそ、なぜ一度もお手紙を下さらなかつたの？ アルンホルム（顔を見つめて、半ば咎めるやうに微笑し）私？ 私から先に？ そして、また盛りかへして來る氣かと疑ぐられてですか、一度撃退せられ

た癖に？

エリーダ いゝえ、それは私にも分つてゐますよ——で、あなたは、其の後他に誰とも、何うといふ事はお考へなさらなかつたのですか？

アルンホルム 少しも。私はたゞ忠實にあの想出で満足してゐました。

エリーダ (半ば冗談のやうにおゝ、くだらない！昔の悲しい想出なんか打ちやつておいて了ひなさいな。仕合せな夫になる工風をなさる方が、ずつと優ですよ。

アルンホルム さうだと、もうくづくしては居られませんよ、奥さん。

ねえ——お耻しい次第ですが——三十七は二度來ませんからね。

エリーダ それなら、猶の事急がなくなちやならないぢやありませんか。

(少しの間黙つてゐて、そして熱心に低い調子で) ですけどねえ、アルンホルムさん——私ね、あの頃自分を救ふ必要から、どうしてもあなたにお話

し出来なかつた事を、今お話しますわ。

アルンホルム 何ういふ事でせう？

エリーダ あなたがね——今仰しやつた不成功な事をお望みなすつた

時は——私、あゝよりほかお答へのしやうが無かつたのです。

アルンホルム それは分つてゐます。あなたが私に下さるものは、友情

しか無かつたのです。それはよく承知してゐます。

エリーダ 併しあなたはあの時私の心も考も全く他の方へ傾いてゐた事を御存じないでせう？

アルンホルム あの時？

エリーダ えゝちやうどあの頃。

アルンホルム けれども、それは有り得べからざる事です！あなたは時を思ひ違へてゐらつしやる！その頃あなたはまだヴングルさん

を御存じの筈はないのですもの。

エリーダ 私の言つてるのはヴングルの事ぢやありません。

アルンホルム ヴングルさんでないんですつて？併しあの頃——シヨル
ドウィックで——あなたの氣に入りさうな者は、他には一人も居なかつたと思ひます。

エリーダ え、え、——それやさうに違ひありません。全體が氣違ひ
じみたお話なのですもの。

アルンホルム どうかそれを聞かせて下さい！

エリーダ ねえ、あの頃の私は、自由でなかつたのですよ、それだけ言つて
置けば澤山。お分りでせう？

アルンホルム で、その時若し自由だつたとすれば？

エリーダ それが何うといふのでせう？

アルンホルム あなたの私に下さる御返事は違つてゐたでせうか？

エリーダ どうしてそんな事が分かりませう？ヴングルの時には違つ
てゐたのですけれど。

アルンホルム ぢや何のためにあなたは自由でなかつたなんて事を仰
しやるんですか？

エリーダ (心苦しく心配さうに立ち上り) だつて私、誰れか打ち明け話の出来
る人が無くちや困るのですもの。いえ、座つたまゝでゐて下さ
い。

アルンホルム ぢや御主人は何も其の事を御存じないのでですか？

エリーダ 私の心が一度他のあるものに引きつけられてゐたといふ話
は、最初にしたのですけれど、夫はそれ以上聞かうともしないのです
よ。それからといふもの、遂に一度もその話をしたことはありません

ん。兎に角氣ちがひ染みたお話に過ぎないのですからね。そしてそれもすぐお了^{しよ}ひになつて了^{しよ}ひました。少なくとも——或る意味では。

四二

アルンホルム (立ち上り) 或る意味だけで？ すつかりぢやないんですか？
エリーダ いゝえ、それは無論片づいたのですよ！ あなたね、そんな風にお考へなすつちや、まるで違ひますよ。まあ、到底説明の出来ない事なのです。何うといつて、お話しする言葉もないと思ひますわ。つまり私は病氣だつたのか、それとも氣が狂つてゐたかと思はれないでせう？

アルンホルム ねえ、奥さん——いよくそのお話をすつかり私に聞かして下さらなくちやなりません、聞かして下さるでせう？

エリーダ さう仰^{おつ}しやるなら、話して見ませうが、あなたの、その健全な常識で、どうして斯んな事が考へられませう——(外を見、そして止める) ちよつと。此の次にしませう——誰か來ます。

(リングストランド左手から路に現はれ、庭園に入る。釘穴に花を挿し、手には紙で包んでリボンをかけた大きな花束を持つてゐる。外廊の前で立ち止まり、ちよつと躊躇する)

エリーダ (四阿の口の方へ來て) 娘達を探してらつしやるのですか、リングストランドさん？

リングストランド (振り向きて) あゝ、そこにいらつしやいましたか、奥さん(禮をして近寄る) いえ、さういふ譯ぢやございません——お嬢さんたちぢやございません。奥さんをお探ししてゐたのです。伺がつてもいゝといふお許しでしたから——

エリーダ えゝ、えゝ、さうですとも、いつでもいらつしつて下さいな。

四三

リングストランド 難有御座います。ちやうど運よく今日はお宅のお祝

ひ日だと承はつたものですから——

エリーダ あゝ、それを御存じですか？

リングストランド はあ、で私はこれを奥さんに献じたいと思ひまして——
—(禮をして花束を差し出す。)

エリーダ (微笑して) だつて、リングストランドさん、その綺麗なお花はアルンホルムさんにお上げなさるのぢやありませんか？ 今日はおの方のためなのですから——

リングストランド (面くらつて二人の顔を見くらぶ) どうも失禮を——私其の方を存じませんが。たゞ、その——奥さんはお誕生日のお祝ひのつもりでございます。

エリーダ 誕生日のお祝ひ？あなた、思ひ違ひをしていらつしやるので

すよ。宅では今日誰れの誕生日でもございません。

リングストランド (靜かに微笑して) いや、それは萬事承知して居ります。

併しそれほど秘密な事だとは知りませんでした。

エリーダ 御承知だつて、何をですか？

リングストランド あなたの御誕生日だといふ事です、奥さん。

エリーダ 私の？

アルンホルム (不審相にエリーダを見て) 今日が？なあに、そんな事はない。

エリーダ (リングストランドに) どうしてさうお思ひなすつたの？

リングストランド ヒルダさんがさう仰しやつたのです。ちやうど今少し前におうかひしましたらお嬢さんがたが、花や旗をこんなに立派にお飾りになつてゐますから、お聞きしたのです——

エリーダ それで？

リングストランド ——するとヒルダさんの仰しやるには『おつ母さんの
誕生日ですから』つて。

エリーダ おつ母さんの——！あゝ、さう。

アルンホルム ははあ！

(アルンホルムとエリーダとは分かつたといふ風に顔を見合はす。)

アルンホルム ねえ、奥さん、その若い方がさう御承知の上は——

エリーダ (リングストランドに) えゝ、あなたが御存じであらしやる以上は

リングストランド (花束を又差し出して) 祝意を表させて下さいますやうに
——？

エリーダ (花を取り) どうも有難う、——ちよつとおかけなさいませんか、
リングストランドさん？

(エリーダ、アルンホルム、リングストランドみな四阿の席につく。)

エリーダ 此の事は一切——私の誕生日だと申す事は——秘密にして
置く筈だつたのですよ。

アルンホルム さうのやうですね。吾々外部のものにはおつしやらな
い事になつてゐたのですね。

エリーダ (花束を卓上に置く) えゝ、さうなの。外部の方には申さなかつた
のですよ。

リングストランド 私はお誓ひいたします、生きてる者には誰れにだつて
此の事は口外いたしません。

エリーダ おゝ、そんな意味で申したのぢやありませんよ。——で、あなた
お加減はどうですか？いつもよりいゝやうに見えますね。

リングストランド はあ、段々よくなるやうに思ひます。來年になつて南

の方へでも行けましたら――

エリーダ 行らつしやる御計畫ですつてね、娘どもがさう言つてゐました。

リングストランド え、ベルゲンに私を保護して呉れる人がゐまして、來年は行かして呉れるといふ約束です。

エリーダ どうしてその方とお知合におんなすつたの？

リングストランド それが實に不思議な縁でした。私は嘗て一度その人の船で航海をした事があるのです。

エリーダ さう？ ぢやその頃あなたは舟乗にならうとしていらつしやつたのですね？

リングストランド いゝえ、少しも其のつもりぢやなかつたのです。けれども母が亡くなりましてから、父が私を家におらくさせて置くの

を好まないで、海へ出したのです。所が歸りの航海にイギリス海峡で難船して了ひました。それが私に取つて大事件だつたのです。

アレンホルム といふと？

リングストランド その難船のために、私は病氣を受けたのです――此の胸にです。人が來て救つて呉れるまで、随分長いあひだ氷のやうな冷たい水の中にゐました。そんな事で私は海を廢めて了ひました――さうです、それが實際不思議な仕合せだつたのです。

アレンホルム あゝ！ さういふのですか？

リングストランド え、つまり病氣は言ふに足りません、それよりか、私はこれで自分の本心の希望から彫刻家になるやうになつたのです。

考へて見て下さい――指先一つで自由自在に微妙な形を見はして來る、あの和かい粘土でモデルを取つて行くのです！

エリーダ で、あなたは何をモデルになさるおつもり？ 人魚の雄と雌？
それとも、昔の海賊王ですか——？

リングストランド いゝえ、そんなものぢやありません。やれるやうになつたら、すぐ大作を一つやつて見やうと思ふのです——いはゆる群像をです。

エリーダ さう。でその群像は何の像なの？

リングストランド あゝ、それは私自身の経験から得た或るものです。

アルンホルム さうく、それをおやんなさい。

エリーダ ですけど、どんなもの？

リングストランド さうですね、私の考では、茲に或る船乗の妻君がゐましてね、若い女ですが、一種不思議な不安の状態で横になつて、眠りかけてゐるのです。そして眠ると夢を見るのです。そこを誰れが見て

も夢みてゐると分かるやうに作つて見せるつもりです。

アルンホルム それ限りですか？

リングストランド いゝえ。其のそばにもう一つ人物が——あります。

——たゞ一種の姿といつてもいゝでせうが、それは其の女の夫なのです、女は夫の留守中に不義をしてゐました。所が夫は航海中に溺死したのです。

アルンホルム え、どういふのですつて——？

エリーダ 溺死しましたつて？

リングストランド はあ、航海中に溺死したのです。所が不思議な事にはその夫が家へ歸つたのです。夜のことですが、歸つて来て妻の寢床の傍に立つて見つめてゐます。ちやうど今海から引き上げられたといふ風に濡鼠になつて雫が垂れてゐなくちやなりません。

エリーダ (椅子により、後へそつて) 何て不思議な思ひつきでせう! (眼を閉ぢて) あゝ、私あり〜と見える様ですわ!

アルンホルム 併しおよそ世の中に、君——君——! 君は御自身の経験から來たのだと仰しやつたね?

リングストランド はあ——私の経験からです、或る意味から、さう言つていゝのです。

アルンホルム 君は死んだ人が來るのを御覽なすつたか——?

リングストランド いや、それを私が確實に見たといふのぢありません。

無論外形的に見たといふのぢありません。けれども、やつぱり——

エリーダ (興奮してもだへて) その話をあなたが御存じの限り残らず聞かせて下さい! 私、すっかり知りたいたいのですよ。

アルンホルム (微笑し乍らはゝあ、成程これはあなたの畑はたけですわ——海うみの

不思議といふやうな事になると。

エリーダ それで、どういふ譯なのです? リングストランドさん?

リングストランド さうですね、私たちがちやうど歸りの航海でハリファツクスと言ふ港から其の帆船はまふねを出さうとすると、水夫長が病氣になつて病院に置いて行かなくちやならない事になりました。で、その代りに一人のアメリカ人を傭つたのです。すると此の新しい水夫長が——

エリーダ アメリカ人の?

リングストランド はあ——其の男が或る日船長から古新聞ふるしんぶんを一束借りて來て、毎日一心いつしんに見つゞけてゐました。ノルウェー語が習ひたいのだと言つてゐましたつけ。

エリーダ さう、それから?

リングストランド それから、ある晩の事でした、非常な暴れで水夫どもは残らず甲板で働いてゐて——跡にはその水夫長と私だけしか居ませんでした。水夫長は脚を挫いて歩けないでゐたし、私は具合が悪くて床の中に寝てゐたのです。で、その男は例の通り寝椅子の中に座り込んで、古新聞を読みつけてゐましたが——

エリーダ はあ？ はあ？

リングストランド だしぬけに、鋭い叫び聲を揚げました。私は愕りしてその方を見ると、水夫長の顔はまるで白墨のやうに蒼白くなつてゐて、それからその新聞を揉みくちやにして、細かく細かくすだくすだに裂き出しました。もつともそれを静かに實に静にやつてゐました。

エリーダ 全く何も言はないで？ 口を利かなかつたのですか？

リングストランド 初めのうちは何も言ひませんでした。けれども暫く

すると獨語のやうに斯う言ひ出しました、おれの居ない間に、——他の男と——結婚した」

エリーダ (眼を瞑り、半ば獨語のやうにそんな事を言ひましたか？

リングストランド えゝ。そしてどうでせう——立派なノルウェー語でそれを言つたのです。語學の天才があるのですね、あの男には。

エリーダ それからどうして？ 次はどうなつたのでせう？

リングストランド それからが愈々不思議な事になるのです——生涯決して忘れられない事なのです。その男は——やつぱり極めて静な調子で斯う言ひ足しました。「併しあの女は己の物だ、己の物にしなぐちやならないんだ。己が溺死して暗い海からあの女を連れに歸つてもあの女は、必ず己について來なくちやならないのだ。」

エリーダ (水をコップに充たす、その手が震へてゐる) あゝ——今日は暑苦しい

事——！

五六

リングストランド　そしてその言ひかたが非常な決心を持つてゐて、屹度その通り實行する男だと思はれたのです。

エリーダ　それからあなた——その男がどうなつたか御存じ？

リングストランド　そりや無論、死んだのですよ奥さん。

エリーダ（急いで）　どうしてさうお考へなさるの？

リングストランド　それは、私達の船が海峡で難船しました時私は船長と他に五人許り一緒に大ボートで遁れたのですが、運轉士は小ボートに乗り込みました、そしてそのアメリカ人と今一人其の方へ一緒になりました。

エリーダ　其の後その方の様子は分からないのですか？

リングストランド　はあ、一言の便りも聞かないのです。私の保護者の所

からつい先日さう言つて來ました。つまり是れが私の心を感動させて、群像彫刻を作らうと思ひ立たせた理由です。その船乗の不貞節な妻君が、私の眼の前に生々と浮んで來ます。またその男も、溺れ死んだに拘らず、復讐の爲に海から歸つて來るのが、あり／＼と見えます。私には二人とも實にはつきりと見えるのです。

エリーダ　私にもそれが見える。（立ち上り）さあ——彼方へ這入りませう。それともヴングルのゐる室へ行つた方がいゝか知ら！私此處にゐると息がつまるやうでならないから。（西阿から出る。）

リングストランド（矢張り立ち上る。）　私はもうお暇した方がいゝでせう。今日はたゞ御誕生日のお祝ひを申し上げたいばかりに伺つたのですから。

エリーダ　あら、もう、いらつしやらなくちやならないのですか——（手を

五七

さし伸べる。左様なら、花を有り難う御座いました。

五八

(リングストランド禮をして庭口から左方に去る。)

アルンホルム (立ち上りエリーダに近寄り) 今の事があなたには辛かつたやうですね、奥さん。

エリーダ あゝ、ねえ、そりやさう仰しやつてもいゝでせうけれど——

アルンホルム 併しつまりは、あなたが覺悟してゐらしやらずにちやならなかつた事です。

エリーダ (愕いて彼を見つめ) 覺悟して？

アルンホルム はあ、さうだらうと思ひます。

エリーダ 男が歸ると覺悟して——？ そんな風にして歸るだらうと？

アルンホルム 下らない、どうして世の中に——！ 全體あの氣違じみた

彫刻家のお話なんか——？

エリーダ だつてアルンホルムさん、あの男は、あなたがおつしやる程氣違じみちやゐないでせうよ。

アルンホルム あなたの心をそれ程痛めさせたのは、あの愚にもつかな

い死人の話ちやないでせう？ 私は屹度——

エリーダ 屹度どう？

アルンホルム 言ふまでもなく、お話の方は、あなたに取つちや、たい假託で、本當は家庭のお祝ひがあなたに内證でせられるのを見て、辛いとお思ひなすつたのでせう？——御主人とお子供さんとが亡くなつた方を思つてゐられる、あなたは其の中から除けものにされてゐらつしやる。

エリーダ まあ、とんだ事を。私そんな事は、大して苦勞にもなりません。夫に對して私一人だけといふ權利はないのですから。

五九

アルンホルム いや、その権利をお持ちなさらなくちやいけないと思ひますね。

エリーダ はあ、ですけど事實持つてゐないのですから。さうなつてゐるのですから。で、私も自分の生活を持つてゐて——他人はその中に入れません。

アルンホルム あなた！（一層柔かく）それでは何ですか——あなたは——あなたは實際御主人を愛してゐらつしやらないと仰しやるのですか？

エリーダ そんな事があるものですか——私はありつたけの眞心で夫を愛するやうになりました！其のためですよ、こんなに恐ろしい——こんなに譯の分からない——何とも言へない事になつたのは——！

アルンホルム あなた御遠慮は要りません、さう聞けば、奥さん、いよ／＼あなたの苦しみを打明けて頂かなくちやなりません。聞かして下さい。奥さん。

エリーダ だめですよ、あなた——兎に角、今はだめですよ。いつか其のうち。

（ボレッタ外廊から出て庭に降りて来る。）

ボレッタ 今お父さんが外科室からいらつしやいます。御一緒に庭向のお部屋へ行きませうか？

エリーダ あゝ、さうしませう。

（衣服を更へたヴァンゲルがヘルダと共に家の後方左から出て出る。）

ヴァンゲル さあ、これですつかりお相手が出来る！何か冷たい飲みものがあるといふな。

エリーダ ちよつと待つてらつしやい。(四阿に戻つて花束を持って来る。)
ヒルダ あらまあ！綺麗な花だ事！何處から取つてらつしやつたの？
エリーダ これはね、ヒルダや、彫刻家のリングストランドさんから戴いたの。

ヒルダ (ぎよつとして) リングストランドさんから？

ポレッタ (不察さうに) リングストランドさん此處へいらつしやいましたか——あれからまた？

エリーダ (半ば微笑し乍ら) あゝ。此の花束を持つてゐらつしつたのよ——
——誕生日のお祝にね。

ポレッタ (ヒルダを偷み見て) まあ——！

ヒルダ (つぶやくやうに) 畜生！

ヴンゲル (當惑して心苦しさうにエリーダに向つて) ふむ——ねえ、お前——

エリーダや、お前に言つて置かなくちやならないが——
エリーダ (遮つて) さあお前たち、お出で！私の花を水に活かせう、他のも一緒にね。

(外廊の方へ上つて行く)

ポレッタ (ヒルダに柔かに) ねえ、御覽、あんなに優しいぢやないの。

ヒルダ (少し聲高に、怒りを帯んで) お茶番よ！たゞお父さんに取り入りたいからなのよ。

ヴンゲル (外廊の上で、エリーダの片手を固く握り) 有難う——有難う——！

あんなにして呉れて私は實にうれしいよ、エリーダ！

エリーダ (花を描へ乍ら) おゝ、つまらない事を——なんで私が御一緒に祝はないでいゝものですか——母さんの誕生日ですもの
アルンホルム ふむ——！

(彼はブングルとエリーダの方へ行く。ホレツタとヘルダトは庭の中に残る。)

第一幕

町の背後、木立ある高臺の見晴の上、後の方に標柱と風信標が立つてゐる。腰掛に用ひる大きな石が幾つか標柱の圍り及前方に据えてある。遙か後の方に峽灣の沖によつた邊が、點在した島や突き出た岬などに見えぬ。外洋は見えない。空の低い邊は夏の夜の蒼白い薄明りで一杯になつてゐる。上の方は遙か遠方の山の峰々からかけて橙色に染まつてゐる。四部合唱の聲がかすかに右手下方の傾斜地から聞こえる。町の若い男女、右手から一對づゝになつて上り來り、親しげに話し合ひ乍ら標柱の所を通り左手に去る。稍後れてパレストッド、一組の外人旅客の案内者となつて出て來る。婦人のショールや旅鞆などを背負つてゐる。

パレストッド (杖で上の方を指して) 御覽なさい、マイネ、ヘルシャフテン(皆さん)——あそこに今一つ、アンデレ、ハイト(ほかの高臺)があるでせう？

あれへもベシユタイゲン(登る)しませう、それからヘルウンテル(下の方)に——(英語であとを喋りつゞけて、旅客を右手へ導き去る)

(ヒルダ右手の傾斜地から急いで上つて来て立ち留まり後ろを振り返り見る。すぐ後からポレッツタがその路を上つて来る。)

ポレッツタ ヒルダ、お前、何もリングストランドさんを置き去りにして、駈け出さなくてもいゝぢやないの？

ヒルダ だつて私、坂道をあんなにのろ／＼とあるいちやあられないのだもの——ほら——ほら、ね、這つて上つて来るぢやないの？

ポレッツタ だつてお前、病氣なのぢやないか？

ヒルダ 重い病氣だと思つて？

ポレッツタ あゝ、屹度さうですよ。

ヒルダ 今日お午すぎにお父さんに診て貰つたのね。お父さんは何う

思つてらしやるか知ら。

ポレッツタ お父さんの仰しやるにはね、あの人は肺病か——何かそんな病氣ですつて。逆も長くは持つまいと言つてゐてよ。

ヒルダ さう言つて、お父さんが？そら御覽なさい、私が思つてゐた通り。ポレッツタ けどねえ、決してあの人にそんな事を知らしちやいけないよ。

ヒルダ そりや心得てゐてよ(低い調子で) ほら！——あの人がやつとの事の上つて来てよ。ハンスさん——！ねえ、あの人の顔を見るとハンスといふ名だらうとは思はない？

ポレッツタ (呟く)ふざけちやいけないよ！氣をおつけ！

(リングストランド右手から入り来る。蝙蝠傘を携へてゐる。)

リングストランド どうも失禮しました。追付いて來られませんでした。ヒルダ おや、傘を持つてらつしやるのね？

リングストランド こりやあなたのお母さんのですよ。これをステッキの代りにしてもいゝと仰しやつたのです、私が自分のを持つて來なかつたものですから。

ホルツタ みんなまだ下にゐますか？お父さんや他の人たちも？

リングストランド はあ。お父さんはちよつと料理店へいらつしやいましてが、他の連中は外で音楽を聞いてゐます。併し今に上つて來るといふおつ母さんのお話でした。

ヒルダ (彼を見つめてゐたが) あなた大層勞れてらつしやるやうね？

リングストランド はあ、少し勞れたかも知れませんが。ちよつと腰かけてゐた方がいゝやうです。(右手前方の石に腰を下す)

ヒルダ (彼の前に立つてゐて) 今少したつと下の音楽堂の傍で舞踏があるでせう、あなた御存じ？

リングストランド はあ、そんな事を聞きました。

ヒルダ あなた屹度舞踏が大好きでせう？

ホルツタ (叢の中で小さい花を摘んで歩いてゐたが) まあ、ヒルダ——リングストランドさんは息んでゐらつしやる方がいゝのですよ。

リングストランド (ヒルダに) えゝ、ヒルダさん、私も舞踏は非常にやつて見たいのですがね——踊れさへすれば。

ヒルダ おや、さう。お稽古なさらなかつたの？

リングストランド はあ、稽古しませんでした。併し私の言つたのは其の意味ぢやなかつたのです。胸が苦しくて踏れないと言つたのです。

ヒルダ あなたがおつしやつた、あのお怪我のせいでは？

リングストランド えゝ、其のためです。

ヒルダ あなたは其の怪我のために一生不幸だと思ひなすつて？

リングストランド いゝえ、さうとは限りません。(微笑して)皆さんが斯うして親切にして下さつて、親しくたよりになつて頂くのも、みんなあのせいだと私は信じてゐます。

ヒルダ さうねえ、で、その病氣は全く心配する程ぢやないのですか？

リングストランド はあ、少しも心配する病氣ぢやありません。その點ではお父さんのお見たても、他の醫者と全然一致するやうです。

ヒルダ そして外國へいらつしやれば、すぐ癒つて？

リングストランド えゝ、癒りますとも。

ボレッタ (手に花を持つて) 御覽なさいな、リングストランドさん——これをあなたの釘穴はたんあなにお挿しなるといゝわ。

リングストランド おゝ、お嬢さん、どうも有難う！御親切は忘れません。

ヒルダ (右手丘の下を見下して) あら、みんなあの道から上あがつて来てよ。

ボレッタ (も見下して) あそこで曲ることを知つて居るのか知ら。いけ

ないゝ、違つた道へ行くよ。

リングストランド (立ち上り) 曲り角まで駈けおりて行つて、呼んでやりませう。

ヒルダ ぢや、大きな聲で呼ばなくちや駄目よ。

ボレッタ いけない、お止とどみなさいよ。また勞れる許りですもの。

リングストランド なあに、降くだりるのは、譯はありませんよ。(右手へ出て行く) ヒルダ えゝ、降くだりるのはね、(後を見送る) あら、飛んで行くよ！又上あがつて来なきやならいのに、その方ほうは忘れてゐるのよ。

ボレッタ かはいさうに——

ヒルダ 若しリングストランドが姉姉さんに結婚を申込んだら、承知して？

ポレッタ お前、どうかしてゐるのよ。

七三

ヒルダ それはね無論あの病氣がないとしてさ——あんなに死にかかつてゐるのになかつたらさ。あなた承知して？

ポレッタ お前さんの方が好い事よ。

ヒルダ いやな事だ、それこそ大變よ。あの人はね一文無しで自分さへもかつくよ。

ポレッタ ちやどうしてお前、さうあの人の事ばかり氣にしてゐるの？

ヒルダ あら、それはね、あの人の「病氣」が氣になるのよ。

ポレッタ だつて、お前は、少しも氣の毒がつてる様子なんかないぢやないの？

ヒルダ 氣の毒とは思はないわ。けれど、私、なんだか斯う面白くて釣り込まれるやうよ——

ポレッタ 何がさ？

ヒルダ 彼の人を見てゐると、そして、あの人に、心配する程ぢやない——つて言はせてやると、そして、外國へ行つて美術家になる——と言はせてやると。あの人はすつかりそれを自信してゐて、そりやもう喜んでゐるのだもの。で、つまりはそれがみんな當がはづれて、何も出て來やしない。それまで生きちや居られなくなつて了ふ。さう思ふと私ほんとうに痛快だわ。

ポレッタ 痛快だつて！

ヒルダ ええ。痛快よ——私、さう言つてよ。

ポレッタ およし、ヒルダ、お前ほんとうに驚いた子だね！

ヒルダ ええ、私さうなるつもりよ——馬鹿らしい(見下して) あ、やつて來た！アルンホルムさんは登り道が嫌ひのやうだわ。(向き返つて)

七三

あ、ただどね、——私、お晝飯の時アルンホルムさんに就いて發見した事があるのよ、何んだか分つて？

ホレツタ なあに？

ホルダ あのね——あの人の頭が段々禿げはじめたのよ——ちようど頂邊のところ。

ホレツタ まあ、嘘ばつかし！決してそんな事はなくつてよ。

ホルダ いゝえ、さうよ。そうしてね、このところに、兩方の眼の縁に皺があつてよ。一體まあ、姉さんは、自分の家庭教師だつた人がどうしてそんなに好きになつたの？

ホレツタ (笑い乍ら) ねえ、分らないでせう？私ね、一度あの人に、ボレツタといふ名はいやな名だと言はれてひどく泣いた事があつたつけ。

ホルダ そらね！(又見下して) ほら、あそこを御覽なさいよ！——あそこ

に「海の夫人」がアルンホルムさんと一緒にあるいてゐてよ——お父さんとでなく、あの人と、べちやく、お喋りをしながら。私、あの二人は、少し怪しいのぢやないかと思ふわ。

ホレツタ お前ほんとうに恥知らずですよ。どうしておつ母さんの事を、そんなにはしたなく言ふのですよ。折角うまく行きかけてゐたのに——

ホルダ さうでせうとも！——さう思つてゐらつしやいよ、お嬢さん！ほんとうはね、到底私たちとあれとは、うまく行きつこなし。向ふは私たちが氣が合はないし、私たちは向ふと氣が合はないんだもの。どうしてまあ、お父さんはあんな人を家へ引つぱり込む氣になつたのでせう！——あの人がだつて、こんな事をしてゐて、今に氣違にでもなるのが落ちよ、結構だわ。

ボレッタ 氣違だつて？ どうしてお前そんな事を考へて？

ヒルダ 別に不思議も何もないわ。あの人のおつ母さんも氣が違つたぢやないの？ 氣が違つて死んだのですつて。

ボレッタ まあ、お前は何にでも啄を突つこむ人ねえ。もうくゝそんな事は言ひつこなし。おとなしくおし——お父さんのためだから。ね、ヒルダ？

(ヴンケル、エリーダ、アルンホルム及リングストランド右方から上り来る。)

エリーダ (後の方を指して) あの邊に當りますよ。

アルンホルム あゝそうですく。あの方角でなくちやなりません。

エリーダ 彼處がすつと海なのですよ。

ボレッタ (アルンホルムに) 此處は見晴しいでせう？

アルンホルム むしろ雄大ですね——素晴らしい景色です。

ヴンケル 君はまだ一度もここへはお上んなさなかつたか？

アルンホルム いえ、まだ一度も。私のゐた頃には、まだ來られる場所になかつたやうです。こんな路もなかつたのですから。

ヴンケル 地形なんぞも、少しもついてゐなかつたしね。それが出來たのはつい四五年の事ですよ。

ボレッタ あの上的水先案内の丘だと、景色がもつと雄大ですわ。

ヴンケル 彼處へ行かうかね、エリーダ？

エリーダ (右手の石に腰をかけて) ありがたう私やめますわ。あなたがた行つていらつしやい。其のあひだ私はここで息んでゐますから。

ヴンケル さうか、では、私はお前とここで息んでゐやう。お前たちアルンホルムさんのお供をするがい。

ボレッタ 私たちと御一緒にいらつしやいな、アルンホルムさん？

アルンホルム はあ、ありがたう。そこへ行くにも路がついてゐますか

七八

ポレッタ え、く、広い、い、路ですよ。

ヒルダ 二人並んで手を繋いで歩いて十分よ。

アルンホルム (冗談のやうに) ほんとうにさうですか、ヒルダさん！ (ポレッタに) どうです二人でためして見やうぢやありませんか？

ポレッタ (笑を仰へて) え、どうぞ。さあ。(二人腕を組み合つて左方に出て行く)

ヒルダ (リングストランドに) 私達も行きませうか——？

リングストランド 手を繋いで——？

ヒルダ い、ぢやないの？ 私平氣ですわ——。

リングストランド (腕を貸し、嬉しさうに笑つて) こりやおもしろいです

ね。

ヒルダ おもしろい——？

リングストランド でも、ちやうど私たちが結婚約束をしてゐるやうぢやありませんか？

ヒルダ あなた屹度まだ婦人に腕を貸して散歩したことがないのね。

リングストランドさん。(二人は左方に出て行く)

ヴァンケル (後方標柱の傍に立つてゐて) エリーダや、これで少しの間、やつと二人だけになつたね——

エリーダ え、此處へいらつしやい、此處へおかけなさいな。

ヴァンケル (腰を下して) 此處はからつとしてゐて實に静かだね。ここで少し話したい事がある。

エリーダ どんな事！

七九

ア
オ
ザンケル お前の事さ、それから私たちお互の關係くわんけいに就よいてもね。こんな様子で長く続くものでない事は、私によく分つてゐるよ。

エリーダ ぢやその代りにどうなさらうと仰おつしやるの？

ザンケル 何處どこまでも信じ合はなくちや、お前。一心同體にならなくちや——もとさうだつたやうにさ。

エリーダ あゝ、さう出来さへすればねえ！けど、とても——出来ない事ですすわ！

ザンケル お前のその心持は分かつてゐる積りだ。時々のお前の素振りから、私にはそれが分かると思ふ。

エリーダ (激しく) いえ、あなたには分りません！分つてゐるとは言はせません——！

ザンケル 分かつてゐるよ。お前は眞直まっすぐな性分しやうぶんだ。眞實しんじつな情合じやうあひを持つ

てゐる。

エリーダ はあ、持つてゐます。

ザンケル お前が安全だと思ひ、幸福だと思ふことの出来るのは、いつでも完全無缺な場合でなくちやいけないのだ。

エリーダ (不安さうに見つめて) さう——だから？

ザンケル お前は人の後妻ごさいなんかには適しない。

エリーダ 今になつてどうしてそんな事を思ひついて？

ザンケル たびく、さういふ疑ひは起こつたのだが、今日けふ明あきらかにそれを見たと認めた。子供等の今日けふの紀念祭に——お前は、私も一種の仲間なかまだと見たやうだが——そりや勿論人の記憶といふものは拭ひ消すことの出来ないものだ。——とにかく私にはそれは出来ない、私の性分しやうぶんがそれを許さない。

エリーダ それは知つてゐます。え、よく解つてゐます。

ザンケル 然し、矢張り、お前は思ひ違ひをしてゐる。お前は何かまだ、彼等の母が生きてでもゐるやうに思つて、我々の中へ、目に見えない姿を現してゐるやうに感じてゐる。私の心がお前とあれとの間に二分せられてゐると思つてゐる。其の考がお前の胸を掻き亂すのだ。お前には、私とお前の仲が、何か不徳義なものででもあるやうに見えて、そのため、私と一緒に、私の妻としてやつて行くことが出来ないのだ。さうする氣が起らないのだ。

エリーダ (立ち上る) あなた、それをすつかり御覽なすつて？ すつかり見とほして御覽なすつて？

ザンケル 然、今日私はとほく、それを見とほした——底の底まで見とほした。

エリーダ 底まで見とほしたのですつて？ お、どうして、あなたにそんな事が言へませう。

ザンケル (立ち上り) そりや、その上にまだ譯のあることも、私はよく知つてゐるよ、エリーダ。

エリーダ (氣がりのやうに) まだ他に譯のあることを御存じ？

ザンケル 然、其の譯といふのはね、お前にはこの邊の周圍が我慢しきれない。山が多くてそれがお前を壓迫して精神を滅いらせて了ふし、光線もお前には充分でないし——眼界も至つて狭いし——空氣も強くないからお前に取つては刺戟が足りない。

エリーダ 其の點は全くさうですよ。冬だつて夏だつて、夜晝なし私につきまといつて離れないのは——海です、海の戀しい病氣です。

ザンケル エリーダ、それはよく知つてゐるよ(エリーダの頭に手をあて) だ

から可哀さうな病人はまた自分の郷へ歸らなくちやならない。

八四

エリーダ それはどういふ事？

ザンケル 言葉通りさ。引き移つて行かうよ。

エリーダ 移るのですつて！

ザンケル さうさ。何處か外海に臨んだ所で——お前の氣に入つて、眞個の家だと思へるやうな場所へ。

エリーダ まあ、あなた、そんな風にお考へなすつちやいけないのよ！そんな事は到底出来るものぢやありません。あなたには、ここよりほかに幸福に住める所は、世界中にないぢやありませんか？

ザンケル そんな事はどうにでもなるさ、その上——お前がゐないとしたら——此處で私が幸福に暮して行けると思ふかい？

エリーダ だつて私ここにゐるぢやありませんか。斯うしてゐるぢや

ありませんか？あなたの妻ですもの。

ザンケル ほんとうに私の妻だらうか、エリーダ？

エリーダ あゝ、もう、その事は言はないで頂戴。あなたは此處にゐらつしやれば、生活して息をついで行くものが揃つて居ます。あなたの生涯の仕事がみんなここにあるのですから。

ザンケル そんなことはどうでもいゝと言つてるぢやないか。此の土地を引拂はうさ——何所か外海に近い所へ移らうよ、ね、私はもう決心をしたよ。

エリーダ ですけど、そんな事をして、どんな益があるとお思ひなすつて？

ザンケル お前の健康と心の平和がとりかへせるだらうさ。

エリーダ 私それを疑ひますわ。で、あなた御自身は！あなたの自身の

八五

事もお考へなさらなくちや。あなたはそれで何んな利益があるで
せう？

ゾングル 私はそれでお前を取りかへす事が出来るよ、エリーダ。

エリーダ けれど、それが出来ないのですよ！だめなの、だめなの、それが
出来ないのです！そこが、考へてもぞつとするほど辛い、苦しい羽目
なのです。

ゾングル それはやつて見なけりや分らない。とにかくお前がここに
ゐてそんな考に取つ付かれるといふのなら、こゝからお前を連れて
退くに越した事はない。それも早いほどいゝのだ。私はもう固く
決心したよ。

エリーダ いけない！それよりか——あゝ、どうしやう——私、何もかも
包まず言つて了ひますわ、ありのまゝに。

ゾングル あゝ、あゝ、——さうして呉れ！

エリーダ 私のためにあなたが不幸な思ひをなさらないやうにね、どう
せさうしたつて、何の役にも立たないのですから。

ゾングル お前は何もかも話すと約束したぢやないか——ありのまま
に。

エリーダ 話しますよ、私に分つてゐて、私に話せるだけは——さあ此處
へいらつして、私の傍へかけて下さい。

(二人石の上に腰かける。)

ゾングル それで、エリーダ？それで——？

エリーダ あなたはね、あの日彼處へいらつしつて。私に、妻になつて呉
れないかとお聞きなすつた時——何も隠さないで、あけすけに初め
の結婚の事をお話しなすつたのね。大層仕合せだつたとおつしや



ルゲンダとダーリエ 幕二第

つたのね？

ゲンゲル そりや、さうだつた。

エリーダ さうでせうとも、私にもそれはよく信じられます。けれどそれを今言はうと思つたのぢやありません。たゞそれと一緒に、私も自分の身の上を打ち明けて置いたからそれを思ひ出して貰はうと思つたのです。私は生涯に一度、他の或る人を思つた事があると、その時包まず言つて置きました。それも殆ど——一種の結婚約束をするまでになつてゐました。

ゲンゲル 一種の——？

エリーダ え、結婚約束のやうな事を。でもそれはほんの少しの間で、その男は行つて了ひましたの、それからしばらく立つて、私は約束を取り消しました。此の事はもうみんなお話しましたね。

ザンケル だから、エリーダや、どうしてそんな事を繰りかへすのだ？ そんな事は要するに私に関係がないぢやないか？ 私はその男が誰だつたかさへ問うた事はないよ。

エリーダ え、さうでした。ほんとうにあなたは私のためにいつも氣を遣つてゐらつしやるのね。

ザンケル (微笑して) いや、此の場合、其の人の名は聞くまでもなかつたのさ。

エリーダ 其の人の名を？

ザンケル ショルドウィックからあの邊に、さう澤山これはといふ人はゐなかつた。といふよりも、一そた^い一人^{ひと}しか居なかつたと言つていくらゐだ——

エリーダ それでは屹度——アルンホルムさんだと仰しやるのでせう

ザンケル さうだ——ぢやないのか？

エリーダ 違ひます。

ザンケル さうちやないのか？それぢや、どうも私には見當が付かない。

エリーダ あなたは、何年前か前に、秋の末ごろ、大きなアメリカ船が一艘、シヨルドウィツクへ修繕のため這入つて來たのを、おぼへて居らしつて？

ザンケル あゝ、よくおぼへてる。朝起きて見ると、船長が室の中で殺さ

れてゐたのは、あの船だつた。私が檢視に行つた事をおぼへてゐる。

エリーダ えゝ、さう、でした。

ザンケル 殺した犯人は、二等運轉士だつたね。

エリーダ それは誰にも分かつちやありません。證據は到頭上りませんでした。

ザンケル でも、全くそれに疑ひないよ。でなくて何うしてその男が逃

げたり、自分で溺死したりするものかね。

エリーダ その男は溺死したのぢやありません。北行きの船に乗り込んで逃げたのですよ。

ザンケル (愕く) どうしてお前それを知つてゐるか？

エリーダ (一生懸命で) それはね、あなた——それはね、その二等運轉士なので、私——結婚約束をしたのは。

ザンケル (愕いて立ち上り乍ら) 何うしたと？そんな事があり得やうか？

エリーダ たしかに——その男とですよ。

ザンケル けれども、お前、どうしてまあ——！一體どうしてそんな事が

出來たのだ！自分から求めてそんな男と結婚約束をするなんて！

まるつきり知らないものと！——その男の名は何と言つたのだ？

エリーダ その頃は自分でフリーマンと言つてゐましたが、後に手紙を

寄越した時は、アルフレッド、ジョンストンと書いてありました。

アングル それで一體何處から来たのか？

エリーダ ファンマルクからだと言つてゐました。もつとも生れはファンランドの方で、小供のとき、なんでも父親に連れられて、國を出たのですつて。

アングル それでは、クエーン人なのだ。

エリーダ え、さう言ふのですつて。

アングル 其のほかにも、まだ何かその男の事を知つてゐるか？

エリーダ 唯ね、ごく若い時から船に乗つて、幾度も長い航海をしたといふ事だけです。

アングル その外には何にも？

エリーダ え、何にも。そんな話はまるでしなかつたのですから。

アングル ではどんな事を話してゐたのかい？

エリーダ 重に海の事を。

アングル ふむ——！海の事を？

エリーダ 海に暴風が来たり、風いだり、暗い夜半の海だの、ぎらく日光を照り返してゐる海だの、いろんな事を話しました。けれど一番よく聞いたのは、鯨や海豚や、日中に暗礁の上で日向ぼっこをしてゐる海豹の話でした。それから又鷗や鷺や、其の外の海鳥の話もしました。すると——不思議ぢやありませんか？——そんな話につれていつか其の海の獣や鳥がみんなその男と血のつゝいたものゝやうに思はれて來ますの。

アングル でお前自身は——？

エリーダ え、私だつて、よつほどさう思ひました、あれらと何所か命が

通つてるやうに。

ザンケル さうだらう、さうだらう——それでお前がその男と約束をするやうになつたのだね？

エリーダ え、その男が、さうしなくちやならないと言ひました。

ザンケル しなくちやならない？お前は自分の意志といふものを持たなかつたのか？

エリーダ その男が傍そばにゐるとさうでした。——後のちになつて見ると、まるつきり自分にも譯わけが分からなかつたのですよ。

ザンケル その男には度々逢つたかい？

エリーダ い、え、さうたび／＼ちやありません。或日その男が燈臺を見に来たとき始めて逢つたのです。それから折々逢つてゐましたが、其のうちにあの船長の事件が起こつて、そこを去らなきやならな

いやうになりました。

ザンケル あゝさうか、その話をして呉れ？

エリーダ 朝早くまだ薄暗い時刻でしたが、その男から私へ短い手紙が来たのですよ。それによると、私はブラットハムメルにゐる其の男に逢ひに行かなくちやならない。——そら、御存じでせう？シヨルドヴキツクの間あひだの岬みさきを。

ザンケル あゝ／＼——よく知つてゐる。

エリーダ 何か話したい事があるから、私にそこまですぐ來なくちやならないと書いてゐました。

ザンケル で、お前行つたのか？

エリーダ え、仕方しかたがなかつたのですよ。でね——その男は昨夜自分が船長を刺し殺したといふ話をしました。

ヴンケル その男が自分でお前に！有りの儘を話して！

エリーダ はあ。ですけどそれはたゞ正常な事をしたに過ぎないとその男は言つてゐました。

ヴンケル 正常な事？ではどんな理由で刺し殺したと言つたか？

エリーダ 理由は話したくないやうでした。私の聞くべき事ぢやないと言つてゐましたつけ。

ヴンケル それをお前は言葉だけで信用したのかい？

エリーダ はあ、私は初めからその男を疑ふ氣なんか起こりませんでした。で、まあ、とにかくその男は立ち退くことになつて、私に暇乞をしやうとした、其の間際に——ねえ、その男が何をしたとお思ひなすつて？

ヴンケル ふむ、言つて御覽。

エリーダ 隠しから鍵輪を取り出して、いつも自分の指に箝めてゐた指輪と私が持つてゐた小さい指輪とを取つて、二つ一緒に、その鍵輪に通したのです。そしてその男の言ふには、私達二人海と結婚をしないくちやならない。

ヴンケル 結婚——？

エリーダ え、さう言ひました。それからその大きな輪と小さい二つの指輪を、出来るだけ遠い沖の方へ投げ込みました。

ヴンケル としてエリーダ、お前は？お前は？それを承知したのか？

エリーダ え、嘘のやうな話ですがその時は私、さうしなくちやならぬのだと思ひました。——けど、仕合せと、それ限りその男は行つて了ひました！

ヴンケル でその男が行つて了ふと？

エリーダ そりやもう言ふまでもなく、私はすぐ正氣しやうきに返つて、すべてが馬鹿々々しい意味のない事だと氣づきました。

ヴンケル 併しお前は手紙の事も何か言つてゐたが、その後便りのちのたまがあつたのか？

エリーダ はあ、便りはありました。始め、アーチャングェルから來た短い手紙にはたゞアメリカへ渡るといふ事しか書いてなくて、返事へんじを送る宛がしるしてありました。

ヴンケル 返事をやつたか？

エリーダ 直すにやりました。無論、二人の間あひだはあれ限り斷たえた事にしないで、くちやならないと書いてね——私は決してもう其の男を思はないから、向ふも二度と私の事を思つちやならないつて。

ヴンケル それでもやつぱり手紙を寄越よこしたのか？

エリーダ え、また寄越よこしました。

ヴンケル で、お前の言つてやつた事に、どういふ返事をして來たか？

エリーダ 一言ひとことも言つて來ないの。關係を斷つなんて話は、まるでなかつたやうな書きぶりで、私に待つて居なくちやならないと、極ごくおとなしく言つてよこしました。用意が出來たら知らせるから、すぐその男の方ほうへ來るやうにといふのです。

ヴンケル お前を手ばなすまいとするのだね？

エリーダ え、ですから私また手紙を出しました、殆ど一句々々、前と同じことを書いて、たゞもつと強い言葉で。

ヴンケル それで先方せんほうも我がを折つたのか？

エリーダ いゝえ、我がを折る段たんぢやありません。前と同じやうに穩おとなやかな手紙をよこして關係を斷つなんて文句は、まるで氣がつかないや

うでした。ですから、私、もう無駄だと思つて、それつきり手紙もやらない事にしました。

ヴンケル 向ふからもそれつきりか？

エリーダ いゝえ、向ふからは其の後三通來ました。一度はカリフォルニアから、一度は支那から、その次には最後に濠州からよこして、金山へ行くのだと言つてゐましたが、それきり何のたよりもありませんの。ヴンケル 其の男はお前に對して、一種不思議な力を持つてゐたのだね、エリーダ。

エリーダ えゝ、さうです。あの怖ろしい男！

ヴンケル 併しお前、もうその事は考へちやいけない。決して考へちやならない！それを私に誓つて呉れ、ねえ、エリーダや！そこで今度はお前に別な療治をして見やう——こんな峽灣の奥の空氣よりも、も

つと新鮮な空氣で、鹽分に富んだ軟かい海風で、ね！どうお思ひか？

エリーダ あゝ、それを言はないで下さい！そんな事をお考へなすつちやいけません！少しも私のためにはならないのですから！他へ移つたからと言つて、やつぱり打つちやられるものでない事は、分かつてゐます、私さう感じるのですよ。

ヴンケル 打つちやるつて、お前——何をさ？

エリーダ その男の怖いのをですよ。あの底の知れない不思議な力が私の魂に被さつて——

ヴンケル だけどお前、もうそれは打つちやつたぢやないか！すつと以前、お前が其の男と縁を絶つた時に。今ちやもう久しい前に濟んだ事だ。

エリーダ。(立ち上り) いゝえ、要點はそこですよ。まだ濟んぢやゐないの

です！

グンケル 濟んでゐない！

エリーダ はあ、あなた——濟んでゐないのです！そして恐らくいつまでたつても、濟みはしないでせう。此の世にゐる限りは濟まないでせう。

グンケル (息づまりのしたやうな聲で) それではお前、どうしても心の底からその不思議な男を忘れる事が出来ないと云ふのか？

エリーダ 一度は忘れてゐましたが、だしぬけにまた戻つて來たやうに思はれます。

グンケル いつ頃からか？

エリーダ もう三年くらゐか、もう少しになりませう——ちやうど——あの子の生まれる前でした。

グンケル あゝ、あの時か？それでは、エリーダや——私にも事情が分かりかけて來たよ。

エリーダ あなたそれは間違ひですよ！私の上へ被さつてゐる此の——あゝ、何と言ひませう、とてもく人に分かるものぢやありません。

グンケル (見つめて心苦しげに) 此の三年間、ずっとお前の心が他の男の方へ行つてゐたと思ふと。他の男の方へ！私でなく——他の男の方へ！

エリーダ あゝ、あなたはまるで私を誤解してゐらつしやるのねえ。私にはあなたよりほか、誰をも愛しちやゐません。

グンケル (低い調子で) それなら、なぜ、その間お前は私の妻として一緒に生活することを拒んだのだらう？

エリーダ それは、あの不思議な男が私に怖かつたからですよ。

ヴァンアル 怖かつたから——？

エリーダ え、怖かつたからです。その怖さと言つたら、ちやうど海から染み込んで来るとしか思へないやうな物凄さです。それはこれからお話ししますから——（町の若い人々左手から戻り來り禮をして右方に出て行く。それらと共にアルンホルム、ホレツタ、ホルダ及びリングストランドがある。）

ホレツタ（通りか） おや！未だ此處にいらつしやるの？

エリーダ あ、高臺の上はほんとうに涼しくていゝ氣持ですよ。

アルンホルム 私達の方は、これから降りて踊りに行かうといふのです。

ヴァンアル それがいゝ。私達もすぐ降りて行きますよ。

ホルダ ちや後ほど。

エリーダ リングストランドさん——あなた一寸待つて、下さいな。

（リングストランド立ち留まる。アルンホルム、ホレツタ及びホルダ右手に出て行く。）

エリーダ（リングストランドに）あなたも舞踏にいらつしやるの？

リングストランド いゝえ、奥さん、私は行くまいと思ひます。

エリーダ さうですよ、あなたは氣をお注けなさらないや。その胸の御

病氣がね——まだ十分よくなつていらつしやらないのだから。

リングストランド はあ、十分治つて居ません。

エリーダ（稍ためらふやうに）あなたがお話の航海をなすつてから、何のく

らぬになりますか——？

リングストランド 私が病氣を受けてからですか？

エリーダ はあ、今朝お話しなすつた、あの航海ですよ。

リングストランド あゝ、さうですか、それはちやうど——待つて御覽なさ

いよ——さうです、きつちり三年になる筈です。

エリーダ 三年？

リングストランド 或はもう少し前かも知れません。アメリカを出帆したのが二月で、難船したのが三月でした。彼岸の疾風はやてかぜに出くわしたのです。

エリーダ (ヴンクルを見て) ね、ちやうど其の時ですよ。

ヴンクル けれども、お前——？

エリーダ ちや、リングストランドさん、お邪魔をしてはいけないから、いらして下さいな、けれど、踊ることはお止よしなさいよ。

リングストランド はあ、たゞ見てゐませう。(右手に去る。)

ヴンクル エリーダや——何故お前その航海の事を、證人調しんじべでもするやうに聞いたのかい？

エリーダ ジョンストンがその船にゐたのですよ。それは私、堅く保証して見せます。

ヴンクル どうしてそんな事が考へられるか？

エリーダ (それには答へずに) あの男がその船にゐて、留守中に私が他の男と結婚したことを聞いたのです。そして其の途端たんたんに、私がこんなになつたのです！

ヴンクル 怖こはいのがか？

エリーダ えゝ。隙すきさへあれば、だしぬけにあの男の姿すがたが見えて來るのです。すつくりと私の前に立つて、幾らか片方かたほうへ寄つてゐます。決して私を見つめないで、たゞそこに立つてゐるのですよ。

ヴンクル どんな風かぜで現あらはれるのだ？

エリーダ 最後に逢つた時のまゝで。

ザンケル 十年前に？

エリーダ え、ブラットハムメルでね。そして私にはあの男の襟飾のピンが、一番はつきり見えます、大きな青味が、つた眞珠が一つ箆めてあつて、それが死んだ魚の眼玉のやうにぎよろ／＼として私を睨んでゐるやうです。

ザンケル あゝ——！お前の病氣は、想つたよりも悪い、お前が氣づいてゐるよりも悪いのだよ、エリーダ。

エリーダ さうです、さうです——何卒私を救つて下さい！段々それに締めつけられるやうな氣がしますから。

ザンケル それでお前は、まる三年といふもの、こんな有様でゐたのだね！こんな秘密な心配を打ち明けもしないで！

エリーダ それは打明けられなかつたからですよ。今あなたの爲に必

要になつて打ち明けたのですけれど、それまでは打明けられなかつたのですよ。若し残らず言つて了ふとなれば、やつぱりあの——口で言へない事も——

ザンケル 口で言へない事——？

エリーダ (避けるやうに。) いえ、いえ、聞かないで下さい！たいもう一つ、それでお了ひです——あなた、どうしたらあの不思議が解けるでせう？——あの子供の眼の——？

ザンケル これ、エリーダや、それは全然お前の空想といふものだ、あの子の眼も、普通の子供の眼と少しも違つちやゐなかつた。

エリーダ いゝえ、さうぢやなかつたの！それが見えない筈はないぢやありませんか？あの子の眼は、海と一緒に色が變りました。入江に日がさして静かな時だと、眼も静かで明るいし、暴れの日だと眼もそ

の通りに變る。あゝ、私、よくそれを見て置きました。あなたは御覽なさらなくとも。

グンケル (慰め乍ら) ふむ——さうかも知れない。が、さうだつたとしても？それがどうと言ふのか？

エリーダ (柔かく、彼に近づいて) 私はね、それと同じ眼を、前にも見ました。

グンケル 何時？何處でさ——？

エリーダ プラットハムメルで。十年前に。

グンケル (一歩退いて) 何うしたと——！

エリーダ (震へ乍ら叫く) あの子はあの不思議な男の眼を貰つたのですよ。

グンケル (思はず叫ぶ) エリーダ——！

エリーダ (絶望して両手を頭の上で握りしめ) それであなたも分かつたでせ

う？私がどうあつても、あなたの妻として一緒に生活することの出来ない譯を、さうしない譯を！

(エリーダは急に振り返り一散に丘を右手に駈け下る。)

グンケル (後を追ひかけ呼ぶ) エリーダ！エリーダ！エリーダ！可哀さうに！

第三幕

醫師ヅンケルの庭の片隅。その邊りは濕氣多く、土が濡れてゐて大きな老木が茂つてゐる。右方に水の澄んだ池の端が見える。後ろに低いまばらな垣があつて路及峽灣と庭とを仕切つてゐる。遙か遠方、峽灣の彼方には山脈が見えて幾つかの峰を時てゐる。午後遅く殆ど夕暮。
ボレッタ左手の石の上に腰かけて縫物をしてゐる。腰掛の上に二三冊の書物と仕事籠が置いてある。ヒルダとリングストランドは二人とも釣道具を持ち、池の端に立つてゐる。

ヒルダ (リングストランドに合圖をする。) ちつとしてゐらつしやいよ！ 彼處に大きいのが一尾見えたらから。

リングストランド (見廻し乍ら) 何處にです？

ヒルダ (指して) 見えなくつて——そら、あそこ。ほらまた！そこにも見

つかつたり！(木立の間を透し見てうゝ——向ふへあの人をやつて来たおかげで、みんな逃げちやつた！)

ボレッタ (見上げて) 誰れが来るの？

ヒルダ あなたの先生よ、お嬢さま！

ボレッタ 私の——？

ヒルダ はい。仕合せと私の先生にはならなかつたのですよ。

(アルンホルム右手木立の中から出て来る。)

アルンホルム どうです、その池に魚がゐますか？

ヒルダ はあ、非常に年を取つた鯉がゐます。

アルンホルム へえ、そんなに年を取つた鯉がまだ生きてゐるのですか？

ヒルダ えゝ、中々丈夫よ。然し今に幾つか片づけてやつてよ。

アルンホルム 却つて入江の方がよくはありませんか？

リングストランド いゝえ、池がいゝですね——池の方がいはゆる神秘的な分子に富んでゐます。

ヒルダ さうよ、こゝの方が一層痛快ですわ。——あなた浴びてゐられた所？

アルンホルム たしかに。浴舎から真直にこちらへ來たのです。

ヒルダ あなたは圍の中だけでせう？

アルンホルム はあ、私はあんまり泳げませんから。

ヒルダ あなた仰向いて泳げて？

アルンホルム いゝや。

ヒルダ 私泳げてよ（リングストランドに向ふ側へ行きませう。

（二人は右手の方へ池の縁に沿うて出る。）

アルンホルム（ボレッタに近寄り）あなたお一人？ボレッタさん。

ボレッタ えゝ、私大抵一人ですわ。

アルンホルム お母さんはお庭ぢやありませんか？

ボレッタ いゝえ、父と一緒に散歩してゐたらうと思ひます。

アルンホルム 今日お午から何んな御様子でした？

ボレッタ よく存じませんの。聞くことを忘れちやつて。

アルンホルム そこにあるのはどんな本です？

ボレッタ え、一つは植物の本で、一つは地理ですわ。

アルンホルム あなたさういふ種類の書物を読むのがお好き？

ボレッタ えゝ、閑暇のありますときは——。ですけど家庭の世話の方

が第一ですから。

アルンホルム 併しおつ母さんが——今のおつ母さんが——其の方は

助けて下さるでせう？

二六

ホレツタ いゝえ、私の役目なの。私ね、お父さんが一人でいらしたあひだ二年間其の世話をしたのですよ、それからずつと引き續いてやつてゐます。

アルンホルム でもあなたは、前と同じやうに讀書がお好きなのですか？

ホレツタ はあ、有益な書物は手にはいるだけみんなみますの。幾らでも世間の事が知れると、ほんとにうれしうござんすわ。私たちは、まるきりかけ離れた生活をしてゐるのですもの——殆どまるつきり。アルンホルム なんです、ホレツタさん、そんな事を言つちやいけない。

ホレツタ けど、私さう言ひますわ。私達の生活と、あの池の鯉の生活と大した違ひはないのですもの。直傍に入江があつて、そこでは大き

な自由な魚の群が出たり這入つたりしてゐても、かはいさうな手飼の鯉どもは、そんな事は少しも知らないで、一生それに交ること出

来ない。
アルンホルム 入江に出て行つたとしても、鯉どもにそれが適するかどうかは分かりませんね。

ホレツタ そんな事はさう構つたものぢやないと思ひますわ。
アルンホルム それに、あなたは、こゝで、さう全然世間とかけ離れてるのも言へませんよ。少なくとも夏などはね。今日では、此の邊が世間の生活に取つて一種の地方的中心です——通りがりの澤山の流

れが集まる場所なのです。
ホレツタ (笑ひながら) あゝ、あなた御自身が通りがりの流れに這入つてゐらつしやるのね。あなたがたには、そんないゝ加減な冗談をお

つしやるのも、何でもありませんまいよ。

二一八

アルンホルム 私がいゝ加減な冗談を——？何うしてそんな事を思ひます？

ホレツタ だつて、やれ世間の生活の中心だの集まりだのつて、それはみんなこの町の人たちが言つてるのをお聞きなすつたのでせう？きまつてそんな事ばかり言つてるのですもの。

アルンホルム え、實は、私もよく気がついてゐます。

ホレツタ ですけど、あの人たちの言ふ事は皆嘘ですわ——始終此の土地に住んでる私達には、そんな事はありやしません。外の大きな世界の流れが、真夜中の太陽を見に行く途中で私たちの戸の側を通つたからつて、それが何になるでせう？私たちが其の流れに這入れるぢやなし、私たちには真夜中の太陽も何もありません。つまりな

い、私達はやつぱりこゝで、鯉と一緒に池の中をうろくして満足してゐなくちならぬのです。

アルンホルム (彼女の傍に腰かけて) ねえ、ホレツタさん——私はさう思ふが、何か知ら——ある特別なもので——あなたが斯うして家にゐながら、あこがれてゐらつしやるものがあるのぢやないか？

ホレツタ はあ、或はあるかも知れませんが。

アルンホルム ぢやそれは何でせう？何にあこがれてゐるのでせう？

ホレツタ 第一に、國を離れるといふ事。

アルンホルム それは何よりも？

ホレツタ はあ。それから次には、もう少し學問がしたい事。本當に世間の事情を知りたい爲に。

アルンホルム あなたと書物を讀んでゐた頃、お父さんは、よくあなたを

二一九

大學へ入れると言つてゐられましたね。

110

ホレツタ え、え、父も氣の毒な人ですわ——いろんな事を言ひますけれど、いざとなるとそれが——父には實行する氣力が少しもないのですから。

アルンホルム さうです、惜しい事には——それが無いやうですね。併し此の事は今までお父さんに話して御覽なすつた事がありますか？ 眞面目にせがんで見た事が？

ホレツタ い、え、それ程の事もしませんでした。

アルンホルム でも、あなた、言ふならあまり後れない方がいゝですよ、ホレツタさん。なせ言つて見ないので？

ホレツタ それはね、つまり私にも實行する氣力が無いのでせうよ。私その點ちや屹度父に似たのですよ。

アルンホルム ふむ——そんな事を言つてる場合ぢやないと思ひますがね？

ホレツタ いゝえ、ですけどね。それに父は私の身や私の將來の事などを考へて呉れる暇はないのですよ——それから其の氣もないのですし。父は出来るだけそんな事を避けて、たいもうエリーダさんの事にばかりかゝつてゐるのですから——

アルンホルム 誰れですつて——？ どういふ風に——？

ホレツタ 父と二度目のお母さんとは——。(聲を途切らせる) 父と母とは別々の生活をしてゐるのでせう？

アルンホルム だから、尙あなたは家を出たくなる譯ぢやありませんか？

ホレツタ え、ですけど、何だか私、出て行く權利が無いやうにも思はれ

111

ますの——父を見棄て、ねえ。

アルンホルム

けれども、ポレッタさんどうせ何時かはお父さんの側を

ポレッタ

え、いづれはさうなる外なからうと思ひますの。私だつて自分の事も考へて何か地位をこしらへて置かなきゃ、父が居なくなつた時たよる所が無くなります——けれどもお父さんも氣の毒ですわ——見捨て、行くといふことが心配ですわ。

アルンホルム

心配——？

ポレッタ

え、お父さんのために。

アルンホルム

併し變です、ね、お母さんはどうしたのでせう？あの方がお父さんには附いてゐられるぢやありませんか？

ポレッタ

そりやさうですけれど、あの人は、お母さんがよくしてゐら

つしやつたやうな事には、まるで向かないのですよ。あの人には氣のつかない事だらけ、きつと氣をつけたくないのかも知れませんが——それともそんな事は構はないのか知ら。何うなのだか私には分かりません。

アルンホルム

ふむ——あなたのおつしやる意味は分かりました。

ポレッタ

お父さんが氣の毒です——どうかすると體が弱いのですから。あなたもそれはお氣がついたでせう？でね、仕事だつて十分一杯くにはないのです。それをあの人は構つてあげやうともしないのですよ——無論そりや、半分はお父さんの罪かも知れませんが、

アルンホルム

どうしてさうでせう？

ポレッタ

それはね、父はいつも周圍の者が愉快な顔をしてゐるのが好

きで、家の中には日光と満足が必要だと言つてゐます。で、父はよくあの人に薬を飲ませてゐるのですが、それが長いあひだには害をするのぢやないかと思つて、氣になるのですよ。

アルンホルム　ほんとにさう思ひますか？

ボレッタ　え、私どうしてもさう思はれてならないのです。時々全く、あの人は變ですもの。(激しく)けど、つまり無理ですわね、私を斯うして、是非とも家に引きとめて置かうといふのは。實際父にだつて、何の役にも立ちませんし、私としてはまた自身に對する義務もあると思ひますわ。

アルンホルム　私はねえ、ボレッタさん、——此の事はもつと精しく言つて見なくちやいけませんよ。

ボレッタ　だつて、そんな事がどうなるものですか？ やつぱりこゝで、

鯉と一緒に池の中で一生を送るやうに出来てるのでせうよ。

アルンホルム　そんな事があるものですか。それは全然あなた次第です。

ボレッタ (熱心に) さう思つてらつしつて？

アルンホルム　え、さうですとも。全然あなた一人の手できめられる事です。

ボレッタ　あ、ほんとにさうだつたら——！あなたね、父にうまく言つて見て下さない？

アルンホルム　それも言つて見ますが、それより先に、私はあなた御自身に打ち明けて聞いて貰ひたい事があるのです、ボレッタさん(左方を見て)しつ！人が聞いてちやいけいから——またあとで話させう。

(エリイダ左手から這入つて来る。帽子は冠らないで軽いシヨールを頭から肩

エリーダ (無理に活氣づいて) 何ていゝんでせう、こゝは！なんていゝ氣持でせう！

アルンホルム (立ち上り) 散歩してゐらつしやいましたか？

エリーダ え、家と一緒に長く、散歩してゐました、いゝ氣持でしたこと。これからまた船に乗らうといふのですよ。

ホレツタ おかけなさらない？

エリーダ ありがたう、いゝのよ。

ホレツタ (ベンチの席を明けて) よくかけられますわ。

エリーダ (歩き廻り) いえ、いえ、いえ、私いゝのよ、私いゝのよ。

アルンホルム 散歩が利いたに違ひありません、活々していらつしやつたやうです。

エリーダ もう、ほんとはよくなりました！何とも言へない、氣持です！ほんとに安心してしましました！ほんとに安心して——(左手を

見て) 何て大きな汽船が這入つて來るのでせう？

ホレツタ (立ち上り見て) 屹度あの大きなイギリス船ですよ。

アルンホルム 浮標の所へ錨を下しますね。いつも此の邊へ泊るのですか？

ホレツタ ほんの半時間ばかりで、ずつと奥の方へ上つて行きます。

エリーダ それから明日はまた出て行きます、あの大きな廣い外洋の方へ、まづすぐに沖へ出て行くのです。一緒に行けたらどんなでせう！ねえ、どんなでせう！どんなでせう！

アルンホルム 奥さんは、まだ長い航海をなすつた事はありませんか？

エリーダ 一度もありません。たゞ入江の中を少うし乗つたばかり。

ホレツタ (嘆息して) どうしたつて、私達は、乾からびた土の上に喰つついてなきやならないのですわね。

アルンホルム まあ、とにかくそれが私たちの自然の領分ですからね。

エリーダ そんな事はありませんよ。私さうは思ひません。

アルンホルム 陸がさうでないのですか？

エリーダ はあ、私さうは信じません。私さう思ひますの、若し人間が最初から海の上か——ひよつとすると海の中にも——住みつけてさへゐたら、今ごろはもつとく完全なものになつてゐたらうと思ひますの——もつと善くて、もつと幸福で。

アルンホルム あなたほんとにさうお信じですか？

エリーダ はあ、きつとさうだと思はれます。その事はワングルともよく話しました。

アルンホルム それでお宅では——？

エリーダ それはね、幾分の道理は其の中にあるといふのです。

アルンホルム (冗談のやうに) まあ、ねえ。併し出来た事は出来た事で、吾々が一旦間違つた道を取つて、海の動物の代りに陸の動物になつた以上、今さら出直さうといつても、もう間にあはないと思ひますね。

エリーダ え、それが悲しい事實なのですよ。そして誰でも此の事はみんな自身でさう感じてゐて——其の感じがちやうど秘密な悲しみか嘆きのやうに誰れにでも附きまつてゐると思ひますわ。人間全體の心の底にある愁ひは、これが本だと信じます。きつとさうに違ひないのですよ。

アルンホルム 併し奥さん——私は人間がさう深く憂鬱なものだといふ事實を認めません。却つて多數の人は人生を愉快に氣輕に過ご

してゐます——大きな静かな意識しない悦びで過ごしてゐます。

エリーダ いゝえ、それはさうぢやありません。その悦びは——丁度長
い明るい夏の日の悦びのやうなものです。その中にはもう暗闇の
来る前兆が含まれてゐます。そして此の前兆が人間の悦びに影を
さします——たとへば疾風雲が入江に影をさすやうに、今すつかり
澄んで輝いてるかと思ふと、だしぬけに——

ホレツタ そんな悲觀した考を起しちやいけないわ、あなた。ちよつ
と前までは、あんなに活々して快活だったのに——

エリーダ 然、然、さうでしたよ。ほんとにこんな——私、馬鹿ねえ。(不安
相に見廻して)家で來て呉れるといふのに。ちゃんと約束して置きな
がら、まだ來ないなんて。忘れちやつたのですよ。アルンホルムさ
ん、あなたいらつしつて探して來て下さいませんか？

アルンホルム はあ宜う御座んすとも。

エリーダ どうぞさう言つて下さい、ほんとうにすぐ來て呉れなくちや
ならないつて。私、もうあの人が見えなくなつたのですから——

アルンホルム 見えなくなつた——？

エリーダ あゝ、あなたには分らないのです。私ね、あの人が居なくなる
と、よく何んな顔つきだつたか思ひ出せなくなるのですよ、そして全
く見失つて了つたやうになるのですよ——それがたまたまなく苦し
いのです。どうぞ行つて下さいな。(池の方へぶら／＼と行く)

ホレツタ (アルンホルムに)私一緒に行きませう、あなたに分らないから

アルンホルム なあに、御心配には及びません、どうにかして——

ホレツタ (低い聲で) いえ、いえ、不安心ですから。父はあの汽船にゐるか

も知れませんが、さうだと心配ですわ。

アルンホルム 心配？

ボレッタ だつてお父さんは、いつも船客の中に知人があやしないか探
しに行くのですよ、そして船には食堂の酒場があつて——
アルンホルム あゝ！ちやいらつしやい。

(ボレッタと二人左方に去る。)

(エリーダ池を見つめたまゝ、少時立ち留つてゐる。時々柔かに、切れ々に獨語
する)

(外の方、庭の垣の向ふの路に、一人の旅装した他國人が左手から道入つて来る。
濃く生えた赤い髪の毛と鬚があつてスコッチ帽を冠り、旅行鞆を紐で肩から斜
めに釣り下げてゐる)

他國人 (垣に沿うてそろ／＼と歩みより、庭を見込む。エリーダを見付け立ち留ま
りつく／＼と探るやうな眼つきで見入つて、靜かに言ふ) エリーダ、今晚は！

エリーダ (振り向いて叫ぶ) おや、まあ——とう／＼いらつしやつたの！

他國人 えゝ、とう／＼。

エリーダ (彼を見、愕いて心配げに) 誰ですあなたは？ 誰れか探してゐらつ
しやるのですか？

他國人 私だよ。

エリーダ (愕いて) 何うしたのだらう！ 變な風におつしやるのね！ 誰れ
を見つけてゐらつしやるのですか？

他國人 知れてるぢやないか？ お前を見つけてゐるさ。

エリーダ (びつくりして) あゝ——！ (ちよつと見つめてゐて、激しく後退りし、殆ど
窒息したやうな叫び聲を立てる) あの眼！ あの眼！

他國人 よし／＼——とう／＼私^{わたし}が分^{わか}りかけたね？ 私にはすぐお前
が分^{わか}かつたよ、エリーダ。

エリーダ あの眼！そんなに私を見ないでゐて下さい！誰れか呼んで助けて貰はう！

他國人 しつしつ！怖がるには及ばない。何も害はしないから。

エリーダ (眼を両手で抑えて) そんなに私を見ちやいけないといふに！

他國人 (兩腕を庭の垣に凭けて) 私はあのイギリス船で来たよ。

エリーダ (畏縮するやうにちらと見て) 私に何の御用があるの？

他國人 私は出来るだけ早く返つて来ると約束したよ——

エリーダ 行つて下さい！また行つて下さい！決して——決して二度とこゝへ来ちやいけない！二人の間はすつかり切れたのだと言つて上げたぢやありませんか！すつかり！さう言つて上げたでせう？

他國人 (それには答へずに、極靜に) もつと早く来やうと思つたが、さう行か

なかつた。やつと折を得て、斯うして来たのだよ、エリーダ。

エリーダ 私に何の御用があるの？何を考へてゐるのです？何のため

にこゝへ来たのです？

他國人 分かつてるぢやないか、お前を連れに来たのさ。

エリーダ (恐怖して後退りして) 私を連れに！そんな事を思つて来たのですか？

他國人 あゝ、さうとも。

エリーダ だけど私が結婚した事は知つてるのでせう！

他國人 あゝ、知つてゐる。

エリーダ それでも——！それに構はずやつて来て——私を——私を連れて行かうとして！

他國人 あゝ、その爲に来たのだよ。

エリーダ (両手で自分の頭を掴んで) おゝこんな恐ろしい——！こんな怖
い事、こんな怖い事——！

他國人 きつと、來たくないのだらう！

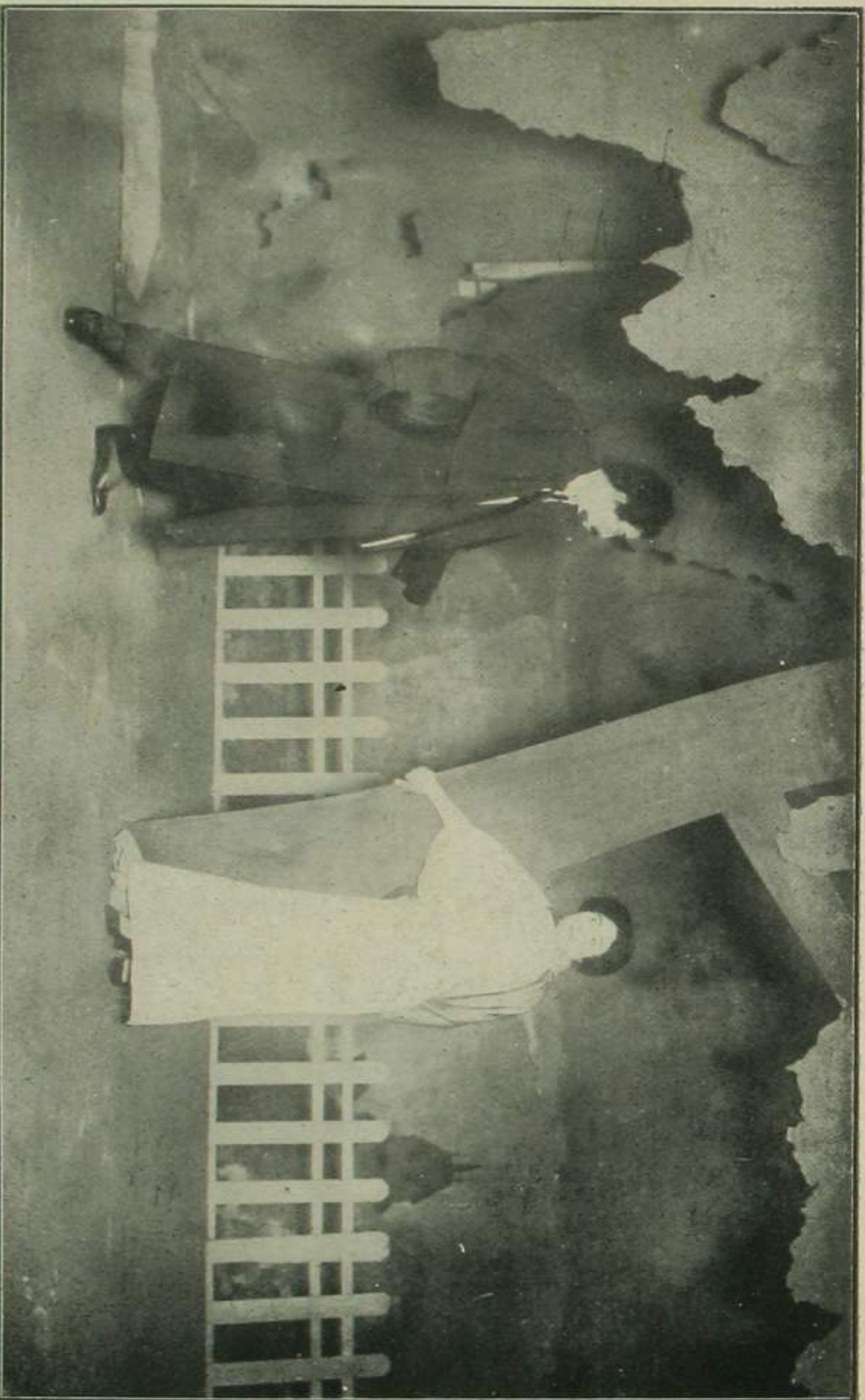
エリーダ (我知らずに) そんな風に私を見ないで下さい！

他國人 來たくないのかい？

エリーダ いけない、いけない、いけない！行きたくない！どんな事があ
つたつて、決して、決して行かない。行けもしないし、行きたくもな
い！(低い調子で) 行くものか。

他國人 (垣を乗り越越えて庭の中に入る) ではそれで宜しいエリーダ——私は
行く前にたつた一言言つて置かう。

エリーダ (逃げやうとするが逃げ得ないで恐怖の餘り失神したやうに立つて、池の傍
の樹の幹に身を支へてゐる) 私に、私に觸つちやいけない！傍へ來ちやい



人國他とダークエ 卷三第

けない！そこに其のまゝゐて下さい！私に觸ふることはならない！
他國人（用心して、一二歩近より）そんなに私を怖こはがつてはいけませんよ。エ
リーダ。

エリーダ（兩手で眼を掩おほひ）そんな風に私を見ちやいけない。
他國人 怖こはがらないで、怖こはがらないで。

（ワンゲル、左手から庭を通つて来る）

ワンゲル（木立を全く出切らない前に）あゝ、大分待たせたね。

エリーダ（急に走り寄り腕にしつかりと纏まとりついて叫こゑぶ）おゝ、あなた——助け
て下さい！助けて下さい——どうぞ！

ワンゲル エリーダ——一體どうしたのだ——！

エリーダ 助けて下さいよ！あの人が見えませんか？そこに立つてゐ
ます！

ヴンケル (他國人を見て) そこにゐる人か? (彼の方に近寄り) 失禮だが、あなたは誰れです、なせ此の庭へ這入つて來たのです?

他國人 (頓てエリーダを指して) あれに用があるのです。

ヴンケル あゝ、では君だな——? (エリーダに見馴れない人がお前を尋ねて來たと聞いたよ。

他國人 はあ、それは私です。

ヴンケル で、妻に何ういふ御用があるのです? (振り向ひて) お前その方を知つてゐるか、エリーダ?

エリーダ (兩手をしぼりながら、柔かに) 知つてゐるかつて! さうですとも、さうですとも!

ヴンケル (急いで) ふむ?

エリーダ おゝ、あれが此の人ですよ、あなた! この人自身なのですよ!

此の人——ね、分かつたでせう——!

ヴンケル 何? 何だつて? (振り返り) 君があつたのジョンストンと言つて——?

他國人 さやう、ジョンストンでもよろしい、御隨意に。だがそれは私の名ぢやありません。

ヴンケル 名ぢやない。

他國人 今はさうぢやありません。

ヴンケル で、妻を何うしやうといふお考へか? その燈臺守の娘が幾年か前に結婚してゐる事は御承知だらう。それから其の夫になつたのが誰だといふ事も御存じに違ひない。

他國人 この三年餘り前に、それを知りました。

エリーダ (熱心に) どうして分かりました?

他國人 お前に逢はうと思つて歸りかけてゐた途で、此の地方の古新聞
が手に入つて、讀んで見ると、その中にお前の結婚の事が出てゐた。

エリーダ (眞直に前方を見て) 私の結婚が——それぢや、あの——

他國人 それが私に妙な感じを與へたよ。あの指輪をつないだことが

——あれがやつぱり一種の結婚だつたのだ。エリーダ。

エリーダ (兩手で顔を掩ひ) おゝ——!

ブンケル どうして君はそんな事を——?

他國人 お前それを忘れてゐたか?

エリーダ (凝視せられてゐることを感じたやうに叫ぶ) そんなに、私を見つめて
ゐちやいけない!

ブンケル (他國人の前に立つて) どうか私に言つて下さい、妻にでなく。要
するに——成り行きは君に分かつてゐるのだから——こゝで何う

しやうと言ふのです? なせやつて来て私の妻をお尋ねになつたか
?

他國人 私は出来るだけ早く逢ひに来るとエリーダに約束してあつた
のです。

ブンケル エリーダを——! また!

他國人 それからエリーダも私の來るまで待つてゐると、眞心で誓つた
のです。

ブンケル 君は私の妻の名を呼んでおいでのやうだが、さういふお馴染
は此の邊では許しません。

他國人 それはよく心得てゐます。併しあれは誰れよりも先に私のも
のになつてゐるのですからね。——

ブンケル 君のもの! まだそれを——!

エリーダ(ヴンケルの後ろに隠れ)おゝ——！どうしても私を離すまいとし
てゐる！

ヴンケル 君のもの！エリーダが君のものだと！

他國人 あれはあなたに二つの指輪の事を話しましたか？私の指輪と

エリーダの指輪と？

ヴンケル たしかに聞きました。併しそれが何うしたのです？其の事
は後のちにあれが破談の手紙を君に送つて、君も知らないとは言へない
筈だ。

他國人 エリーダと私の契約では、指輪の事が結婚の證據として完全な
效力を有してゐます。

エリーダ けれど私はそれを認めない！何んな事があつたつて、私はこ
の上あなたに用はありません！そんなにして私を見ないで下さい

！用はありません、分りましたか！

ヴンケル 君はこゝへ来てそんな子供の遊び事のやうな事で権利を主
張しやうなんて、氣が狂つてるのぢやないか？

他國人 それは其の通りです。あなたの考かんが方かたから言へば、私にエリーダ
を要求する権利はたしかにありません。

ヴンケル それならどうしやうと言ふのです？力ちからづくで奪つて行ける
ものでもあるまいし——あれ自身の意志に反してはね！

他國人 いや、何でそんな事をする必要があらう？若しエリーダが私の
ものになるのなら、あれが自身の自由意志で来なくちやなりません。

エリーダ (飛び立ち叫ぶ)私自身の自由意志で——！

ヴンケル そんな事が——！

エリーダ (獨語して)私自身の自由意志で——！

ワンゲル 君は氣が狂つてゐるに違ひない。行きたまへ！此の上君に用はない。

一四四

他國人 (懷中時計を見て)もう間もなく私は船へ歸らなくちやならない。
(一歩進んで) まあ、まあ、エリーダ、これで私は私の義務を果たしたのだ
(猶近寄り) 誓つた言葉を守つたのだ。

エリーダ (後退りし乍ら嘆願するやうに) お、どうぞ私に觸らないで下さい！

他國人 明日の晩まで待つてやるから、よくそれを考へて御覽——
ワンゲル 何も考へる事はない。君自身立ち去る仕度をしたらよからう！

他國人 (なほエリーダに) 私はこれからあの汽船で入江を上つて行くのだが、明日の晩は歸るから、その時また逢はう。お前はこゝで、庭で私を

待つてゐなくちならない。この事はお前と二人きりで決したいから。分かつたか？

エリーダ (柔らかに震へ乍ら) お、お聞きなすつて、あなた？
ワンゲル 驚かなくてもいい。来るのを止める工風があらう。

他國人 とにかく、さやうならエリーダ。では明日の晩に。

エリーダ (頼むやうに) いけない、いけない——明日の晩來ないで下さい！二度と來ないでゐて下さい！

他國人 それで若しその時まで、私と一緒に海へ行く決心がついたら

エリーダ おゝそんな風に私を見ないで下さい——

他國人 その場合には、すぐ出發するやうに用意して置かなくちやならない。それが分かつてさへるればいゝ。

一四五

ゾングル 家へお這入り、エリーダ。

一四六

エリーダ 這入れません。お、手を貸して下さい、助けて下さい、あなた

！
他國人 よくおぼえておいで、明日私と一緒に來なかつたら、それが最後だよ。

エリーダ (震へ乍ら彼を見て) それが最後ですと？永久に——？

他國人 (頷いて) 一旦さうなつたら、取り返しはつかないよ、エリーダ！私は二度と此の國へ歸らないから、此の、ち私に逢ふこともなからうし、便りを聞くことも無からう。私は死人のやうになつて永久にお前と分れて了ふだらう。

エリーダ (不安げに息をして) お、——！

他國人 だから、お前のする事によく氣をおつけ。左様なら。(垣を乗り

越え、立ち止まつて言ふ) いゝかい、エリーダ——明日の晩出發されるやうに支度をしてお置き。私が來て連れて行くから。

(路をそろくと靜かに右方に去る。)

エリーダ (しばらく後を見送つて) 私自身の自由意志で、あの人は言つた！ねえ——あの人は私自身の自由意志で一緒に行かなくちやならな

いと言ひましたね。

ゾングル 氣を静めなさい。あの男はもう行つて了つたから、二度と逢ふ氣遣ひはない。

エリーダ あら、どうしてそんな事が言へて？明日の晩また來るぢやありませんか？

ゾングル 來ても構はない、お前と逢はせないやうにするから。

エリーダ。(頭を振り) いゝえ、あなた、あの人を防ぐことは出來ませんよ。

一四七

ワンゲル 出来るとも、——私にまかせてお置き。

二四八

エリーダ (それには耳を貸さなくて沈思し乍ら) あの人がこゝへ來たら——

明日の晩——そして海を越えて——あの船で行つて了つたら——

ワンゲル ふむ、さうすると?

エリーダ あの人は決して——決して歸つて來ないか知ら。

ワンゲル 然、エリーダや、それはもうたしかだよ。あゝして置けば、この

後何うすることも出來ないぢやないか? もうお前の口から、用は無
いと言ひ渡したのだから。それできまりは附いてゐるよ。

エリーダ (獨語して) ぢや明日——それとももう二度と。

ワンゲル その上、萬一あの男がまた來る氣になつても——

エリーダ (興奮して) その時はどうするのです——?

ワンゲル 何に、害にならないやうにする法があるさ。

エリーダ あら、そんな事を思はないで下さいな。

ワンゲル する法があるといふのさ! 若しいよ、——他で避ける途がな

かつたら、その時は船長殺しの罪に問へばい。

エリーダ (激しく) いえ、いえ、いえ——! それはいけません! 船長殺の事

は何にも分かつちやありません。まるつきり何も!

ワンゲル 何にも分らない! だつてあの男が自身でお前に白状した

ぢやないか!

エリーダ いゝえ、其の事は少しも! 若しあなたが何かおつしやるなら、

私、それを否定します。あの人を牢屋へ入れちやなりません! あの

人の居所は廣い海の上ですもの、それがあの人の家ですもの!

ワンゲル (エリーダを見て除々に言ふ) あゝ、エリーダ——エリーダ!

エリーダ (熱烈にワンゲルに取りつき) あゝ、あなた、ねえ——あの男の手から

二四九

私を救つて下さい！

ザンケル (やさしく離れて) さあ、おいて！私と一緒に！

(リングストランドとホルダ、二人とも釣道具を携へて、池の右方から現はれる。)

リングストランド (急いでエリーダの方に行き) あゝ、奥さん、どうでせう——不

思議な話があります！

ザンケル 何ですか？

リングストランド どうでせう——例のアメリカー人に逢つたのです。

ザンケル アメリカー人？

ホルダ えゝ、私も逢つてよ。

リングストランド 庭の^{うしろ}後を廻つて行きました。そしてあの大きなイギリス船に乗り込みました。

ザンケル あなたは何處でその人をお知りでした？

リングストランド 一度あの男と一緒に航海をしました。たしかに溺れ

死んだと思つてましたがあゝして生^{しゃう}のまゝで出て來たのです。

ザンケル 君はまだ他に其の男の事を御存じですか？

リングストランド いゝえ、併しあれは、たしかに不義をした妻君に復讐をしやうと思つて歸つて來たのですよ。

ザンケル といふと？

ホルダ リングストランドさんはね、群像の彫刻を作つて、其の中へ其の人を入れやうといふのですよ。

ザンケル 私には更に分らない——

エリーダ 其の事はあとで精しく話しますよ。

(アルンホルムとボレッツタ庭の垣の外の路に沿うて左手から入り來る。)

ボレッツタ (庭にゐる人々に) 來て御覽なさいよ！イギリス船^{せん}が入江^{いりえ}を上つ

て行くところですよ。

(大きな汽船が一艘向ふを除々とすべつて行く)

リングストランド (庭の垣の傍にゐるホルダに) あの男は、今晚きつとその女を襲ふでせうよ。

ホルダ (頷いて) 不義した妻君をね——さうよ。

リングストランド どうでせう——ちやうど丁度真夜中頃まかごろに。

ホルダ おゝ、どんなにか痛快な事ことでせう。

エリーダ (船を眺め乍ら) ちや明日あした——

ザンケル それからは、決して二度と来なくなる。

エリーダ (柔らかにそして震へ乍ら) あゝ、あなた——私を私の手から救つて

下さい！

ザンケル (心配さうに見て) エリーダ！私にはどうも——この事のうしろ

に何かあるやうに思はれるよ。

エリーダ 私を誘惑するものが其のうしろにあるのです。

ザンケル 誘惑するものが——？

エリーダ あの人は海のやうですよ。

(エリーダは思ひに沈んだまゝ、そろ／＼と庭を通つて左に去る。ザンケルは不安さうに傍についてあるき注意深く観てゐる。)

第四幕

一五四

醫師ザンケルの家の庭に臨んだ一室。左右に扉。後方正面、二つの窓の間は外廊に通する大きな硝子戸。庭の一部が下の方に見える。前方左りに長椅子とテーブル。右手にピアノが一臺、すつと後ろに大きな花臺中央に一臺の圓卓とその周圍に數脚の椅子。卓の上に満開の薔薇の鉢が載つてゐて周りには種々の植木鉢が置いてある。午前の事。ボレッタは左方、テーブルの傍の長椅子に座つて、刺繡をしてゐり、リングストランドはテーブルの上方の端の椅子にかけてゐる。パレストッドは庭で畫をかいてゐる。ヒルダその傍に立つて見てゐる。

リングストランド (兩腕をテーブルにもたせてボレッタの仕事してゐるのを暫く黙つて眺めてゐたが) そんな風に縁を取るのには難しいものでせうね、お嬢さん。

ボレッタ いゝえ、そんなでもありませんわ。たゞ氣をつけて勘定を聞

違さへしなけりや——

リングストランド 勘定？勘定をするのですか？

ボレッタ はあ、針の目を。ね、ほら。

リングストランド なるほどさうですね！どうでせう！殆ど一種の美術ですね。意匠もおやりですか？

ボレッタ はあ、下圖さへあれば。

リングストランド 下圖がないと？

ボレッタ 出来ませんの。

リングストランド それではやつぱり、ほんとうの美術とは言へませんね。ボレッタ えゝ、まあ精々で——手なぐさみですわ。

リングストランド 併し何うですね、あなたは屹度、美術を習へば習へる方

一五五

だと思ひますね。

ホレツタ ちつともその傾向がなくなつても？

リングストランド え、構ひませんとも——若しあなたが絶えず本當の美術家と一緒にゐらつしやることさへ出来たら——

ホレツタ 其の人から習へるとお思ひなさつて？

リングストランド 習へるつて、普通の意味ぢやないのですが、段々に分かつて来るだらうと思ひます——一種の奇蹟のやうにね。

ホレツタ 妙な考へですことね。

リングストランド (間を置いて) あなたは是れまで本氣でお考へなすつた事がありますか——つまり深く眞面目にですね、結婚といふ事を？

ホレツタ (ちらと見て) あの——？いゝえ。

リングストランド 私はあります。

ホレツタ あら、さう？

リングストランド え、私はそんなやうな事をしばしば考へます。殊に結婚についてさうです。それから、之れに關する書物も随分讀んで見ましたが、私の考へでは結婚は一種の奇蹟と言つていゝですね。

女が次第にかう變形して、夫に似て来るものですよ。

ホレツタ 夫と同じ趣味を持つといふのですか？

リングストランド はあ、それです！

ホレツタ そりやさうでも、能力の方はどうでせう？——夫の才能とか

技術とかは？

リングストランド ふむ——さうですね——それらもやつぱり、さうでな

い譯はありませんね——

ホレツタ ぢや、何でせうか、男が書物とか思想とかで得たものも、そんな

風に妻君に移つて行くでせうか？

リングストランド はあ、それもです、段々に奇蹟のやうにしてね。併し無論こんな事は、眞實な結婚でなくては起こりません。相愛して本當に幸福な結婚でなくては。

ボレッタ では、それと同じやう夫が妻の方へ引きつけられて了ふ事もあるとはお思ひなさらない？つまり妻君に似て來るのですよ。

リングストランド 夫が？いゝえ、そんな事は、ついぞ考へたこともありません。

ボレッタ けれど、どうして一方だつてさうならないのでせう？

リングストランド なりませんね。男は一生を捧げるだけの仕事を持つてゐます。男が強くてしつかりしてゐるのはその爲です。一生の事業があるのです。

ボレッタ どんな男でも？

リングストランド いや、私は主として美術家の事を考へてゐたのです。

ボレッタ 美術家は結婚していゝものだとお考へなすつて？

リングストランド いゝですとも。眞に愛するものが見つかりさへすれば

ば

ボレッタ 其時だつて、美術家はむしろ自分の藝術だけに一生を捧げるのがいゝと私は思いますわ。

リングストランド 無論そりやそうなくちやなりません、併し結婚したつて充分に出来ることです。

ボレッタ それならその女はどうなるでせう？

リングストランド その女？どの女です——？

ボレッタ その人と結婚した女。その女は何を目的に生活するのでせ

う？

リングストランド その女も矢張り夫の藝術を目的に生活しなくちやありません。それが女に取つては此の上もない幸福であるべきだと私は思ひますね。

ホレツタ ふむ、——私はそんなにも思ひません——

リングストランド ですけどお嬢さん、たしかですよ。女が夫のために受ける幸福は尊敬とか名譽とかばかりぢやあないので、そんなものは寧ろ言ふに足らない小部分なのです。女は夫の創作を助けることが出来ます——常に夫の傍にゐて、勞作を軽くしてやるのです。夫に侍いて、其の生活を徹頭徹尾安樂な愉快なものにしてやるのです。女に取つてこれほど立派な幸福はないと思ひます。

ホレツタ まあ、何てあなたは自分勝手な人でせう！自分ぢや分からない

いのですね。

リングストランド 私が自分勝手ですつて？とんでもない——あゝ、もう少しよく私を解してさへ下すたら——（ホレツタの方に身を屈めて）お嬢さん、——私が行つて了りましたら——そして私は間もなく——

ホレツタ（同情して彼れを見る）あら、そんな心細い考へを起すものぢやありませんよ。

リングストランド 僕はさう心細いことだとも思ひません。

ホレツタ どういふ譯で？

リングストランド 僕は此の一ヶ月許しの間に立ちましてね、最初に家へ寄つてそれからすぐ南の方へ行くのです。

ホレツタ あゝ、さう。分かりました、分かりました。

リングストランド で、時々僕の事も思ひ出して下さるでせうか、お嬢さん

ポレッタ え、そりやねえ。

リングストランド (嬉しそうに) ちや、どうかそれを約束して下さい。

ポレッタ え、約束しますわ。

リングストランド きつとですかポレタさん？

ポレッタ きつと。(語調を變へて) ですがそんな事が何になるでせう？

何にもなるものぢやありません！

リングストランド だつてあなた？あなたが此處にゐて僕の事を思つて下さると思ふと僕は非常に嬉しいです。

ポレッタ はあ、ですけどそれが何になるでせう？

リングストランド それが何ういふ事になるかは、僕にも分かりませんが

ポレッタ 私にも分かりません。其のあひだにはいろんな事が起こるも

のですから、もう、ありつたけの事が出て来るものですから。

リングストランド さうですわ、何か奇蹟のやうなものでも現はれるか知れない。運が向いて来るか——何かそんな事がありますよ。僕は確かに運の好い人間だといふ自信がありますから。

ポレッタ (活氣づいて) え、さうなのよ！さうお思ひでせう？

リングストランド はあ、確かにさう信じてゐるのです。そして——三四年たつと——有名な彫刻家になつて、工面もよくなり、健康も回復して歸つて来て——

ポレッタ はあ、ねえ、さうさせたいわね。

リングストランド それはもう、さう信じてゐらつしやい——あなたがたい僕おれの南方みなみへ行つてゐるあひだ、本當に温あたたい心で思つて下されば、それで大丈夫です。あなたは其の約束をして下さいましたね。

ポレッタ はあ、お約束してよ。(頭を振り乍ら)けどやつぱり、それが何にも
なりつこはありません。

リングストランド なりますともポレッタさん、少なくともそれが僕の群
像を作る助けになつて、より容易く、より早く進歩するやうになりま
す。

ポレッタ さうでせうか？

リングストランド え、僕さふいふ感じがします。それからあなたにし
ても、張合があるだらうと思ひますよ——こんな邊鄙な土地にゐな
がら、——いは、僕の製作を助けてゐるのだとお考へなすつたら。

ポレッタ (相手を見て) で——あなたは、あなたに取つちや？

リングストランド 私は——？

ポレッタ (庭の方を見て) しつ！何か他の事を話させようよ、アルンホルム

さんが来てよ。

(アルンホルム左手庭の中に出て来る。立ち留まつて、パレストッド及ホルムと
話をする。)

リングストランド ポレッタさん、あなたはあの、昔の先生がお氣に入つて
るんですか？

ポレッタ 氣に入つてるんですつて？

リングストランド はあ、好きですかといふのです。

ポレッタ え、え、私大好きですよ、お友達としても相談相手としても
ほんといふ方です。そして機さへあれば、いろんな助けになつて
下さるのですよ。

リングストランド あの方がまだ結婚しないといふのは變ぢやありませ
んか？

ホレツタ それがそんなに變でせうか？

リングストランド はあ。財産もあるといふぢやありませんか？

ホレツタ さうだらうと思ひます。けれどあの方には屹度お嫁にならうといふものが容易に見つからないのでせうよ。

リングストランド 何故でせう？

ホレツタ それはね、あの方のお近付の娘さんといへば、大抵その先生をなすつてらつしつたのですからね。自分でさう言つてらつしやいました。

リングストランド でも、それがどうといふのでせう？

ホレツタ だつて、あなた、自分の先生だつた人の所へお嫁には行かないでせう？

リングストランド 娘が自分の先生を愛する事は出来ないのでせうか

？

ホレツタ 一人前になつてからは、さうも参りませんの。

リングストランド おやく／＼！奇態ですな！

ホレツタ (注意するやうにしつ、しつ！)

(パレステッドは少時の間道具を片付けてゐたがこれを携へて右手へ去る。ホルダはそれを手傳ふ。アルンホルムは外廊に上つて室に入る。)

アルンホルム お早う、ホレツタさん。お早う君——え——え——
ふむ！

(リングストランドの立ち上り禮をするのを氣まづげに見て冷やかに頷く。)

ホレツタ (立ち上り、近寄つて) お早う御座います、アルンホルムさん。

アルンホルム 今日皆様お變りありませんか？

ホレツタ え、有難う御座います。

アルンホルム おつ、母さんは、今日もまた海水浴に入らつしやいましたか？

ボレッタ いゝえ、上の居間に居ります。

アルンホルム 御不快？

ボレッタ どうですか？ 部屋をしめきつてゐるのですよ。

アルンホルム ふむ——しめきつて！

リングストランド 奥さんは昨日のアメリカ人でひどく愕りなすつたやうでしたね。

アルンホルム 君御自身何か御承知なのですか？

リングストランド 僕が奥さんにお話したのです、その男がちやんと生きてゐて、庭の後ろを歩いて居た事を。

アルンホルム あ、さうでしたか。

ボレッタ (アルンホルムに) あなたとお父さんは、昨晚遅くまで起きてゐらしやつたのね、さうでせう？

アルンホルム え、かなり遅くまで。或る重大な問題を議論してゐたのです。

ボレッタ 私の身の上に就いて幾らかでもお話しして下すつて？

アルンホルム いや、まだです。出来なかつたのですよ。あなたのお父

さんは何か他の事にすつかり氣を取られてゐらつしやいました。

ボレッタ (ためいきをして) あ、さう——いつもあゝなのですよ。

アルンホルム (意味ありげに見入り乍ら) けれども此の事に就いちや、いづれあなたと私とでお話しなくちやなりません。——お父さんはどちらですか？ お出かけですか？

ボレッタ きつと外科室の方でせう。私行つて連れて來ませう。

アルンホルム いや、それには及びません。私が行つた方がいゝでせう。
 ホレツタ (左手の方に聞き耳を立て) ちよつと、あなた。父が降りて来たや
 うですよ。さうです。ちや、きつと上で、おつ母さんの所にゐたので
 す。

(アングル左手の戸口から入る。)

アングル (アルンホルムに手を差し延べて) あゝ、君もうお出で下すつたので
 すか? よくこんな早く。實は今一度是非お話しなくてはならな
 い事がありましたね。

ホレツタ (リングストランドに) 少しの間庭へ出て見ませうか、ヒルダのゐ
 る方へ?

リングストランド 結構です、ね、まゐりませう、お嬢さん。

(二人は庭へ降りて背後の木立の中へ消える)

アルンホルム (二人の後を見送つてゐたが、アングルの方に向いてあの若い男の
 事をよく御存じですか?)

アングル いゝや、詳しい事は知りませんよ。

アルンホルム では、いつもあんなにお嬢さんたちと一緒にゐていゝの
 ですか?

アングル いつも一緒にゐますか? 實は氣がつかかなかつた。

アルンホルム あゝ、言ふ事には氣をお付けなさらくちやいけますま
 いね?

アングル それは、たしかにさうですが、困つた事には私にそれが出来な
 いんでしてね。娘どもはみんな自分で自分の世話をするやうに仕
 つけられて来たものだから、私の言ふことは勿論、エリーダの言ふこ
 とも聞かうとしません。

アルンホルム 奥さんの仰しやることでも？

ヴンケル え、其のうへ、妻も、そんな事に立ち入るのを好むかどうかは分りません。あれにはまるで方角違ひの事ですから。(急に話を切つて併し、こゝでお話ししやうと思つたのはそんな事ぢやありません。どうですか——あの事をも一度熟考して下すつたか？——昨晚申しあげた事を？

アルンホルム お別れしてから、ずっとあの事しか考へてゐません。

ヴンケル で一體どうすれば好いでせうな？

アルンホルム それはあなた、あなたの方が、お醫者さまですもの、私よりもよく御承知の譯です。

ヴンケル いや、それがね、醫者に取つては自分のひどく愛してゐる患者だと、却つて正確な斷定を下しがたいものですよ！そしてこれがま

た並の病氣でもなければ——並の醫者に分かるものでもなし、並の治療で行くものでもないのですからね。

アルンホルム 今日はどんな風ですか？

ヴンケル ちやうど今迄上であれの所にゐたのですが、至極落ちついてゐるやうに見えました。併しどんな氣分の時でも、其の奥の方に何か或るものが潜んでゐるやうで、それが何だか私に見當がつかない。そしてまた氣分が實に變り易くて——實に測りにくくて——ひよい／＼と、むら氣で動くのですからね。

アルンホルム 疑ひもなく頭が病的になられたせいですね。

ヴンケル 全然さうでもないのですが、其の萌芽はあれの性質の中にあるのです。エリーダは海の人種に屬してゐます、それが根本なのです。

アルンホルム　といふと、精しく申せば？

ワンゲル　君はあの荒海あらかみに生活してゐる人々が別な人種のやうに見えるのをお氣づきぢやありませんか？あれ等は殆ど海そのものゝ生活を自分等の生活にしてゐるやうです。海に大浪おほなみが立つても——潮の満干みちのがあつても、——それがみなあれ等の思想にも感情にも現はれて來るのです。そしてあれ等は決して他ほかで辛抱することが出來ない。あゝ、もつと早くその事に氣がつかなくちやならなかつたのです。エリーダを海から引離してこゝへ連れて來たのは、あれに對して罪を犯したやうなものです！

アルンホルム　このごろさうお考へなさるやうになりましたか？

ワンゲル　はあ、段々と。併し最初から分かつてゐなくちやならなかつたのです。いや、實は最初からさうとは思つてゐたのですが、自分で

それを承認しなかつたのです。たゞもうあれを愛してゐたため、何よりも自分の思ひ通りにしやうとしたのです。私は實に申譯のない程自分勝手な事をしましたよ！

アルンホルム　ふむ——誰でもそんな事情じやうけいの下には、少々自分勝手になるだらうと思ひますね。けれども、ワンゲルさん、あなたにそんな過ちがあるとは言へますまい。

ワンゲル　（不安さうにあちこちとあるき廻りながら）いや、あります、そしてそれ以來すつとさうでした。元來私はあれよりも遙かに年を取つてゐるのだから、あれに對しては一人ひとりで父ちちでも案内者でもあつて然るべきでした。あれの思想を發達させて明瞭にしてやる爲には全力を盡さなくちやならなかつたのです。所が不幸にして少しもそんな効果が見えなかつたのは、私に充分な力ちからがなかつたからです！

つとも實際はあれをありのまゝ、そつくりして置く方が私には都合がよかつたのです。で、さうして置くとはあれは段々悪くなつて來てとう／＼何うしていゝか分からない事になりました。(一層低い調子で)そこです、私が當惑のあまり君にお頼みしやうと思つてお出でを願つたのは。

アルンホルム (愕いて彼を見つめ) へえ！そのために手紙をお寄越しなすつたのですか？

ヴァンケル さうです、併しそれに關しては何も言はないで下さいよ。

アルンホルム あなた——一體どうして——私がどんな役に立つとお考へなすつたのですか？私には解せません。

ヴァンケル さうでせう、無論君には分りますまい。私が誤解してゐたのです。私はエリーダが嘗て君を思つたことがあつて、今でも内々心

を其の方に惹かれてゐるのだと想像しました。それで今一度君に逢はせて、國の事や昔の事を話させたら、恐らくあれの爲にいゝだらうと思つたのですよ。

アルンホルム では奥さんの事でしたか、こちらで私を待つて、——待ち焦れてゐるものがあるとお手紙にあつたのは！

ヴァンケル さうです、他に誰れがゐませう？

アルンホルム (早く) さうでせう。——併し私には分りませんでした。

ヴァンケル 其の筈です、今もいつた通りでね、私が全く方角違の事を考へてゐたのだから。

アルンホルム それでゐてあなたは御自身を自分勝手だと仰しやる！
ヴァンケル いや、私は大變な過ちをしたのだから、それを償はなくちやな

らないと思つてゐます。少しでも妻の心を落ち着ける事なら、どんな方法でも拒む権利はないと思つてゐます。

アルンホルム あなたは、あの妙な男が奥さんの上に持つてゐる力を、どう説明しやうとなさるのですか？

グンゲル ふむ、それはねえ——此の問題に説明を許さない方面があるかも知れない。

アルンホルム 何か到底説明し難いものがあるとおつしやるのですか？全然説明し難いものが？

グンゲル 兎に角、さしあたり説明しがたいものですよ。

アルンホルム あなたはさういふものをお信じですか？

グンゲル 信するでも信じないでもありません。私には單に分からな
いといふだけです。だからそんなものは、其のまゝにして置くほか

はない。

アルンホルム 併し此の一點はどうですか——あの、子供の眼に關する、
奥さんの不思議な奇怪な説は——

グンゲル (熱心に) 私はあの眼の事なんぞ少しも信じはしません。あんな事は信じやうとも思ひません！あれは妻の純然たる空想に過ぎ
ません。

アルンホルム 昨日お逢ひなすつた時その男の眼を氣をつけて御覽で
したか？

グンゲル え、勿論見ましたよ。

アルンホルム で少しも似た所は見えませんでしたか？

グンゲル (避けるやうに) ふむ——實は何と言つていゝか分らないが、私が
逢つた時は十分に明るくもなかつたし、それにエリーダから其の事

をいろ／＼聞かされてゐたのですから——どうも先入主となつてゐて、偏見なしに見ることはむづかしかつたやうです。

アルンホルム さうでせう、さうでせう、それは其の筈です。では今一つ此の點はどうですか、奥さんの恐れと不安の念がちやうどその妙な男の歸らうした時から起こつたといふ事は？

ザンゲル それもさ——やつぱり妻の空想で造りあげた夢を信じてゐるのですよ、一昨日からの事ですもの。あれの病氣は、今あれが言つてゐるほど、さう突然——さう急に起つたのぢやありません。それをあのリンググストランドといふ若い男から、ジョンストン又はフリーマン——とか何とかいふもの——が三年前に歸りかけてゐた——三月の事だ——といふやうな話を聞いて、自分で自分を説きおとして、その氣病ひがちやうど同じ月から起こつたと極めて了つたのです

よ。

アルンホルム で、さうではなかつたのですか？

ザンゲル 決してそんな事はありません。病氣の徴候はもう、すつと前からありました。もつとも、ちやうど——偶然の事で——やゝ激しい發作にかゝつたのが確かに三年前の三月でした——

アルンホルム なるほど——！

ザンゲル もつとも、それも様子を知つてゐればすぐ譯もなく説明の出来ることで——その頃あれが、——どういふ容態でゐるかといふ事さへ知つてゐればね。

アルンホルム ではその徴候はどちらにでも取れるのですね。

ザンゲル (兩手をしばつて) それでどうすることも出来ない！ 全く手段に盡きてしまつた！ 療治のしやうが無い——！

アルンホルム 何んなものでせう、一そお住まゐるを變へる決心をなすつちや——何處かほかへ移つて御覽になつては？そしたら或はあの方^{かた}に取つて一層居心地のいゝ所が見つかつて、萬事うまくは行きますまいか？

ヴァンケル 君、私がまだそれを言ひ出さないでゐたとお思ひかね？私はシヨルドヅックの方へ移らうと言つたのでよ。所があればそれを望まない。

アルンホルム それもいけないのですか？

ヴァンケル いけない、そんな事をしたつて無益だと言ふのです、それもさうでせう。

アルンホルム ふむ——さうお考へですか？

ヴァンケル え、それにね——も一歩進んで考へて見ると——私にも本

當はどうしてそれがやれるか分つてゐません。娘等の爲めを思へばそんな隅つこの邊鄙な所へ移るのがいゝ事だとはとても言へない。つまりあれ等は何處かいゝ土地に住んで少なくとも何等かの機會があつたら、いざといふ時の仕度^{しど}のして置ける所になくちやならないのですからね。

アルンホルム 仕度ですつて？あなたももうその事をそんなに御心配になつてゐるのですかね？

ヴァンケル でも君、勿論ですよ、其の事も考へなくちやなりません！併しまた——一方には——あのかはいさうな病人のエリーダの事もあゝ——あゝ、アルンホルムさん——私は實際どちらから言つても、火水^{かみづ}の間に立つてゐますよ！

アルンホルム ポレッタさんの事は御心配に及びますまいね——（途切れて）

何所へあの方は——あの二人は行つたのでせう？

一八四

(開いてゐる戸の所に行き外を眺める。)

ヅンケル (ピヤノの傍で) あゝ、私はどんな犠牲でも喜んで拂ふ——あれら三人のためなら——たい何うしてそれをやればいゝか！

(エリーダ左方の戸口から入る。)

エリーダ (早口にヅンケルへ) 今朝は外出なすつちやいけませんよ。

ヅンケル あゝ、行かないとも。一緒に家に居るさ。(寄つて来るアルンホルムを指して) だがお前まだこちらへ御挨拶をしないね？

エリーダ (振り向き) おや、アルンホルムさん、そこにいらつしたの？(手を差し延べて) お早う御座います。

アルンホルム お早う御座います奥さん。今日はまだいつものやうに海水浴にはいらつしやらないんですか？

エリーダ どうして、今日はそんな事を考へちやゐられないんです。まあちよつとおかけなさらない？

アルンホルム 有難う、又後ほど——(ヅンケルを見て) お庭でお嬢さん達にお目にかゝる事にしてありますから。

エリーダ どうですか庭にゐますか知ら。あの子等つたら何所へ行くのだから少しも知れやしませんから。

ヅンケル さうさ、多分池の近所にゐるだらう。

アルンホルム 見つかるだらうと思ひます。

(うなづいて外廊を通り庭に下り、右手に去る。)

エリーダ 何時でせう、あなた？

ヅンケル (懐中時計を見て) 十一時少し過ぎてゐる。

エリーダ 少し過ぎてゐる。そして今夜の十一時か十一時半にはあの

一八五

汽船が来る。あゝこれが通り越して了つたら！

ザンケル (更に近く寄つて) エリーダや、私は一つお前に聞きたい事があるがね。

エリーダ 何？

ザンケル 一昨日の晩——あの見晴の上で——お前は此の三年間何度となくあの男をまざぐと眼の前に見たと言つたね。

エリーダ え、見ました。確かに見ました。

ザンケル ふむ、併しどんな風に見えたのかい？

エリーダ どんな風に見えたかつて？

ザンケル つまりね、お前が眼の前に見たと思つたとき、その男はどんな様子をしてゐたかといふのさ。

エリーダ だつて、あなた——あなたはもう御自身でその男の様子を御

存じぢやありませんか。

ザンケル では、お前が見たと思つた時も、あの通りに見えたのかい？

エリーダ え、さうです。

ザンケル 昨夜實際に見た、あの通りに？

エリーダ え、あの通りに。

ザンケル では、どうしてあの時すぐに、それとお前に見分けがつかかなかつたのだらう？

エリーダ (得いて) 見分けがつきませんでしたか？

ザンケル さうさ。お前自身で後にさう言つたぢやないか？あの他國人が誰れだつたか最初は見分けられなかつたつて。

エリーダ (感じて) さう、それは全くその通りねえ！不思議ぢやありませんか？すぐ見分けられなかつたなんて！

ザンケル 唯その眼で分かつたとお前は言つたね——あの眼で！あの眼で！

エリーダ え、さうです——

ザンケル だつて、お前は見晴の上で、さう言つたぢやないか？いつも十年前に別れた時そつくりの姿で、現はれたつて。

エリーダ そんな事を言ひましたか？

ザンケル 然。

エリーダ ぢや、その頃も大體今のやうな様子をしてゐたのでせうよ。

ザンケル いや、お前が一昨日の晩歸り途中で話したのはまるで違つてゐたよ。十年前には鬚は無かつたと言つたし、着物も全く違つてゐたらしい。それから眞珠の入つた胸飾りのピンはどうした？昨日は何もそんなものを着けてゐなかつたよ。

エリーダ さう着けてゐなかつたのね。

ザンケル (尋ねるやうに見て) だからエリーダや、少し考へて御覽。多分お前はプラット、ハムメルで別れた時、その男がどんな風をしてゐたか想ひ出せないのだらう？

エリーダ (考へて見るやうに一寸眼を閉ぢて) 十分はつきりとは想ひ出せません。さうです——今日はちつとも想ひ出せません。不思議ぢやありませんか？

ザンケル そう不思議でもないよ。新しい生きた姿が眼の前に現はれて古いのを搔き消して了つて、もう見えないやうにしたのだ。

エリーダ さう思つて、あなた？

ザンケル あ、そしてそれがまたお前の病的な色々の空想をも搔き消して呉れる。だから實體が現はれるといふ事はいゝ事だ。

エリーダ いゝ！あなたはそれをいゝ事だと御覽なすつて？

ザンケル さうさ、實體が現はれゝば救ひになるかも知れない。

エリーダ (長椅子に腰を下して) あなた——此處へ来てかけて下さいな。

私考へてる事をすつかり話さなくちやなりませんから。

ザンケル あゝ、どうか、エリーダや。(卓子の他の側の椅子にかける。)

エリーダ 私たちには——實際非常な不幸でしたのねえ。——人も多

からうに、斯うして私たち二人が一緒になるなんて。

ザンケル (愕く) 何だと？

エリーダ さうですとも、つまり——當然の事です。不幸に終るほか

は無かつたのですよ。——私たちが一緒になつた方法を考へて見

ると尙さらさうです。

ザンケル 方法がどうして悪い——？

エリーダ 聞いて下さい、あなた——此の上も私たちは自分を偽つた
り——お互に偽つたりしてやつて行く必要はないのですよ。

ザンケル 私達がさうしてゐるだらうか？偽るつて？

エリーダ えゝ、偽つて。でなければ少くとも——事實を隠してゐるの

です。交り氣のない正味の事實といふのは——あなたが出向いて

いらつしやつて——私を買ひ取つてお了ひなすつたのです。

ザンケル 買ひ取つた——！お前——買ひ取つたつて？

エリーダ あゝ、私だつてちつともあなたよりは善くはなかつたのです。

其の取引に同意して、出かけて行つて、自分の身をあなたに賣つたの

ですもの。

ザンケル (深く心若しげに妻を見て) エリーダ、お前ほんとうにそんな事を

いふ氣かい？

エリーダ だつて、他に言ひやうはないでせう？あなたは家の中の空になつたのが堪えられなくて、新しい妻をお探しなすつたのです——

ザンゲル それから子供等のために新しい母を、エリーダや。

エリーダ それもでしたらう——言はゞついでにね。もつとも——あなた、私といふものが母となるに適するやら、適しないやら、少しも御存じなかつたのです。たゞ私に逢つて、一度か二度お話なすつたばかりで私に思ひついて、そして——

ザンゲル 然、まあ何とでもいゝやうに言ふがいゝ。

エリーダ それから私は、私として——どうする事も出来ない、頼りのない一人ぼつちでした。ですから、その取引に飛びついたからと言つて、少しも無理は無いぢやありませんか——あなたがいらして、一生私の身を支へてやるとお申し出しなすつたのですもの。

ザンゲル 私はね、エリーダや、決してさうは思はなかつたよ。財産と名のつくものも少しはあるから、来て私や子供と一緒に暮しては呉れまいかと、むき出しに聞いたばかりさ。

エリーダ はあ、さうでした。けれど私がそれを承知しちやならなかつたのです！何んな價がつかうと、決して承知しちやならなかつたのです！決して自分の身を賣つちやならなかつたのです！そんな事よりか、どれ程卑しい労働でも——どれ程ひどい貧乏でも——自分の自由意志で——自分の選んだ道に行くのが優でした！

ザンゲル (立ち上り) それでは、此の五六年一緒になつてゐたのがお前に取つては全然値打のないことだつたのか？

エリーダ あゝ、さうお取んなすつちやいけない、あなた！勿體ないほどあなたからは親切にして貰ひました。けれど私があなたの所へ來

たのは自分の自由意志でなかつたのです——それが要點ですよ。

ザンケル (エリーダを見て) お前の自由意志でない?

エリーダ え、私があなたに一生を任せたのは、私自身の自由意志ぢやなかつたのです。

ザンケル (柔かに) あ、考へて見ると——昨日あの男が其の言葉をつかつたね。

エリーダ すべてあの言葉の中に籠かかつてゐるのですよ。あの言葉が私に新しい光りを見せて呉れて事柄がはつきり分かるやうになりました。

ザンケル どういふ事が分かつたか?

エリーダ 私達二人が一緒になつてゐた生活は——ほんとうの結婚ぢやないといふ事です。

ザンケル (心苦しげに) それはお前の言ふ通りだ。私たちの現在の生活は全く結婚ぢやない。

エリーダ 過去の生活だつてさうです、ずっとさうです、始めからさうなのですよ。(前方を真直に見て) あの最初の——あれが實際本當の結婚だつたのかも知れない。

ザンケル 最初の? どの「最初」だといふのか?

エリーダ 私の——あの男との。

ザンケル (呆れてエリーダを見る) 私には少しも分からない。

エリーダ ねえ、あなた——お互に偽り合つてゐてもいけないし、自分で自分を偽つてゐてもいけないわ。

ザンケル そりやそうだ、勿論さうだ! けれども、それぢや何どうするか?

エリーダ ねえ、さうぢやありませんか——到底遁のがれられない事でせう

？——自分の随意で結んだ約束なら、どこまでも結婚と同じ力があるのですから。

ザンケル どうして、そんな事が——？

エリーダ (激して立ち上り) あなた！別かれませうよ！

ザンケル エリーダ——！エリーダ——！

エリダー さうです、さうです——別かれませう！どうしても、つまりはそれより他にないのですから——二人でこゝまで来た以上は。

ザンケル (抑へた熱情で) あゝ、到頭そこまで来たか。

エリーダ 来なくちやならなかつたのです。他に道はないのですよ。

ザンケル (悲しげに見て) そんな風にして、毎日一緒に棲んでゐても、お前は私のもものにならなかつたのだ。嘗て一度も私のもものになり切らなかつた。

エリーダ あゝ、あなた——どうかしてあなたを愛することが出来たらねえ！私心からそれを望んでゐるのですよ！どんなに優しくして上げて、もうあなたですよ！けれども私にははつきり感じられま

すの、——それが到底出来ない事だと。

ザンケル ぢや離縁しろといふのか？ 離縁——正式な法律上の離縁、——それがお前には入用なのか？

エリーダ まあ、あなたは少しも私を理解して下さいさらないのね。私が言つてゐるのは、形式の事なんかぢやありません。そんな上部の事に拘らつてゐるのぢやありません。私の望むのは、私達二人が銘々の自由意志で、お互に自由になる相談がしたいといふのです。

ザンケル (氣持悪しげに頷く) 取引を無効にする——さうだ。

エリーダ (熱心に) さうなの！取引を無効にするの！

アングル　そしてその後には？ エリーダその後には？ お前は私達二人の將來の事を考へたか？ 私たちの生活はどんな風になるだらう——お前のも私のも？

エリーダ　それはなるやうになるよりほかありません。未來は未來でいゝやうになつて行きます。お願ひしてゐる事が——その方が大事なのですよ！ 私を自由にして下さい！ 今一度私にすべての自由を與へて下さい！

アングル　エリーダ、——それは私に取つて恐しい要求だよ。とにかく少し落ち着いて考へてから極りをつけやう。もつと根本から此の事は相談をしやう。それからお前も、自分のしてゐる事を反省して見る時間がいらう！

エリーダ　けれどそんな事で無駄にする時間はありません。今日すぐ

に私の自由を返して下さい下さらなくちやならない！

アングル　何故、今日さ？

エリーダ　あの人の來るのは今夜ですもの！

アングル　（びつくりして）やつて來る！ あの男が！ あの他國人がそれに何の關係があるのか？

エリーダ　私、全く自由な身になつてあの人に逢はうと思ひますの。

アングル　で、何を——それから爲やうといふのだ？

エリーダ　私は他人の妻だからとか——選擇の自由がないからとか言つてそれを口實に逃げるのがいやだからですよ。そんな事をしてゐちや、自分の行ひに少しもきつぱりした所が無くなりません。

アングル　選擇の自由だと！ 自由にお擇び、エリーダ！ 此の事について自由に擇んで呉れ！

エリーダ はあ、擇ばなくちやなりません——自由にどつちかを選ばなくちやなりません。あの人を一人行かすか——それとも私が一緒に行くか、私の自由でなくちやなりません。

ザンケル お前は自分の言つてゐることが分つてゐるか？あの男と一緒に
行つて！生涯の運命をあの男の手に任して了ふ！

エリーダ あなたの手にだつて、生涯の運命を任したちやありませんか
！熟考した譯でもなく。

ザンケル そりやそうかも知れない。併しあの男に！あの男に！全く
の他國人に！殆ど何も知らない男に！

エリーダ あなたをだつてもつと知らなかつたのですよ。それでもあ
なたと一緒にになりました。

ザンケル 少なくともあの時は、是れからどんな生涯に這入るのだから、相

應に分つてゐた筈だ。それが今度は？今度は？考へて御覽！今度
は何が分つてゐるのか？何にも分かつちやゐない。誰れだかさへ
も——第一人間だかどうかさへ。

エリーダ (前方を眞直に見て) それはさうです。けれどそこが私たまらな
く物凄いですよ。

ザンケル ああ、さうだらう——

エリーダ その爲めに私は、どうあつても従はなくちやならない気がす
るのです。

ザンケル (エリーダを見て) たまらなく物凄いために？

エリーダ ええ、そればかりに。

ザンケル (近くに寄り) ねえ、エリーダ——その物凄いと云ふのは、實際ど
ういふ意味なのだ？

エリーダ (考へて) 物凄いと云ふのはね——何だか誘惑せられるやうで、同時に怖ろしいのですよ。

ザンケル 誘惑？

エリーダ 誘惑だと思ひます、重に。

ザンケル (餘かに) お前は海と生命が通つてゐるのだ。

エリーダ 海にも物凄いと云ふところがある。

ザンケル お前だつてさうだ。誘惑せられるやうな、そして怖ろしいやうな所がお前にもある。

エリーダ さう思つて、あなた？

ザンケル 私は今まで實際お前を知らなかつた。根本から知ることが出来なかつた。それが今やつと分りかけて来たよ。

エリーダ ですから私を自由にして下さらなくちやなりません！あな

たやあなたの家と私との關係を、すべて切り放して下さい！私はあなたが考へてゐらつしやるやうな女ぢやありません。それが今御自身で分つたでせう？さあこれで、私たちはお互に了解し合つて別れることが出来ます——銘々自分の自由意志で。

ザンケル (洗んで) 恐らくそれが二人の爲めに一番いゝだらう——別れるのが。併しさうは言つても、私にはそれが出来ない！私に物凄と思ひをさせるのは、お前だ、エリーダや。誘惑——それが何よりもお前なのだ。

エリーダ さうでせうか？

ザンケル 今日一日を迷はないで過ごしたいものだ——冷静によく考へてね。私は今日はお前を自由にしてお出で行かすことが出来ない。そんな事をしてはならない——お前のためだ、エリーダ。私はお前

を保護するのが私の権利だとも義務だとも信ずる。

エリーダ 保護？何に對して私を保護して下さるのですか？私をおびやかしてゐるのは、何も外からの暴力や亂暴ぢやありません。物凄いい力はもつと深いところにあるのですよ。物凄いと云つても、たゞ私自身の心の中の誘惑に過ぎないので、ですから、どうしてあなたがそれに對抗なさることが出来ませう？

ザンケル それに負けないやうにお前に力を添へて助けてやることは出来やう。

エリーダ えゝ——若しそれに負けないとする氣があつたらね。

ザンケル その氣はないのか？

エリーダ あゝ、そこが私に分らないのですよ！

ザンケル 今夜すべて——極まるだらうよ、エリーダ——

エリーダ (叫んで) えゝ、ねえ——！最後の極まりが、もうすぐつくのです

！生涯の極まりが！

ザンケル ——そして明日は——

エリーダ えゝ、明日は！私の本當の未來は壊れてゐるかも知れません

ザンケル お前の本當の——？

エリーダ 完全な自由の生活は壊れて了つて——私に取つても、それから多分あの人に取つても壊れて了つて！

ザンケル (腰を捉え低い調子で) エリーダ——お前はあの他國人を愛してゐるのか？

エリーダ 私が——？あゝ、どうして分りませう！私はたゞ物凄いなと思ふ——心で、そして——

ザンケル —— そして —— ?

エリーダ (身を振り放して) —— そして何んだか私の家はこの人と一緒の所のやうな気がします。

ザンケル (うなだれて) 分りかけて来た。

エリーダ で、どんな助けを、どんな療治をして下さらうといふのですか ?

ザンケル (悲しげに見て) 明日は —— あの男が居なくなるだらう。するとお前の災難もなくなるだらうし、その時お前を自由にして行かせてやる。取引を帳消しにしやうよ、エリーダ。

エリーダ あゝ、あなた —— ! 明日では —— もう遅いでせうよ。

ザンケル (庭の方を見やり) 子供等が! 子供等が —— ! 少くともあれ等だけには —— 今はねえ。

(アルンホルム、ボレッツタ、ヒルダ、及リンケストランド庭に現はれる。リンケストランドは家に入らないで、別れを告げて左方に入る。他の人々は室に這入つて来る。)

アルンホルム あゝ、どうです、私達は、大計畫を立てましたよ ——

ヒルダ 今晚みんな、入江へ乗り出してね ——

ボレッツタ いけない、いけない、黙つておいで!

ザンケル 私達も計畫を立てたよ。

アルンホルム あゝ —— さうですか?

ザンケル 明日エリーダはちよつとシヨルドヴィツクへ行くのです。

ボレッツタ 旅行して —— ?

アルンホルム 奥さん、それが何よりですよ。

ザンケル エリーダは又家へ歸りたいのです、海の家へ。

ヒルダ (エリーダの方へ小走りに走り寄つて) あなた、旅行なさるの？ 行つて了ふのだよ！

エリーダ (愕いて) 何ですよ、ヒルダ！ どうしたのさ？

ヒルダ (軀繕ふて) 何でもないの、何んでもないの。(振り返り小聲で) 是非いらつしやいよ！

ポレッタ (心配げに) お父さん、あのね——あなたもいらつしやるのでせう——シヨルドウィツクへ！

ザンケル いや、私は行かないよ！ たゞ折々行つて見ることになつて——

ポレッタ そしてまたお歸りなさるの——？

ザンケル あゝ、歸るとも——

ポレッタ ——それも折々、でせうね？

ザンケル お前、さうするほかはないよ。(歩み去る)

アルンホルム (さゝやく) 後に話したいことがありますよ、ポレッタさん。

(ザンケルの方に行き。低い聲で戸口の所で話す。)

エリーダ (柔かくポレッタに) ヒルダはどうしたのだらう？ ひどく氣を腐らしてやるやうね！

ポレッタ ヒルダが不斷から焦れてゐるものがあるのですよ、あなた氣がつきませんか？

エリーダ 焦れて？

ポレッタ あなたが此の家へいらつしてからずつと！

エリーダ 氣がつかないの——何だらう？

ポレッタ 唯一言、あなたから優しい言葉を。

エリーダ あゝ——！ 私の生涯の仕事がこゝにあるのか知ら！

(頭の上で兩手を握り、動かすに前方を見つめてゐる。思想や氣分の紛亂してゐる)

るのに苦しむ如く。

(ザンケルとアルンホルムは叫き合ひ乍ら前の方へ出て来る。)

(ボレッツタは右手の隣室を覗き、その戸を廣く明け放つ。)

ボレッツタ さあ、お父さん——御飯になりましたから、——

ザンケル (強ひて胸を抑へて) あ、さうかい？よし／＼。アルン、ホルムさん、

おいでなさい！一つ別れの盃でも酌みませう——「海の夫人」とねえ。

(人々右手の戸の方に行く。)

第五幕

ザンケル家の庭の片隅、鯉池の邊り。夏の夕暮の光が黒んで行く。アルンホルム、ボレッツタ、リングストランド及ヒルダ短艇を入江の岸に沿うて漕ぎ乍ら左手から現はれる。

ヒルダ ほら、此處からだとすぐ飛び上れてよ！

アルンホルム いけない／＼、お止しなさい！

リングストランド 僕にや飛べませんよ、ヒルダさん。

ヒルダ あなたも飛べなくつて？アルンホルムさん。

アルンホルム 私は御免だ。

ボレッツタ 浴舎の段々のところから上りませう。

(皆々右の方に漕ぎ出して行く。)

(此の時、バレステッド樂譜と佛蘭西式角笛とを携へて右手から路に現はる。短

艇にゐる人々に挨拶し、振り返つて話をする。先方の答は次第々々に遠く聞こえる。

三三

パレステッド 何んですつて？——さうです、無論イギリス船の爲めにですよ。今年の最後の航海ですからね。併しあなたがたも音楽が聞きたけりや、餘り長くなつちやいけませんよ。(叫んで)何ですと？(頭を振つて) 何んだかちつとも聞えないや！

(エリーダ頭にシヨールをかけて、左手から入り來たる、ザングルその後から續く)
ザングル だが、お前、時間はまだたつぷりあるよ。

エリーダ いえ、もうありません！あの人が何時來るかも知れない。

パレステッド (外垣根の所で) やあ、先生、今晚は！奥さん今晚は！

ザングル (氣がついて) あ、君でしたか？今晚又音楽があるのですか？

パレステッド はあ。音楽會が一つ出来るだけのことをやつて見やうと

いふのです。此の節はお祭りつづきで、今夜はイギリス人のためにやるのですよ。

エリーダ イギリス船！もう見えて來ましたか？

パレステッド まだですが、入江を下つて來てゐます、あの島の間を。もうすぐ、おやつといふ間に着きますよ。

エリーダ あ、——それですよ、私の言ふのは。

ザングル (半ばエリーダに) 是れが最後の航海で、今夜が過ぎると、もう來なくなる。

パレステッド 濕つぽいお話ですな、先生。だが先も申したやうに、あの船のために音楽會を開かうといふのも、全く其の心持ですよ。さうですとも、——！楽しい夏が段々終りに近づいて來て、芝居の文句ぢぢやないが「やがて海峡は見渡す限り氷にとざされん」

三三

エリーダ 見渡す限り氷にとざされて——ねえ。

パレストッド 考へると悲觀して來ますね！長い間愉快な夏の子になつてゐたのが、之れからまた薄暗い日の中で過ごさなくちやならないと思ふと、辛いことですよ。もつとも、それも初めだけですがね、何故といふと、人間て奴はアックリーアックリーマタイズして行けるものですからね、つまり其の季候に同化するのですよ、奥さん。全くですよ。（禮をして左方に去る。）

エリーダ （入江を見渡して）あゝ、斯うしてゐるあひだの苦しいこと！生涯の極りがつくのだと思ふと、此の半時間もどかしくつてしやうがない！

ザンゲル ではお前まだあの男と直接に話をする積りかい？

エリーダ 是非自分で話さなくちやなりません、自分の自由意志でどち

らかを選ばなくちやならないのですから。

ザンゲル お前にその自由はないよ、エリーダ。自由に擇ぶことは許しません——私がそれを許さない。

エリーダ あなたのでそれを止めることは出来ません。あなたに限らず、誰れにだつて出来ない事です。それは、私があの人と一緒に持つて——生涯をあの人に任せるといふ場合に、それをお禁じなさることは出来ませう。若し私がさういふ擇び方をしたとすればね。つまり私の意志に逆らつて、私の體を無理やり此處へ引き留めるのですから、それならあなたに出来ませうさ。けれど私が魂の奥で自由——あなたよりもあの人を擇んだとすれば——それがどうあつてもさうしか思はれない場合にはそれを止めることは出来ません。

ザンケル なる程それはさうだ。それを私が止める事は出来ない。

エリーダ それに私行くのを拒む理由もないのですよ！こゝでは何一つ私を引き留めて放さないやうなものがないのですから。あなたは此家に少しも根をおろしてゐないのですよ。子供は私のものぢやなし——あれらの心持がね、どうしたつて私のものにならないのです。若し私が出て行くとすれば——今夜あの人と一緒に私が明日一人でシールドウキックに立たうが——どちらにしても私は鍵一つ渡して行く世話もなければ指圖一つ残して行くこともありません。何一つ私ができる事はないのです。そんな風にして、私は少しも此の家に根をおろしてゐませんの。この家へ来た初めから何事に限らずまるで除けものになつてゐたのですもの。

ザンケル お前が自身でその方を望むのだ。

エリーダ いゝえ、さうぢやありません。私はどちらを望むといふこともなかつたのです。たゞ何でも私が来たときのままに、そつとして置いただけ。却てあなたこそ——誰れよりも——そんな風にするのをお望みなすつたでせう？

ザンケル 私はたゞお前のためとばかり思つてやつたのだ。

エリーダ え、それはね、私がよく知つてゐます！けれどさういふやり口だと、報ひがついて來ます、自分で自分に復讐をするやうになります！そんな風にして私には、もう自分を結びつけて呉れるものも支へてくれるものも——助けて呉れるものも全くなくなつて、私たち夫婦の生活に一番貴い寶でなくちやならないものさへ、少しも私を引き留める力にならなくなりました。

ザンケル それはよく分つてゐるよ、エリーダ。だから明日はお前が元

の自由に歸れる。その後はお前自身の生活に戻られるのだ。

エリーダ あなたはそれを私自身の生活だと仰しやるのね！どうしてそんな事がありませう？私自身の本當の生活は、あなたと一緒にいつた時に壊れて了ひました。(恐れと不安で両手を握りしめそして今——

——今夜——半時間の内に——私が振り棄てた人がやつて来る——その人の眞實に對しては、私だつて少しも不實な事をしちやならなかつたのですよ！いよ／＼其の人がやつて来て私に——之れつきり最後だと言つて——新しい生涯を始める機會を與へやうとする——私自身の本當の生活を——あの引きつけられるやうな恐しい生活を——そして私はどうしてもそれを思ひ切ることが出来ない！私自身の自由意志でも思ひ切れない！

ザンケル だからお前には、夫であり——醫者である私がゐて——お前

の手から其の力を取り出して、お前のためになるやうに取計らふ必要があるのぢやないか？

エリーダ あなた、それはよく分かつてゐますよ。時々私は私だつて無論さう思ひます、あなたの翼の下にしつかりと身をひそめて、あの恐ろしい誘惑の力を防いだら、どんなにか平和で安全だらうとは思ひますのよ。けれど私にはそれが出来ない。出来ない、出来ない——どうしても出来ない！

ザンケル おいでエリーダ——少し散歩しやうぢやないか？

エリーダ さうしたいのですけれど、私、出るわけに行かないのですよ。

あの人が私に、こゝで待つてゐなくちやならないと言つたでせう？

ザンケル まあ、おいで。まだ充分時間があるから。

エリーダ さうでせうか？

ヴァンケル 大丈夫、充分だ。

エリーダ ぢや少し歩あききませうか。

(二人前方右手に出て行く。同時にアルンホルムとボレッタが池の向岸に現はれる。)

ボレッタ (出て行く人影を認めて) 御覽なさいな——?

アルンホルム (柔らかに) しつ! 打つちやつてお置きなさい。

ボレッタ 此の三四日のあいだ、あの二人ふたりの仲にどんな事が起こつてたか、あなたに分かりますか?

アルンホルム 何か氣づきましたか?

ボレッタ 氣づいたの——!

アルンホルム 何か變かはつた事を?

ボレッタ え、いろんな事を。あなたには分からなくて?

アルンホルム さうさね、よくは分かりませんが——

ボレッタ あら、きつと分かつてゐるのよ。たいそれをおつしやりたくなないのでせう?

アルンホルム 少し旅行をなさるといふのが、岐度おつ母さんに利きくだらうと思ひますね。

ボレッタ さうお思ひなすつて?

アルンホルム え、あの方かたが時々少しづつ何處どこかへ出られると、すべての方面に都合がい、だらうと思ひますよ。

ボレッタ 明日あすシヨルドウィツクへ行つたら、屹度もう歸らないでせうよ。

アルンホルム だつて、ボレッタさん、どうしてそんな事をお思ひですか
ボレッタ さうに違ひないと思はれますわ。見てゐて御覽なさい! きつと歸つて來ないから。とにかく、ヒルダと私が家にゐる間はね。

アルンホルム ヒルダさんも？

ポレッタ さうですね、ヒルダはそれ程でないかも知れません。あれはまだ子供ですからね。其の上、あの子はたしかに心の中ちやエリィダさんを崇拜してゐるのですよ。けれど私とはさう行かないでせう？ 私とさう年の違はない繼母なのですから——

アルンホルム ねえ、ポレッタさん——あなたが家を出られるやうになるのも、さう遠くはありますまいよ。

ポレッタ (熱心に) さうでせうか？ あなたその事をお父さんに話して下さい？

アルンホルム え、それも話して見ました。

ポレッタ で——父はどう言ひましたか？

アルンホルム ふむ——お父さんはね、丁度今、他の考へに氣を取られて

ゐらつしやつて——

ポレッタ え、え、その事ですよ、私がかつき言つたのは。

アルンホルム 併しこれだけの事は探つて見ましたよ、つまりお父さんの方から補助を貰はうと思ひなすつちやいけないといふ事です。

ポレッタ いけない？

アルンホルム お父さんはお家の現状をすつかり私に打明けて、到底そんな事は出来ない相談だといふことを明かになすつたのです。

ポレッタ (替めるが如く) まあ、それでゐてあなたは、平氣でいゝ加減な事を私に言つてらつしやつたのね？

アルンホルム 決してさうぢやないのです、ポレッタさん。家を出ると出ないは、全然あなた自身にあることです。

ポレッタ 私にあるのですつて？

アルンホルム 世間へ出て行つて、心で望んでゐた事を學ぶのもです。こゝで斯うして焦れてゐる事に這入つて行くのもです。もつと幸福な中であなたの本當の生活をして行くのもです？ ポレツタさん、どうお思ひです？

ポレツタ (兩手を握り合せて) あゝ、ほんとうにねえ——！ けどそれは到底出来ない事ですわ。お父さんにさうして下さる力もなく、其の氣もないとしたら——。私が頼る人は世界中尋ねたつて他にないんですもの。

アルンホルム あなたは其の補助を昔の——以前の家庭教師から受けて下さる氣はありませんか？

ポレツタ あなたからアルンホルムさん？ ほんとうにあなたが——？
アルンホルム 頼りになりますとも。喜んで助言でもお手傳でもしま

すよ。私にお任せなさい。ちや私の申出を受けて下さるか？ 承知して下さいますか？

ポレツタ 承知しますつて？ 家を出て、——世間を見たり——實際の知識を廣めたり——私が楽しみにしてゐた、夢のやうな望みが叶ふのでせうか——？

アルンホルム えゝ、それがみんな、あなたの決心一つで出来るのです。

ポレツタ で、あなたが其の何といつていゝか分からない程の幸福に私を導いて下さるやうに力を貸して下さいますね！ あゝ——！ けれどねえ——私、他人からそんな事をして戴いて好いのか知ら？

アルンホルム 一向差支ありませんとも、ポレツタさん、私からなら、どんな事でも御遠慮はいりません。

ポレツタ (彼の兩手を取りえゝ、實際私もそんな氣がしますのよ。どうい

ふ譯だか分からないけれど、——(感情が高まつて叫ぶやうに)あゝ私たい嬉しくて——たいもう幸福で一度に泣いたり笑つたりしたいやう！あゝ——考へても御覽なさい、とうとう世の中の學問が出来るのですもの。とても私には其の機會が無いのぢやないかと心配してゐたのに。

アルンホルム そんな心配はいらないが、ポレッタさん、此處では是非明らさまに聞かして下さらなくちやならない事があります。それはね——何か繫累があつてあなたを此の土地に引き留めはしないかといふ事です？

ポレッタ 繫累？ いゝえ、何もありません。

アルンホルム 全くありませんか？

ポレッタ はあ、何も。それはね——無論、父は一種の——繫累ですし、ピ

ルダだつてさうですけど、併し——

アルンホルム それはさうでも——お父さんは、どうせ、早いか遅いか、別かれる人でせうし、ビルダさんだつていつかは自分自身の生活の道を歩まれる人でせう、たい時の問題だけです。けれども、其のほかには、何にもあなたを束縛するものはありませんか？ 何か結婚約束といふやうなもの？

ポレッタ いゝえ、そんなものはありません。その事なら、私、何所へでも自由に行けますわ。

アルンホルム それでは、そんな風なら、ポレッタさん——私と一緒にいらつしやい。

ポレッタ (自分の両手を握りしめて) あゝ、私——ほんとうに嬉しうござんすわ！

アルンホルム 一切私を信じて、私をたよりにして下さい。

ポレッタ え、私さうしますわ。

ポレッタ そしてあなたの身の上や將來の事も、すつかり、安心して私に任せて下さるでせうポレッタさん？ さうなすつていゝでせう、え

ポレッタ え、く、無論ですとも！ 極まつてるぢやありませんか？ 疑ぐつてゐらしつて？ あなたは昔の先生ぢやありませんか——昔一度先生になつて頂いたことのある方ぢやありませんか？

アルンホルム そのためばかりで言ふのぢやありませんよ。その方面には、さう重きを置いてゐません。併し——さう——とにかく、あなたが自由だとして——少しも繁累がないとすれば——聞きたいのですがね——あなた其の氣になつて呉れませんか——私と一緒になる氣に——生涯？

ポレッタ (恐れて飛びのき) あゝ——何を仰しやるの？

アルンホルム 生涯ですよ、ポレッタさん。私の妻になつて下さい？

ポレッタ (半ば獨語のやうに) いえ、いえ、いけない！ 出来ない事です！ とても出来ない事！

アルンホルム これがあなたに取つてそんなに出来ない事でせうか——？

ポレッタ あなたの言つてらつしやるのは、そんな意味ぢやないのでせう、アルンホルムさん？ (彼を見て) でなければ——それともあなた、何ですか、私のためにあんなに盡してやらうと仰しやつたのは、其の意味だつたのですか？

アルンホルム まあ、ポレッタさん、落ついて私の言ふことをお聞きなさらなくちやいけない。あなたはびつくりしてお了ひなすつたやう

だ。

ポレッタ だつてこんなお話を——あなたから伺ふのですもの——愕
かすにはゐられませんわ。

アルンホルム そりや御もつともです。無論あなたは御存じないでせ
う——御存じの筈はないが、私が今度出て来たのは、あなたのためだ
つたのですよ。

ポレッタ あなたのこゝへゐらしたのが——私のため？

アルンホルム え、さうですポレッタさん。私はね、此の春お父さんか
らお手紙を貰ひました。——その中の文面で、私は一圖にさう思ひ込
んで了つたのです——ふむ——あなたが元の先生を忘れないで、
——たいの友情といふよりも、少し以上の想ひ出を持つてゐて下さ
るといふ意味にね。

ポレッタ どうしてお父さんが、そんな事を書いたのでせうねえ！

アルンホルム ところが、お父さんのおつもりは、全くそんな意味ぢや
なかつたやうです。けれども私に取つては、いつも心の中で、この土
地にゐる若いお娘さんが、私の歸るのを待つてゐて呉れるといふや
うな考に耽つてゐました——いや、まあ、じつとして聞いてゐて下さ
い、ポレッタさん！それでね——私のやうにもはや青年の活氣の衰
へたものに取つては、今言つたやうに信じたり——想像したりして
見ると——それが非常に強く頭に残るのです。で、あなたに對する
若々しい嬉しい愛情が段々と心の中に生じて来て、是非今一度あな
たに逢ひに来なくちやならないやうに思はれました。そしてあな
たが私に對して持つてゐて下さると思つた感情を、私も持つてゐま
すと言つて了はなくちや濟まないやうな氣がしたのです。

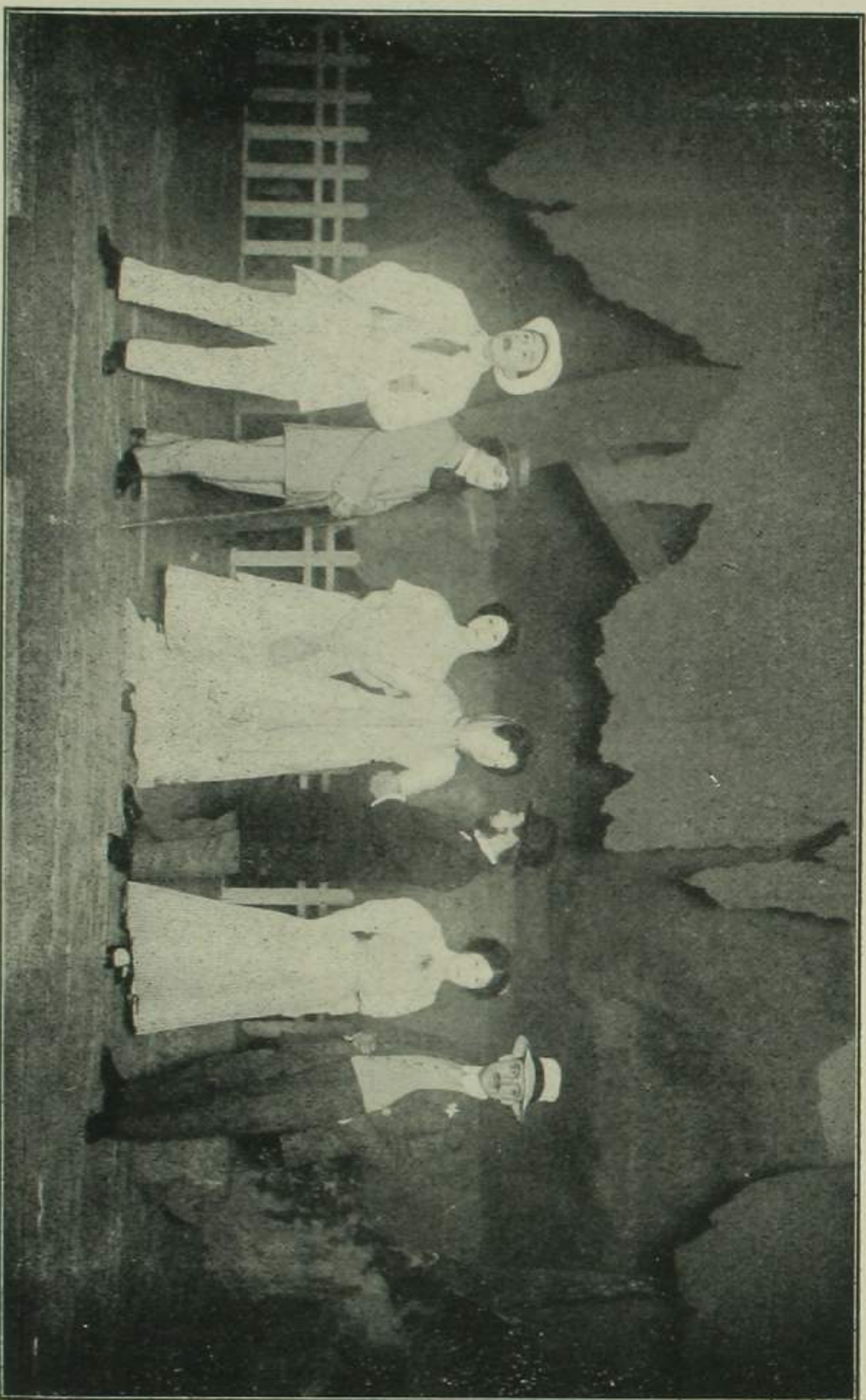
ボレッタ ですけど、もうさうでなかつたと分かつたのですもの！ 間違ひだと分かつたのですもの！

アルンホルム そんな事は構ひません。あなたの姿は——私の心の中に残つて——いつまでも此の行違ひから生じた愛情のために生きて浮んでゐるでせう。あなたにそれは分からないかも知れないが事實さうなのです。

ボレッタ 私、こんな事にならうとは、夢にも思ひませんでした。

アルンホルム けれども、さうなつて見れば——ボレッタさんどうでせう？ さう決心しては下さらないでせうか——私の妻になるやうに？

ボレッタ あゝ、それは迎も出来ない事ですわ、アルンホルムさん。私の先生だつたあなたに！ 先生でない關係で御一緒にならうなんて、私



ボレスレバ、ボツラトスツリ、ダルク、アルホルム、タツレボ、ルゲン、ダーリエ 幕五第

には想像も出来ません。

アルンホルム あゝ分かりました——あなたが本當にそんな事があつても、それは出来ないとお感じなさるのなら——それに置いて私のあなたに對する關係は少しも變らない事にしませう。

ボレッタ と仰しやると？

アルンホルム 勿論私はどんな事があつても、約束した事は變へません。どうにかしてあなたを家から出られるやうにして、世間を見させてあげませう、あなたが本當に望んでゐらつしやるものを學ばせてあげませう、獨立して安全に暮らして行けるやうに。そして其の先の事も、私が困らないやうにしてあげます。私をいつまでも、たしかな、變らない友人だと思つて、たよりにして下さい。決して間違はありません。

ポレッタ あゝ——アルンホルムさん——今ちやもう、そんな事も出来
なくなりました。

アルンホルム それも出来ないのですか？

ポレッタ えゝ、さうお思ひぢやありませんか？あなたがあゝ言つてお
了ひなすつて——私があゝお答へした以上——ねえ、あなたからそ
んな大變な御恩を受け、譯に行かないことは察して下さるでせう
？私、あなたからは一文だつて頂けません、一文だつて、此の後は！

アルンホルム ではあなたは、家に座つてゐて、本當の生活も知らないで
過ごして構はないといふのですね？

ポレッタ あゝ、それを考へると、たまらなくなります！

アルンホルム あなたは世間を見やうといふ望みも打つちやるつもり
ですか？焦れてゐるとおつしやる事に携はる機會を、打つちやるつ

もりですか？世の中にはいろんな事がありますよ——それをあな
たは少しも本當に了解し得ないのであるのですね？考へて御覽なさ
い、ポレッタさん。

ポレッタ さうですく——あなたのおつしやる通りですよ、アルンホ
ルムさん。

アルンホルム その上——お父さんがゐらつしやらなくなれば——あ
なたは、たより無い一人ぼつちにおんななさるかも知れない。恐ら
く他人に身を任せなくちやならない事になつて、——其の人といふ
のも——十中八九は——あなたの氣に入るやうな人ぢやないかも
知れない。

ポレッタ さうですとも——私だつてきつとさうなるだらうといふ事
はよく知つてゐます——あなたのおつしやる通りですよ。けれど

やつぱり——！——それともひよつとしたら、つまりは——

アルンホルム（早口に）はあ！

ボレッタ（半信半疑で見て）ひよとしたら、つまりは、それほど出来ない事でもないかも知れませんか——

アルンホルム 何がですつて？

ボレッタ 私ね——ひよつとしたら——あの——あなたがおつしやつて下すつた事に御同意できるかも知れませんかといふ事。

アルンホルム といふと、ひよつとしたら、あなたが——？少なくとも眞實な友人としてあなたをお助けする幸福を私に許して下さるといふのですか？

ボレッタ いえ、いえ、いえ！決してそんな事ぢやありません！それは到底出来ない事です。いけないの——あなた——それよりか——

私の身をあなたに任せますわ。

アルンホルム ボレッタさん！ではあなた——？

ボレッタ え、——私、さうした方が——いゝと思ひますわ。

アルンホルム 私の妻になつて下さる？

ボレッタ え、あなたがまだ——私でなくちやと思つてゐて下さるなら、

アルンホルム 思つてゐるなら——！（手を取つて）あ、有難う、ボレッタさん、有難う！あなたが言つてらつしやつた——最初の心配は——もつともだと思ひます。若しまだ十分にあなたの情が移らないやうだつたら、私がどんなにも勤めます。あ、ボレッタさん、私、實にうれしいと思ひますよ。

ボレッタ そして私は世間も見られるし、世間の生活にも這入れるし。あなたそれを約束して下すつたわね。

アルンホルム 私、其の約束を守りますよ。

ボレッタ で、私は、何でも望みのまゝに習へますのね。

アルンホルム それから私は昔のやうにあなたの先生になりませう。

あの頃の末のことを想ひ出すと——

ボレッタ (静かにうつとりとして) ねえ、さう思ふと——これで自由な身になつて——知らない世界へ出て行くのですもの！そして將來の事も心配がなくて、どうして喰べて行くかといふやうなみじめな苦勞もいらす——

アルンホルム え、もうそんな事に氣をつかふには及びません。ねえ

ボレッタさん、さうなるとそれもいゝと思ふでせう？

ボレッタ え、よ、御座んすわ。一番いゝ道ですわ。

アルンホルム (腰のまはりに腕をかけて) あゝ、どんなにか私たちの生活

は、穩かな楽しいものになるだらう！そして二人はお互にたよりになり合つて平和に手固くやつて行きますせうね、ボレッタさん！

ボレッタ え、私にも段々それが。——私ほんとうにさう思ひますわ——一緒になつて行かなくちやなりませんわね。(右方を見やり、いそいで身を退いて) あゝ！どうぞ何も言はないでゐて下さいな！

アルンホルム どうしたのです？

ボレッタ あの、かはいさうな人が——(指して)そら、あそこに。

アルンホルム お父さん——？

ボレッタ いゝえ、あの、若い彫刻家よ。ヒルダと一緒にあそこを歩いてゐますわ。

アルンホルム あゝ、リングストランドか。なせ、あれの事を氣にするのです？

ボレッタ あの人のねえ、それや弱くて病身なのですよ。

アルンホルム さうでせうか、それとも自分でそんな風に想像してるのぢやないか？

ボレッタ いゝえ、實際さうなの、もう長くは生きられないのよ。ですけど當人のためには却つてその方がいゝでせうよ。

アルンホルム どうしてそれが當人のためにいゝのでせう？

ボレッタ だつて——だつて、どの道さう大したものがあるの人の腕で出来さうにも思へないからですよ。——さあ、みんな來ないうちに行きませう。

アルンホルム さうしませう。

(ヒルダとリングストランド池の傍に出て来る)

ヒルダ もしく！私どもをお待ち下さる譯にはまゐりませんか？

アルンホルム ボレッタさんと私は一寸お先へ。

(二人左手に出て行く。)

リングストランド (静かに笑つて) これは面白い誰れも彼れも對になつて行きますね。いつも二人づゝで。

ヒルダ (二人を見送り) 私誓つて斷言してやるわ、あの姉さんを愛してゐるのよ。

リングストランド さうでせうか？何かそんな風に思はれる事がありましたか？

ヒルダ えゝえ、さうですとも。それが見えない譯はないぢやありませんか——あなたに眼さへあいてゐれば。

リングストランド 併しボレッタさんはあの方を愛しはしないと思ひますね。きつとさうですよ。

ヒルダ えゝさうよ。姉さんはね、あの人を大變なお爺さんだと思つてゐるのよ。それから今に頭が禿げて了ふだらうと思つてるのよ。

リングストランド いや、私はそんな事だけで言つたのぢやありません。

どちらから見ても、あの方を愛しはなさるまいと思ふのです。

ヒルダ どうしてそれがお分かり？

リングストランド それはね、ポレツタさんが心で忘れまいと約束なすつ

た人が他にあるからです。

ヒルダ たゞ心だけで？

リングストランド えゝ、その人のゐない間は。

ヒルダ あゝ、それはきつと、あなたね、姉さんが心で思つてるといふのは。

リングストランド さうかも知れません。

ヒルダ あなたにそれを約束したの？

リングストランド えゝ考へて見て下さい——姉さんが約束して下さいつたのですよ！併しそんな事を知つてる風なんかしちやいけませんよ。

ヒルダ 心配しなくてもいゝ事よ。私、墓場のやうに沈黙を守つてよ。

リングストランド それはどうも、實にありがたいと思ひますね。

ヒルダ それから、今度あなたが歸つていらつした時は——結婚約束に

なるのですか？ 姉さんと結婚するお積り？

リングストランド いや、それはいけなからうと思ひます。結婚といふこ

とは、私に取つちやまだ三四年問題になりません。それかと言つて

私が一人前になつた頃には、ポレツタさんは、もう少しお婆さんにな

り過ぎて、私に不適當だらうと思ひます。

ヒルダ それであつたあなたにあなたの事を思はせてゐやうと仰しやるの

?

リングストランド え、それが大變私の助けになります、無論美術家としての私にです。それからあの方も別にこれといふ仕事を持つてらつしやるのでないから、そんな事は譯なく出来きます。それで私には實に有りがたいんですから。

ヒルダ ぢや姉さんがあなたの事を此處で思つてるとさへ分かれば、群像彫刻が早く出来上るのですか？

リングストランド はあ、さう思ひます。全體世界のどこかで、若い、美しい無口な女が、誰れにも知らさないで思ひつゞけてゐて呉れるといふ事は——きつと、その——その——。まあ、何と言つていゝか分かりませんがね。

ヒルダ 何でせう——痛快？

リングストランド 痛快ですつて？あ、さうです。痛快です。それとも何かそんなやうなものです。一寸見てゐて、あなたは實に活潑ですねヒルダさん。ほんとうにあなたは活潑です。私が又歸つて來たら、其のころあなたがちやうど、今の姉さんくらゐな年になつてゐらつしやるでせう。きつと今の姉さんと似て來るでせう。それから心持も姉さんと同じやうに發達するでせう。言はゞあなたと姉さんとは——一體のやうになるに違ひありません。

ヒルダ さうなるとあなたは満足して？

リングストランド はつきりは分かりませんが、そんなやうな氣がします。併しねえ——此の夏中は——今のまゝのあなたでゐて欲しいですね——そつくり今のまゝで。

ヒルダ 今のまゝの私が一番お好き？

リングストランド え、それが非常に好きです。

ヒルダ ふむ——ではね——美術家として——あなたは、私がいつも薄^{うす}い夏服^{なつぷく}を着てゐるのをいゝと思つて？

リングストランド はあ、申分なくいゝと思ひますね。

ヒルダ ぢや強い色が私には似合ふのですか？

リングストランド はあ、私の趣味では、美しいと思ひます。

ヒルダ けどねえ、あなた——美術家として——どうお考へなすつて、私が真黒^{まっくろ}の着物を着たら？

リングストランド 真黒の着物ですか、ヒルダさん？

ヒルダ え、全體を真黒にするの。綺麗に見えるでせうか？

リングストランド 真黒の着物は夏には向きませんね。併しさうでさへなければ、黒もきつとあなたに似合ひます。さうです、あなたの柄が

黒に適してゐます。

ヒルダ (前を見つめて) 頸^{くび}まですつかり黒にして、黒い襪^{はた}に——黒い手袋で、長い黒いヴェールを後へ垂れて。

リングストランド あなたがそんな風をなさると、私は畫家になりたくありません。そして憂^{うれ}ひに沈んでゐる若い美しい未亡人を畫^かいて見たくありません。

ヒルダ でなければ、若い娘が結婚約束をした人に死なれて悲^{かな}んでる所をね。

リングストランド え、さうだと、尙よくあなたに似合ひますね。けれども、まさかそんな風がしたいとは思はないでせう？

ヒルダ どうですかねえ、けど痛快ですわ。

リングストランド 痛快？

ホルダ 考へて見ると痛快よ、ねえ(急に左の方を指して)あら、あそこを御覽なさいよ!

リングストランド (示された方を見て)あの大きなイギリス船ですね! 丁度波止場へ着いたのです!

(アングルとエリーダ池の傍に現はる。)

アングル いや、それはたしかだよ、エリーダ、お前が思ひ違ひをしてゐる! (他の人々を見て)おや、二人で此處にゐたのかい? 船はまだ見えな

いやうですね、リングストランドさん?

リングストランド あの大きなイギリス船ですか?

アングル さうです。

リングストランド (指し乍ら)彼處にもう着いてゐますよ。

エリーダ あゝ——! さうだらうと思つた。

アングル もう來てゐる!

リングストランド さうですね、夜盜賊でも忍び込むやうに這入つて來たのですね——こつそりと音もたてないで——

アングル 君は埠頭へヒルダを連れて行つて下さい。急いでね! 音樂を聞きたがつてゐるでせうから。

リングストランド はあ、これから行かうと思つてゐたのです。

アングル 私達も後から行くかも知れません。すぐ行きますよ。

ヒルダ (リングストランドに叫いて)又一組出來たわね。

(二人庭を通つて左手に行く。次の臺詞の間、遠く峽灣の方から音樂の吹奏が聞こえる。)

エリーダ 彼の人が來ました! もうこゝにゐる! さうです、さうです! —私、感じで分ります。

ヅンケル お前は家へ這入つた方がいゝ。私獨りで逢はう。

エリーダ おゝ——そんな事が出来るものですか！出来るものですか！
 （叫んで）あゝ——あなた、あの人が見えますか！

（他國人左手から入り來り垣の外の路に留まる。）

他國人（禮をして）今晚は。さあ、歸つて來たよ、エリーダ。

エリーダ さう、さう、さう——時刻が來たのねえ。

他國人 出發する用意が出來たか？それともまだかい？

ヅンケル 君自身で見たら分かるだらう、あれが仕度をしてゐない事は！

他國人 旅行服だの靴だの、そんなものは、心配するに及ばない。入用なものはずつかり船に用意して置いたからね。船室も一つ取つてある。（エリーダに）では、お前に聞かすが、私と一緒に來る覺悟がついたか

お前自身の自由意志で私と一緒に？

エリーダ（嘆願するやうに）おゝ、聞かないでゐて下さい！私をそんなに誘惑しないで下さい！

（船の鈴が遠くて聞える。）

他國人 さあ、乗り込みの第一鐘が鳴つてゐる。來るか來ないか、すぐ決めなくてはいけない。

エリーダ（自分の兩手を握りしめて）決めなくちやならない！生涯の決定をつけなくちやならない！決めたらそれが最後になる！

他國人それが最後だ。半時間たつともう間にあはないよ。

エリーダ（おづく）と疑はしげに彼を眺めて）一體どうしてさう執こく私に附きまとふのでせう？

他國人 私たち二人はお互に離れられないものだといふことを、お前は

私ほどに感じないのかい？

エリーダ あの約束があるからと言ふのですか？

他國人 約束なんぞで、人が縛られるものぢやない男でも女でも。若し私が執しつこくお前に付きまとふとしたら、それは——それはさうしか出来ないからだ。

エリーダ (顔へ乍ら柔かに) 何故もつと早く来て下さらなかつたのでせう？

ヅンゲル エリーダ！

エリーダ (感情が激して) お——どうしてまあ、斯んなにまで私を誘惑して、むりやり引き入れやうとするのだらう——あの不思議なものの中へ！海の方が残らず一つに集まつて、私の上に押し寄せて来る。

(他國人垣根を乗り越えて来る。)

エリーダ (ヅンゲルの後にすさり) 何うしたのでせう？私をどうしやうといふのですか？

他國人 お前の様子で分かつてゐる——お前の聲で分かつてゐる——お前が最後に選ぶ人は私に違ひない。

ヅンゲル (彼の方に進み出て) 妻はそんな事を選ぶ自由を持つてゐない。私がこゝではあれに代つて選びます、そしてあれを保護してやります。さうだ、保護するのだ！若し君がこゝから——此の國から——二度と歸らないつもりで立ち去らないなら、——どんな目に逢ふと思ふか？

エリーダ いえ、いえ、あなた！それはいけない！

他國人 私を何うしやうといふのです？

ヅンゲル 君を捕縛させる——重罪犯人として！即座に！君が船に乗

り込む前に！私はシヨルドウィックでの殺人罪の事を残らず知つてゐる。

エリーダ まあ、あなた——どうしてそんな事を——？

他國人 私もその手段に訴へられた時の用意をして来た。だから——
(胸のかくしから拳銃を取り出す)——これで身を固めてゐる。

エリーダ (ザンゲルの前に立ち塞がり) いけない、いけない——殺しちやいけない！殺すなら私を殺して下さい！

他國人 お前も其の人も殺しはしない。安心しておいで。これは私自身に用があるのだ。私は自由の人として生きもする死にもする！

エリーダ (次第に激して来て) あなた！私はあなたに言つて置きます——此の人の聞く前で言つて置きます！あなたがこゝへ私を引き留めて置くことの出来るのは、私よく知つてゐます。あなたには其の權

力があります、そして無論それをお用ひなさるでせう！けれど私の心や——考へや——抑へることの出来ない欲望は——あなたに繋ぎとめられるものぢやありません！それがみんな、向ふを慕つて、其の方へ行かうともがいてゐるのですもの——あの向ふにある、不思議なものの方へ——そしてそれが私の家なのです——それをあなたが私の意志に背いてせきとめてお了ひなすつたのです！

ザンゲル (靜かに心苦しげに) それはよく分かつてゐるよ、エリーダ！一步一步お前は私といふものからすりぬけてゐる。その廣大な、無限な手の届かないものに對するお前のあこがれが、——結局お前の心を闇の中へ追ひ込んで了ふだらう。

エリーダ さうですよ、さうですよ——私もそれを感じるの——そうつと私の上に掩ひかぶさつて飛んでゐる、眞黒な翼のやうに。

ザンケル では、それをそこまで行かせちゃならない。それかと言つて他にはもうお前を救ふ道はない少なくとも私にはさうだ。だから——だから——私は——私は此の場で私たちの取引を破つて了ふ。さあ、それでお前は、今こそお前自身の道を選ぶことが出来る——完全な——完全な自由で。

エリーダ (口も利き得ないやうに少時見つめてゐて) それは本當ですか——本當ですか——其の言葉は？それをあなたは——本當の心の底からおつしやるの？

ザンケル さうだこの苦しい胸の、本當の奥底から、私はさう言ふよ。

エリーダ そして、あなたにそれが出来ますか？其の目的が實行されるでせうか？

ザンケル あゝ、出来るよ。私はやるよ——それもつまり、お前を深く深

く愛してゐるからさ。

エリーダ (頭へながら柔かに) そんなに深く——そんなに優しく、私を愛するやうになつて下すつたのね、あなたは——。

ザンケル 一緒になつてからの年月がそれを私に教へて呉れた。

エリーダ (自分の両手を握つて) それで私は——私はちつともそれを知らなかつた！

ザンケル お前の考へは他へ向いてゐたのだ。けれども今——今お前は私からも、私の家からも全く自由になつた。こゝでお前自身の本當の生活が——今一度正しい道に戻るだらう。今こそお前は自由に選ぶことが出来る、お前自身の責任でな、エリーダや。

エリーダ (両手で頭を握み、ザンケルの方をぢつと見つめて) 自由に——そして私自身の責任で？責任もですか？——それで、何もかもみんな變つ

て了ふ！

(汽船の鈴がまた鳴る)

他國人 聞こえるかいエリーダ？最後の鐘が鳴つてゐるよ。行かうか。
エリーダ (彼の方に向き、ちつと見て、決心の聲で言ふ) もう決して行かない、斯うなつた以上、もう決してあなたと一緒にには行かない。

他國人 行かないか？

エリーダ (アングルに取りついて) おゝ——此の上は、私、決してあなたを棄てません！

アングル エリーダ——エリーダ！

他國人 ではそれが最後かい？

エリーダ さうです！これが永久の最後！

他國人 さうのやうだ。何か私の意志よりも一層強いものが出て来た

のだ。

エリーダ あなたの意志はもう私に取つて羽ほどの重みもない。私に取つちや、あなたは死んだ人です。それが海から歸つて来て——そしてまた海へ歸つて行く。けれど、もう——私は、あなたを物凄いととは思はない。もう私を誘惑する力はなくなつたのです。

他國人 左様なら、アングルの奥さん！(垣を乗り越越える)此の後あなたはどう、私に取つちや何でもない——たゞ私の生涯で通りかゝつた一つの難船に過ぎない。

(左方に去る)

アングル (少時妻の顔を見つめて) エリーダ——お前の心は海のやうだ、その中には潮の満干がある。一體何がお前を一變させたのだらう？
エリーダ あゝ、あなたに分かりませんか？私の心が變つたのは——變

らなくちやならなかつたのは——私が自由に選ぶことが出来たか
らですよ。

二六〇

ザンケル それからあの不思議なもの——あれはもうお前を誘惑しな
くなつたか？

エリーダ もう誘惑もしなければ、恐ろしくもなくなりました。望みな
ら其の中^{なか}まで見通して——這入つて行くことも出来るやうになり
ました。自由に選ぶことが出来るから、それで自由に断^{ことば}ることも出
来たのです。

ザンケル お前が分かりかけて来たよ——段々と。お前はそれを幻^{まぼろし}に
して考へてゐるのだ——目に見えるやうに描いてゐるのだ。お前
の海に對するあこがれや——あの他國人からの誘惑は——つまり
段々とお前の心の中に目ざめて来る自由の要求が姿をかへて現は

れたのだ——たゞそれだけの事だよ。

エリーダ あゝ、私、何と言つていゝか知らないけれど、あなたは私のため
にいゝお医者さまでした。いい薬を見つけて、それを思ひ切つてお
用ひなすつたのです——私のためにはたつた一つの良薬でした。

ザンケル さうだ、愈危篤といふ間際になると、我々医者は随分大膽なこ
ともするが、兎に角これでお前はまた私の手に歸るのだね、さうぢや
ないか、エリーダや？

エリーダ えゝ、あなた、ありがたう——これでまたあなたの手に歸るの
ですわ、本當に歸ることが出来るのですわ、自由に——私自身の意志
と——私自身の責任とで歸るのですから。

ザンケル (優しくエリーダを見て) エリーダ！エリーダ！あゝ——これで
私達二人は全く一心同體になることが出来るのだと思ふと——

エリーダ ——そして、どんな思ひ出も二人一緒にするやうになつて、あなたのも——私のも同じやうになるでせう。

ザンケル あゝ、みんな共にするやうにならなくちや、エリーダ！

エリーダ それから、私達の子供二人も、ねえ——

ザンケル 私たちの？お前あれらの事をさう言つて呉れるか！

エリーダ まだ私のぢやありませんけれど——今にさうして見せます。

ザンケル 私達の！（喜ばしさうに急にエリーダの両手に接吻する）あゝ、その言葉が私に何よりもうれしいよ。

（ヘルダ、プレステッド、リングストランド、アルンホルム及ボレツタ左方から庭に入り来る。）

（同時に町の若い人々及避暑客等路を通り過ぎる。）

ヘルダ（リングストランドに、半ば聲高に）御覽なさいよ、——あれとお父さん

と一對になつて、何だか結婚約束でもした人のやうよ！

プレステッド（それを立聞いて）夏ですからね、お嬢さん。

アルンホルム（ザンケルとエリーダの方を見て）イギリス船が出て行きますよ。

ボレツタ（垣根の所に行き）此處からが一番よく見えます。

リングストランド これが此の夏の最後の航海ですね。

プレステッド「やがて海峡は見渡す限り氷にとざゝれん」さ、詩人が言つてる通りだ。寂しい感じですね、奥さん！その上、あなたもしばらく

こちらにいらつしやらなくなるといふぢやありませんか。明日シヨ

ルドヴキツクへお立ちなさいますか、さうですか？

ザンケル いや——その計畫は破れましたよ。今夜私たち二人は考へを變へました。

アルンホルム（二人を次々に見廻して）あゝ——さうですか！

ホレツタ (進み出て) お父さん——それは本當ですか？

ヒルダ (エリーダの方に行きでは、やつぱり私たちと一緒にゐて下さるの？)

エリーダ 然、ヒルダや——お前さへよければね。

ヒルダ (涙と悦びの間にもだへて) あ——私さへよければだつて——！
アルンホルム (エリーダに) これは實に意外ですね。

エリーダ (重々しく微笑して) はあ、それはね、アルンホルムさん——。あなた、昨日話した事をおぼえてゐらつしやいますか？ 一度陸の動物になつたら最後——また海へ歸るといふことは容易ぢやありません。海の生活に歸るといふことも容易ぢやありません。

パレストッド おや、それは、すつかり私が晝いてる人魚と同じことですね？

エリーダ え、同じですよ。

パレストッド 唯これだけの違ひでせう、人魚は——そのために死んで了ふが、人間は其の反對に、アツクラム——アツクリマタイズして行きます。さうです、奥さん、人間は、同化して行くことが出来るのですよ。

エリーダ はあ、自由があればそれが出来るのですね、パレストッドさん。アングル それから自分自身の責任でねえ、エリーダ。

エリーダ (手を差し出して早口に) さうです——それが一番大事ですわねえ。

(大きな汽船が音もなく峽灣を迂り下る。音楽の海岸に近づくのが聞こえる)

幕

發行所

東京市牛込區
早稻田

早稻田大學出版部
(振替口座東京一三三三番)

複製 不許

印刷者

竹内喜太郎

發行者

種村宗八

譯者

島村瀧太郎

大大大大大大
正正正正正正
十十十十八三三三
五三一八三三三
年年年年年年
四二三三八八二二
月月月月月月
廿二二 二十二
十 十
五十五八五
日日日日日日
七六五四三再發印
版版版版版版行刷

海の夫人

正價金壹圓五拾錢

世界の歴史を震撼する！
世界的名著

- ▼ 驚くべき魅力を以て世界を風靡しつゝある現代第一の名著
- ▼ あらゆる階級あらゆる職業の人々に適當せる萬人の教科書
- ▼ 坪内博士があつたこれこそだと激賞された斬新な歴史讀本
- ▼ 文明の誕生以來五千年に涉つた我等が祖先の苦闘の血涙史
- ▼ 讀み易く分り易く記憶し易く原著者自筆の功妙な挿畫滿載
- ▼ 世界各國の風俗習慣や大事件を一目で知らせる一大畫報
- ▼ 小學上級生、中學生、女學生の此上なく喜ぶ理想的課外讀本

世界文明史物語

菊判七百七十頁
定價四圓八拾錢
郵稅拾八錢

坪内逍遙博士推薦 美麗な彩色繪三十枚、挿畫百箇 理想的美本
前田晁譯 破天荒廉價
ヴァン・ルーン著 繪て出來た世界年表、便利な索引

東京 振替 部版出學大田稻早 京東 込牛
三二一一 〇〇九八六 〇〇九八六 〇〇九八六

大賣捌所

東京	東京	東京	東京	東京
神田	京橋	京橋	京橋	京橋
北	東	盛	大	名
隆	海	文	阪	古
館	堂	野	屋	屋
堂	館	書	市	市
堂	堂	店		

(肆書地各他其)

市島謙吉(春城)著 (新山陽傳)

隨筆 賴山陽

三六版七百頁
寫真多數入美本
定價貳圓八拾錢
郵稅拾貳錢

賴山陽通を以つて斯界に名ある著者は、其四十年蒐集の哀然たる材料を傾けて、本書を著すに至つた。世には山陽の事蹟に關する圖書が多く出てゐるが、それ等に漏れた事實が餘りに多くある、本書は主としてそれを補はん爲めに生れたのである。現に七百頁に垂んとする本書の内容は其七分まで從來の成書に全くない新材料で書かれてゐる、そこに著者の努力があり、亦そこに本書の特徴がある、乃ち本書は新山陽傳と見るべきもので、殊に隨筆體に平易に面白く、主として側面を寫してゐるから讀者をして卷を釋く能はざらしむる妙がある。

東京 東振古 牛一三 早稲田大學出版部

—(成完(卷六)部全)—

イブセン傑作集

四六判布製函入
每册口繪數葉入
全部五十六錢
各冊各十錢

- 1 島村抱月譯 人形の家
- 2 島村抱月譯 海の夫人
- 3 坪内士行譯 野鴨
- 4 坪内士行譯 小さいアイヨルフ
- 5 坪内士行譯 野鴨
- 6 坪内士行譯 ヘツダ・カブラー

北歐ノルエーの僻地に生れ社會劇の大作を出して歐米の思想界を震撼したのはイブセンである。婦人の自覺、婦人の解放、婦人の獨立を題材とした「人形の家」が本譯書に依て屢々我が劇壇に演ぜられて女大學主義の守舊家を戦慄させた事は誰も知つてゐる。彼の作は何れも傑作ならぬは無いが茲に譯出した六作は傑作中の傑作である。而して譯者は我劇壇文壇に隠れもない島村抱月、坪内士行の兩氏及び島村民藏氏であるから其譯筆の如何は言ふに及ばぬ。

發行所 東京牛込 早稻田大學出版部

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

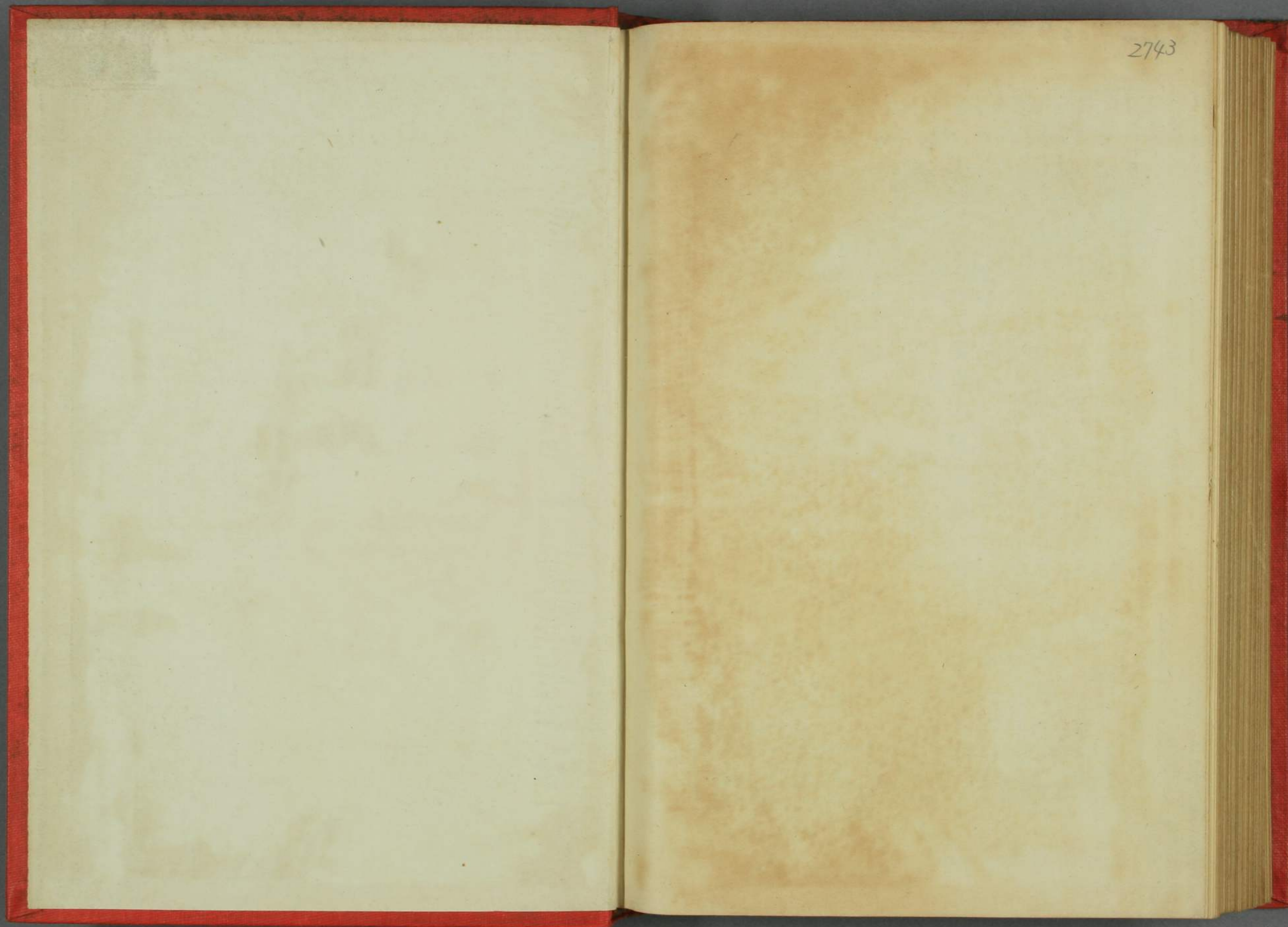
沙 翁 傑 作 集

四 六 判 美 裝 口 繪 及 挿 畫 多 數 各 圖 五 拾 錢 郵 稅 十 二 錢

21	19	17	15	13	11	9	7	5	3	1
戀の骨折ぞん	コリオレーナス	老やく馬馴らし	ヘンリー四世(三部)	リチャード三世	以尺報尺	眞夏の夜の夢	テムペスト	ジュリアス・シーザー	オセロ	ハムレット
22	20	18	16	14	12	10	8	6	4	2
リチャード二世	シムベリン	十ニ夜	お氣に召すまゝ	ヘンリー四世(二部)	冬の夜ばなし	マクベス	アントニーとクレオパトラ	ゼニス <small>の商人</small>	リヤ王	ロミオとジュリエット

早 稻 田 大 學 出 版 部

東 京 牛 込 區 早 稲 田 大 學 出 版 部
東 京 牛 込 區 早 稲 田 大 學 出 版 部
東 京 牛 込 區 早 稲 田 大 學 出 版 部



2743